第１柔整学科・第２柔整学科　授業科目一覧表

教育内容		授業科目	授業形態	時間数	必修単位	実務経験のある教員による授業科目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	自然科学	講義	30	2	
		健康とスポーツ	講義	30	2	
		情報処理	講義	30	2	
		外国語	講義	30	2	
		健康指導法	講義	30	2	
		食と健康	講義	30	2	
		心理学	講義	30	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	講義	30	1	
		解剖学Ⅱ	講義	30	1	
		解剖学Ⅲ－１	講義	30	1	
		解剖学Ⅲ－２	講義	30	1	
		解剖学Ⅳ	講義	30	1	
		解剖学Ⅴ	講義	30	1	
		解剖学Ⅵ	講義	30	1	
		体表解剖学	講義	30	1	
		局所解剖学	講義	30	1	
		生理学Ⅰ－１	講義	30	1	
		生理学Ⅰ－２	講義	30	1	
		生理学Ⅱ－１	講義	30	1	
		生理学Ⅱ－２	講義	30	1	
		応用生理学	講義	30	1	
		運動学	講義	30	1	
	疾病と障害	病理学概論Ⅰ	講義	30	1	
		病理学概論Ⅱ	講義	30	1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅰ	講義	30	1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ	講義	30	1	
		一般臨床医学Ⅰ	講義	30	1	
		一般臨床医学Ⅱ	講義	30	1	
		運動傷害学概論	講義	30	1	
		高齢者傷害学概論	講義	30	1	
		外科学概論Ⅰ	講義	30	1	
		外科学概論Ⅱ	講義	30	1	
		リハビリテーション概論	講義	30	1	
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	講義	30	2	
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道Ⅰ	実習	30	1	
		柔道Ⅱ－１	実習	30	1	
		柔道Ⅱ－２	実習	30	1	
		柔道Ⅲ	実習	30	1	
		職業倫理	講義	30	1	
		関係法規	講義	30	2	
		臨床コミュニケーション論	講義	30	1	
	社会保障制度	社会保障制度	講義	30	1	
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅱ	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅲ－１	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅲ－２	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅲ－３	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅲ－４	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅲ－５	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅳ－１	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅳ－２	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅴ－１	講義	30	1	●
		基礎柔道整復学Ⅴ－２	講義	30	1	●
	臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅱ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅲ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅳ－１	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅳ－２	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅴ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅵ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅶ	講義	30	1	●
		臨床柔道整復学Ⅷ	講義	30	1	●
		総合柔道整復学Ⅰ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅱ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅲ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅳ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅴ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅵ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅶ	講義	30	1	
		総合柔道整復学Ⅷ	講義	30	1	
	柔道整復実技	基礎柔道整復実技Ⅰ－１	実習	30	1	●
		基礎柔道整復実技Ⅰ－２	実習	30	1	●
		基礎柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1	●
		基礎柔道整復実技Ⅲ－１	実習	30	1	●
		基礎柔道整復実技Ⅲ－２	実習	30	1	●
		基礎柔道整復実技Ⅳ	実習	30	1	●
		基礎柔道整復実技Ⅴ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅰ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅲ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅳ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅴ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅵ	実習	30	1	●
		臨床柔道整復実技Ⅶ	実習	30	1	●
		伝承柔道整復実技	実習	30	1	●
		総合柔道整復実技Ⅰ	実習	30	1	
		総合柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅱ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅲ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅳ	実習	45	1	●
合　　計				2,790	100	1,230単位時間

指定規則外 自由選択科目	インターンシップ実習Ⅰ	実習	40	1	
	インターンシップ実習Ⅱ	実習	40	1	
	インターンシップ実習Ⅲ	実習	40	1	
	インターンシップ実習Ⅳ	実習	40	1	

科目名	自然科学	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	今井　清博	E-mail		実施時期	１年　　前期		

授業の目的

自然科学では、自然環境の中で活動する人体の解剖生理学の基礎、すなわち人体の構造を細胞から個体までの階層構造の中で理解し、各階層の構造に支えられる機能発現の機序を理解することを目的とします。

到達目標

自己が生きて活動している仕組みを細胞から始めて身体全体にわたり、各階層の構造を基礎にして理解し、説明できる。

授業の内容

人体構造の基礎、細胞の構造と機能、細胞分裂、発生、遺伝子、物質・エネルギー代謝、体液の物理化学、ホメオスタシス、組織の種類、器官・器官系、主要な神経経路と循環経路、胎児の循環、体表・局所解剖などを、配布する資料ならびにパワーポイントを用いて説明する。毎回、最後に「今日の問題」を解答させて理解を深める。

注意事項

１．解剖学と生理学は医学の学問大系で双璧をなす最も基礎的で重要な分野である。病理学、薬学、遺伝学、衛生学、各臨床医学などは解剖・生理学から派生して発展したことを念頭において、しっかり学んで欲しい。
２．解剖学と生理学の個々の項目は相互に関連し、積み木のように構築されるので、途中で落伍しないよう、疑問が生じた際は遠慮無く積極的に質問すること。質問はフィードバックされて新しい積み木を重ねることになる。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

テキストは指定しないが、毎回資料（プリント）を配布する。

参考文献・図書

栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　第 3 版、羊土社、2020 年

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、人体構造の基礎 解剖学用語、人体の方向と位置、人体の区分、階層構造、細胞から個体へ、について学ぶ	個体の成り立ちを復習する
	到達目標	個体の成り立ちを説明できる	
2	授業内容	細胞の構造と機能 1 細胞の構造、細胞小器官、細胞膜について学ぶ	細胞について予習しておく 細胞の仕組みを復習する
	到達目標	細胞の仕組みを説明できる	
3	授業内容	細胞の構造と機能 2 染色体、細胞分裂について学ぶ	細胞について予習しておく 染色体・細胞分裂を復習する
	到達目標	遺伝子の動向を説明できる	
4	授業内容	遺伝情報とその発現 核酸、遺伝情報、蛋白質合成について学ぶ	遺伝子を予習しておく 遺伝情報の発現、タンパク質合成を復習する
	到達目標	遺伝情報の発現とタンパク質合成を説明できる	
5	授業内容	人体の発生 生殖細胞、受精、初期発生について学ぶ	細胞分裂について予習しておく 靭帯の発生を復習する
	到達目標	生殖細胞の振る舞いから新しい生命発生を説明できる	
6	授業内容	物理化学的基礎 濃度、拡散、受動・能動輸送、膜輸送について学ぶ	物理現象について予習しておく 細胞における物理化学現象を復習する
	到達目標	細胞の機能を支える物理化学的現象を説明できる	
7	授業内容	物質・エネルギー代謝 同化と異化、細胞呼吸について学ぶ	代謝について予習しておく エネルギー生成機構を復習する
	到達目標	エネルギー生成機構を説明できる	
8	授業内容	体液 区分、ｐH、浸透圧、体液量、浮腫、脱水について学ぶ	体液について予習しておく 体液の組成・機能を復習する
	到達目標	体液の組成や機能を説明できる	
9	授業内容	ホメオスタシス 内部環境、外部環境、調節機序について学ぶ	生体の調節機構を予習しておく ホメオスタシスを復習する
	到達目標	生理学の基本概念であるホメオスタシスを説明できる	
10	授業内容	組織 組織の種類と特性について学ぶ	組織について予習しておく 組織の分類・機能を復習する
	到達目標	組織の分類・機能を説明できる	
11	授業内容	器官・器官系 器官・器官系の種類と特性	器官・器官系を予習しておく 器官・器官系の種類・特性を復習する
	到達目標	器官と個体の構成を説明できる	
12	授業内容	血管・神経 主要な血管・神経の経路について学ぶ	血管・神経について予習しておく 血管・神経の走行・分布・名称を復習する
	到達目標	血管・神経の走行・分布と名称を説明できる	
13	授業内容	胎児の循環 胎盤の構造と機能、臍帯について学ぶ	胎児について予習しておく 胎児の構造と胎児循環を復習する
	到達目標	胎児の循環を母体の循環の違いを説明できる	
14	授業内容	体表・局所解剖 体表の区分、浅層の骨と筋について学ぶ	ここまで学習した触知可能な部位を予習しておく 体表・局所解剖を復習する
	到達目標	触知可能な骨や筋の分布を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	健康とスポーツ	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	岩内　和也	E-mail		実施時期	１年　　前期		

授業の目的
人間の身体活動を支える栄養素に関する基礎的理解をはかると共に、生命活動と密接に関わる各種栄養素について学習することを目的とする。また、スポーツについてはフットサル（サッカー）を通して、技術の向上、身体を調整しながら動かず能力の向上を図ると共に、身体を動かす楽しさや仲間と協力することの大切さを学ぶ。
到達目標
生命活動と密接に関わる各種栄養素について考察し、実践的な食事へ反映させることができるようになる。 スポーツについては教員の説明を理解し、行動することができる。
授業の内容
人間の身体活動の基礎となる各種栄養素について解説する。生活に密着した食事内容や水分補給、サプリメントの知識等を扱うこととする。スポーツについては教員が実演を行いながら口頭で説明する。
注意事項
医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。 教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
成績評価
授業時数の 3 分の 2 以上出席したものを評価対象とします。 評価は筆記試験（50%）、技能・意欲・態度（50%）にて行います。
テキスト
プリント配布
参考文献・図書
栄養の基礎がわかる図解辞典　成美堂出版
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 栄養学の基礎について学ぶ	栄養について予習しておく
	到達目標	栄養学の基礎を説明できる	
2	授業内容	三大栄養素 炭水化物・たんぱく質・脂質について学ぶ	三大栄養素について復習しておく
	到達目標	三大栄養素を説明できる	
3	授業内容	その他の栄養素 ビタミン・ミネラル・食物繊維・水について学ぶ	その他の栄養素について復習しておく
	到達目標	その他の栄養素を説明できる	
4	授業内容	日本人の栄養摂取基準 バランスガイドを利用した栄養摂取基準について学ぶ	栄養摂取基準について復習しておく
	到達目標	栄養摂取基準を説明できる	
5	授業内容	運動時の栄養 運動時の栄養について学ぶ	運動時の栄養について復習しておく
	到達目標	運動時の栄養を説明できる	
6	授業内容	疾病時の栄養 疾病時の栄養について学ぶ	疾病時の栄養について復習しておく
	到達目標	疾病時の栄養を説明できる	
7	授業内容	減増量時の食事、栄養補助食品 減増量時の食事、栄養補助食品について学ぶ	減増量時の食事について復習しておく
	到達目標	減増量時の食事を説明できる	
8	授業内容	まとめ1(評価を含む) 本講義の内容を確認・復習する	本講義の内容について復習しておく
	到達目標	本講義の内容を説明できる	
9	授業内容	フットサル	フットサルについて予習しておく
	到達目標	本講義に学習した技術について実施することができる	
10	授業内容	フットサル	フットサルコートについて予習しておく
	到達目標	本講義に学習した技術について実施することができる	
11	授業内容	フットサル	フットサルのルールについて予習しておく
	到達目標	本講義に学習した技術について実施することができる	
12	授業内容	フットサル	フットサルのパスについて予習しておく
	到達目標	本講義に学習した技術について実施することができる	
13	授業内容	フットサル	フットサルのシュートについて予習しておく
	到達目標	本講義に学習した技術について実施することができる	
14	授業内容	フットサル	フットサルの戦術について予習しておく
	到達目標	本講義に学習した技術について実施することができる	
15	授業内容	まとめ2(評価を含む) 本講義で学んだ内容を確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	情報処理	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	岡本　芳幸	E-mail		実施時期	１年　　前期		

授業の目的

近年、情報技術（IoT）の発達により、医療の分野でも電子カルテや保健医療情報システムの構築、またインターネットホームページの利用が話題となっています。また、一般企業においても、就職時の必須技能としてワープロや表計算ソフトを用いた文章作成が要求されています。

そこで、本授業ではコンピューターの基本を理解し、iPad を用い日常的に利用するインターネット・ワープロ表計算等の理解を深め、セキュリティーの知識をつけることなど IoT 技術の基礎を習得することを目的とします。

到達目標

iPad を用いて、テーマに沿ったインターネットからの情報収集ができ、その情報から文書作成、グラフ作成、プレゼンテーション書類作成ができる。

授業の内容

授業形態は「講義」ですが、実際の機器操作を行わなければ理解しがたい部分もあるため、iPad を用いて授業を行います。また、iPad の習熟度には個人差が大きい為、授業レベルは原則として初学者を基準とします。授業内容は概ね以下の通りです。

１）　IoT 基本用語解説
２）　日本語の入力方法の習得
３）　Web 検索法
４）　ワープロソフトの使い方（基本～応用 Word Pages）
５）　表計算ソフトの使い方（基礎～応用 Excel Numbers）
６）　スライド作成ソフトの使い方（基礎～応用 PowerPoint Keynote）

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。
※教室内は一つの社会です。私語ほか、他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

出席点と最終日に行う課題作成を持って評価します。ただし、講義の規定出席日数（３分の２）に満たない者は、課題作成の評価を行いません。出席点のみでは、単位を取得できませんので十分注意してください。

テキスト

PDF を事前配布します。

参考文献・図書

Web 検索にて iPad 関連の情報を参照。

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション IoT 関連用語の解説について学ぶ	理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	授業で解説した用語を説明できる	
2	授業内容	iPad の使用方法 1 iPad の日本語入力・辞書と多言語対応について学ぶ	iPad の文字入力法を腰周しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	iPad での日本語入力を説明できる	
3	授業内容	iPad の使用方法 2 Web 検索法について学ぶ	iPad の文字入力法を予習しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	多彩な検索オプションを使い Web から情報収集できる	
4	授業内容	iPad の使用方法 3 iPadOS 13.0 のインストールと操作解説	iPad の事前インストールを予習しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	iPad OS の新機能を説明できる	
5	授業内容	Word 基礎編 書式や段落等を学び基本的文書を作成する	Web での Word の基本情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	書式や段落等を理解し基本的文書を作成できる	
6	授業内容	Word 応用編 表や写真、段組等を学び応用的文書を作成する	Web での Word の応用情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	表や写真、段組等を理解し応用的文書を作成できる	
7	授業内容	Pages 解説 Word と Pages の違いを学び書類を作成	Web での Pages の基本情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	Word と Pages の違いを理解し書類を作成できる	
8	授業内容	Excel 基礎編 データ入力や書式設定等を学び基本的文書を作成する	Web での Excel の基本情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	データ入力や書式設定等を理解し基本的文書を作成できる	
9	授業内容	Excel 応用編 シート機能やグラフ等を学び応用的文書を作成する	Web での Excel の応用情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	シート機能やグラフ等を理解し応用的文書を作成できる	
10	授業内容	Numbers 解説編 Excel と Numbers の違いを学び書類を作成する	Web での Numbers の基本情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	Excel と Numbers の違いを理解し書類を作成できる	
11	授業内容	PowerPoint 基礎編 書式や段落、マスターを学び基本的文書を作成する	Web での PowerPoint の基本情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	書式や段落、マスターを理解し基本的文書を作成できる	
12	授業内容	PowerPoint 応用編 アニメーションや動画を用い応用的文書を作成する	Web での PowerPoint の応用情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	アニメーションや動画を用い応用的文書を作成できる	
13	授業内容	Keynote 解説編 PowerPoint と Keynote の違いを学び書類を作成する	Web での Keynote の基本情報を検索しておく 理解度 PDF 作成し提出する
	到達目標	PowerPoint と Keynote の違いを理解し書類を作成できる	
14	授業内容	課題作成の説明と作成スキルの向上 課題作成に必要な素材収集とレイアウトを作成する	各文書作成法のおさらいをしておく 課題文書の草案を作成する
	到達目標	課題作成に必要な素材収集とレイアウトを作成できる	
15	授業内容	まとめ(課題作成) A4 一枚相当の課題文書を作成する	
	到達目標	効率よくデザイン性のある文書を作成できる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	外国語	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	横田　良聡	E-mail		実施時期	１年　　前期		

授業の目的
基礎英単語や医療で用いられる用語を中心に、英語の理解を深めることを目的とします。
到達目標
医療系英単語を理解し、応用することができる。
授業の内容
１．医学用語（英語）を中心に講義を行う。 ２．英語でコミュニケーション（ペア）を行う。 ３．毎回確認テストを行う。
注意事項
この授業は講義中心ですが、ペアで活動してもらうことがあります。積極的に参加してください。 授業を無断で退出・早退した場合や授業参加をしていない場合は、「欠席」となります。
成績評価
出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。
テキスト
参考文献・図書
鍼灸師・柔整師のための医学英語　　中村清・中村辰三　医道の日本
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 医学英単語・人体各部の名称・医療機関・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・医療機関の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・医療機関の単語がわかる	
2	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・医療機関・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・医療機関の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・医療機関の単語がわかる	
3	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・医療機関・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・医療機関の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・医療機関の単語がわかる	
4	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・鍼灸柔整用語がわかる	
5	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・鍼灸柔整用語がわかる	
6	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・鍼灸柔整用語がわかる	
7	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・鍼灸柔整用語がわかる	
8	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・鍼灸・柔整用語の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・鍼灸柔整用語がわかる	
9	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・病気・疾患・英会話について学ぶについて学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・病気・疾患の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・病気・疾患がわかる	
10	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・病気・疾患・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・病気・疾患の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・病気・疾患がわかる	
11	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・病気・疾患・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・病気・疾患の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・病気・疾患がわかる	
12	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・検査・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・検査の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・検査がわかる	
13	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・検査・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・検査の単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・検査がわかる	
14	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・カルテ・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・カルテの単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・カルテがわかる	
15	授業内容	医学英単語・人体各部の名称・カルテ・英会話について学ぶ	医学英単語・人体各部の名称・カルテの単語を復習しておく
	到達目標	医学英単語と人体各部の名称・カルテがわかる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	健康指導法	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	岩内　和也	E-mail		実施時期	2 年　後期		

授業の目的
スポーツの意義と価値、体力・トレーニング理論、コーチングなど、スポーツ全般に関する認識を深めることを目的とする。
到達目標
スポーツの意義と価値、体力・トレーニング理論、コーチングなど、スポーツ全般に関する認識を深めるとともに、ライフステージに応じたスポーツの考え方、取り組み方を身につけ、健康社会の実現に寄与し、また個々人の健康課題の改善やスポーツライフスタイルの確立に貢献できる医療人となることを目標とする。
授業の内容
アスレチックトレーナーに必要となる、スポーツの意義と価値、体力・トレーニング理論、コーチング学などを学びます。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
成績評価
【評価について】 授業時数の３分の２以上出席したものを評価対象とします。 評価は期末試験（筆記試験）にて行います。
テキスト
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	スポーツとは	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	スポーツの起源、スポーツの意義と価値を説明できる	
2	授業内容	体力とトレーニング理論	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	体力の分類とトレーニング理論、筋肉の特徴と働きを説明できる	
3	授業内容	スポーツ指導者とは	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	スポーツ指導者の心構え、スポーツ指導法を説明できる	
4	授業内容	コーチングとは	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	コーチングとは何か、コーチングの目的を説明できる	
5	授業内容	ジュニア期のスポーツ指導①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	発育と発達、発育期の体格と体力、発達に応じたコーチングを説明できる	
6	授業内容	ジュニア期のスポーツ指導②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	動きの発達…機序と特徴、心の発達…認知的発達、社会的発達とスポーツの関係を説明できる	
7	授業内容	思春期・青年期のスポーツ指導①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	レクリェーションスポーツと競技スポーツ、思春期・青年期に必要な体力要素を説明できる	
8	授業内容	思春期・青年期のスポーツ指導②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	思春期・青年期に必要なトレーニング、実施上の留意点を説明できる	
9	授業内容	中高齢者のスポーツ指導①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	中高齢者のスポーツの現状、加齢にともなう身体の衰え、中高齢者に必要な体力要素を説明できる	
10	授業内容	中高齢者のスポーツ指導②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	中高齢者に必要なトレーニング、医療との連携、実施上の留意点を説明できる	
11	授業内容	女性とスポーツ①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	女性の身体的・体力的特徴、スポーツに関わって起こる女性特有の諸問題を説明できる	
12	授業内容	女性とスポーツ②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	スポーツを実施する上での留意点、月経とコンディショニングを説明できる	
13	授業内容	障害者とスポーツ①	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	生涯・病気とは、障害とスポーツ、リハビリテーションとハビリテーションを説明できる	
14	授業内容	障害者とスポーツ②	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	障害者に可能なトレーニング、医療との連携、実施上の留意点、障害者スポーツの歴史を説明できる	
15	授業内容	まとめ	配布プリントで授業内容を確認する。
	到達目標	健康社会の実現、スポーツライフスタイルの確立、スポーツ文化の構築、スポーツをみんなのものにを説明できる	

【授業シラバス】

科目名	食と健康	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	桑原　彩 和辻　直	E-mail		実施時期	2 年前期		

授業の目的

人間の身体活動を支える栄養素に関する基礎的理解をはかると共に、生命活動と密接に関わる各種栄養素について考察し、さらに実践的な食事へ反映させることができるようになる。

到達目標

人間の身体活動を支える栄養素について理解することができる

授業の内容

人間の身体活動の基礎となる各種栄養素について解説する。生活に密着した食事内容や水分補給、サプリメントの知識等を扱うこととする。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。
※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

【評価について】

授業時数の３分の２以上出席したものを評価対象とします。

評価は期末試験（筆記試験）にて行います。

テキスト

プリント配布

参考文献・図書

「栄養の基礎がわかる図解辞典」　成美堂出版
「栄養科学ＮＥＸＴシリーズスポーツ・運動栄養学（第３版）」加藤秀夫／中坊幸弘／中村亜紀編
「スポーツ栄養学」　田中紀子／平野直美　編　　（化学同人）

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	栄養学の基礎	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	栄養学の基礎が説明できる。	
2	授業内容	栄養素の働き（糖質）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	糖質の働きが説明できる。	
3	授業内容	栄養素の働き（脂質）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	脂質働きが説明できる。	
4	授業内容	栄養素の働き（たんぱく質）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	たんぱく質の働きが説明できる。	
5	授業内容	栄養素の働き（ビタミン）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ビタミンの働きが説明できる。	
6	授業内容	栄養素の働き（ビタミン）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ビタミンの働きが説明できる。	
7	授業内容	水分補給	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	水分補給について説明できる。	
8	授業内容	日本人の食事摂取基準とバランスガイド	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	日本人の食事摂取基準を説明できる。	
9	授業内容	ウエイトコントロール	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ウエイトコントロールについて説明できる。	
10	授業内容	障害予防の食事・サプリメント	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	障害予防の食事・サプリメントが説明できる。	
11	授業内容	試合期の食事	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	試合期の食事について説明できる。	
12	授業内容	ライフステージ別の栄養（ジュニア期）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ライフステージ別の栄養（ジュニア期）が説明できる。	
13	授業内容	ライフステージ別の栄養（シニア期）	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	ライフステージ別の栄養（シニア期）が説明できる。	
14	授業内容	食品衛生・アセスメント	講義修了後に配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。
	到達目標	食品衛生・アセスメントが説明できる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	まとめポイントを熟読する
	到達目標	スポーツ栄養学が説明できる。	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	心理学	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	無
		時間数	３０時間				
実務経験内容							
担当者	岩原　昭彦 広瀬　雄彦	E-mail				実施時期	３年　前期

授業の目的
脳の働きと行動の仕組みの基礎を学ぶことで、生物としての人間について知り、人間が人間たるゆえんについて考える。また、人間は社会性をもった存在であるがゆえに、その心のあり様には他者や環境からの影響を大きく受けている。人間の行動の特徴を心理社会的側面から理解し、心理的支援や対人関係の構築に関わる基礎的なスキルを獲得する。
到達目標
心の健康を増進するための方法について理解することを目指す。具体的には、①心の仕組みについて理解すること、②自己と他者について理解すること、③心の健康に関わる理論について説明できること、③ライフステージやフィールドに対応した心の健康を高めるための方法について説明できることを到達目標とする。
授業の内容
本講義では心の健康について、生物-心理-社会モデルから考える。前半は人間の心の仕組みと脳の健康について考えてみたい。後半では生理学的機能についても触れながら、心の健康について、心理社会的要因をベースに考えてみたい。人間の心の働きや心の健康問題を通して幸福とは何かについても考察する。
注意事項
授業時間数の２／３以上の出席がないと受験資格を認めません。
成績評価
ミニレポート課題と期末試験から総合的に評価します。
テキスト
テキストは使用しません。資料を配付します。
参考文献・図書
適宜に紹介します。
オフィスアワーについて
曜日： 木曜日 時間： 授業終了後
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	感覚と知覚 1－知覚のメカニズム	人間が人間たるゆえんは何であるのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	知覚情報処理過程の基礎について学ぶ	
2	授業内容	感覚と知覚 2－幻覚と錯覚	人間の認知機能が歪みやすいことと環境に適応することの関係性について考える
	到達目標	認知機能の主観性と歪みについて理解する	
3	授業内容	学習と記憶 1－学習・記憶のメカニズム	記憶力を高めるためにはどうすればよいのかについて考え、自分にあった学習法について知る
	到達目標	記憶のしくみについて学ぶ	
4	授業内容	学習と記憶 2－記憶障害・特異な記憶力	記憶を失うことが私達に与える影響について考え、自分という存在の実態を感じる
	到達目標	認知機能の障害について理解する	
5	授業内容	言語と思考 1－問題解決	人間はなぜ誤りを犯しやすいのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	思考のしくみと歪みについて学ぶ	
6	授業内容	言語と思考 2－推論	直感的に思考することの効用や否定的な思考を修正する方法について考える
	到達目標	思考の柔軟性や肯定的な思考のあり方を理解する	
7	授業内容	感情と社会性 1－社会的認知と感情	豊かな対人関係を構築するためにはどうすれはいいのかについて考える
	到達目標	感情の生起メカニズムと対人関係について学ぶ	
8	授業内容	感情と社会性 2－社会性の障害	誤解がなぜ生じるのかについて考えるとともに他者に共感することの意味について考える
	到達目標	コミュニケーション障害と発達障害について理解する	
9	授業内容	生存と適応－生きるとは	人間が幸せな人生を送るためには何が必要なのかについて考える
	到達目標	人間が幸福に生きることの意味について理解する	
10	授業内容	ストレス 1－ストレスの生起メカニズム	なぜ同じ状況がある人にはストレスで別の人にはストレスではないのかについて考える
	到達目標	ストレスが生じる仕組みについて学ぶ	
11	授業内容	ストレス 2－ストレス対処	ストレスを対処するための方法を理解したうえで、自分に適したストレス対処法を考える
	到達目標	ストレス社会を生き抜くためのスキルについて理解する	
12	授業内容	ライフスタイルと健康－食生活と運動習慣	食習慣を変更したり、運動習慣を確立したりすることがなぜ難しいのかについて考える
	到達目標	生活習慣が形成される心理学的メカニズムについて学ぶ	
13	授業内容	健康増進行動 1－健康行動の変容	分かってはいるのに不健康な習慣を変えられないのはなぜかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することの難しさについて学ぶ	
14	授業内容	健康増進行動 2－健康心理学的支援	健康的な生活習慣を確立するためにはどのような支援をする必要があるかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することを支援する方法について学ぶ	
15	授業内容	ポジティブ・ヘルス－ポジティブ心理学と健康	ポジティブ志向がなぜ健康を増進するのかを理解し、自分に適した実践方法を考える
	到達目標	ポジティブ心理学的な介入法について理解する	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	奥田　香苗	E-mail		実施時期	1年　前期		

授業の目的
解剖学では、医学修得に必要不可欠な身体の構造を学びます。特に解剖学Ⅰでは、骨学の構造に焦点を当て、骨の詳細な構造、関節の動きや分類についての理解を深めることを目的とします。
到達目標
解剖学の基本となる知識を習得する。 全身の骨の位置、それぞれの骨で特徴的に見られる構造を説明できる。
授業の内容
解剖学基礎：解剖学を学ぶにあたり、基本となる知識を学習します。 骨学：全身の骨の位置、それぞれの骨で特徴的に見られる構造を学習します。 関節学：各関節の動きや種類を理解し、名称と構造を学習します。 靭帯学：各関節の動きや種類を理解し、関節を取り巻く靭帯の名称と構造を学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第２版　全国柔道整復学校協会　監修
参考文献・図書
イラスト解剖学 第8版　中外医学社 プロメテウス 解剖学アトラス 医学書院 解剖学ワークブック 医歯薬出版株式会社 解剖学要点整理ノート 羊土社
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、解剖学概説 1 解剖学用語、細胞などについて学ぶ	解剖学用語、細胞を復習する
	到達目標	解剖学用語、細胞などを説明できる	
2	授業内容	解剖学概説 2 各組織、発生などについて学ぶ	組織を予習しておく 各組織、発生を復習する
	到達目標	各組織、発生などを説明できる	
3	授業内容	骨学総論 骨の形状・構造・連結などについて学ぶ	骨の概要を予習しておく 骨の形状・構造・連結を復習する
	到達目標	骨の形状・構造・連結などを説明できる	
4	授業内容	骨学各論 1 鎖骨、肩甲骨について学ぶ	上肢の骨を予習しておく 鎖骨、肩甲骨を復習する
	到達目標	鎖骨、肩甲骨を説明できる	
5	授業内容	骨学各論 2 上腕骨、橈骨、尺骨について学ぶ	上肢の骨を予習しておく 上腕骨、橈骨、尺骨を復習する
	到達目標	上腕骨、橈骨、尺骨を説明できる	
6	授業内容	骨学各論 3 手の骨、上肢の関節について学ぶ	上肢の骨を予習しておく 手の骨、上肢の関節を復習する
	到達目標	手の骨、上肢の関節を説明できる	
7	授業内容	骨学各論 4 上肢の関節について学ぶ	上肢の関節を予習しておく 上肢の関節を復習する
	到達目標	上肢の関節を説明できる	
8	授業内容	骨学各論 5 脊柱、胸郭について学ぶ	背骨を予習しておく 脊柱、胸郭を復習する
	到達目標	脊柱、胸郭を説明できる	
9	授業内容	骨学各論 6 胸椎、肋骨、頸椎、腰椎について学ぶ	背骨を予習しておく 胸椎、肋骨、頸椎、腰椎を復習する
	到達目標	胸椎、肋骨、頸椎、腰椎を説明できる	
10	授業内容	骨学各論 7 仙椎、寛骨、大腿骨について学ぶ	下肢の骨を予習しておく 仙椎、寛骨、大腿骨を復習する
	到達目標	仙椎、寛骨、大腿骨を説明できる	
11	授業内容	骨学各論 8 大腿骨、脛骨、腓骨について学ぶ	下肢の骨を予習しておく 大腿骨、脛骨、腓骨を復習する
	到達目標	大腿骨、脛骨、腓骨を説明できる	
12	授業内容	骨学各論 9 足の骨、下肢の関節について学ぶ	下肢の関節を予習しておく 足の骨、下肢の関節を復習する
	到達目標	足の骨、下肢の関節を説明できる	
13	授業内容	骨学各論 10 下肢の関節について学ぶ	下肢の関節を予習しておく 下肢の関節を復習する
	到達目標	下肢の関節を説明できる	
14	授業内容	骨学各論 11 頭蓋骨について学ぶ	頭蓋を予習しておく 頭蓋骨を復習する
	到達目標	頭蓋骨を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	奥田　香苗	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的
解剖学では、医学修得に必要不可欠な身体の構造を学びます。特に解剖学Ⅱでは、筋学の構造に焦点を当て、靭帯や筋の部位、筋が収縮した際の身体の動きについての理解を深めることを目的とします。
到達目標
関節を取り巻く靭帯の名称と構造を説明できる。 各筋の起始(筋が始まる場所)と停止(筋が終わる場所)、作用(筋が収縮したときの動き)を説明できる。
授業の内容
筋学：各筋の起始(筋が始まる場所)と停止(筋が終わる場所)、作用(筋が収縮したときの動き)を学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第２版　全国柔道整復学校協会　監修
参考文献・図書
イラスト解剖学 第8版 中外医学社 プロメテウス 解剖学アトラス 医学書院 解剖学ワークブック 医歯薬出版株式会社 解剖学要点整理ノート 羊土社
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　時　分～　時　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、筋学総論 起始・停止、作用、名称について学ぶ	骨格を予習しておく 起始・停止、作用、名称を復習する
	到達目標	起始・停止、作用、名称を説明できる	
2	授業内容	筋学各論 1 頭部の筋、頸部の筋について学ぶ	頭頸部の骨を予習しておく 頭部の筋、頸部の筋を復習する
	到達目標	頭部の筋、頸部の筋を説明できる	
3	授業内容	筋学各論 2 胸部の筋について学ぶ	胸背部の骨を予習しておく 胸部を復習する
	到達目標	浅胸筋、浅背筋を説明できる	
4	授業内容	筋学各論 3 腹部の筋について学ぶ	体幹の骨を予習しておく 腹部の筋を復習する
	到達目標	腹部の筋を説明できる	
5	授業内容	筋学各論 4 背部の筋について学ぶ	脊柱・胸郭を予習しておく 背部の筋を復習する
	到達目標	背部の筋を説明できる	
6	授業内容	筋学各論 5 上肢帯の筋、上腕の筋と関節の動きについて学ぶ	上肢の骨を予習しておく 上肢帯の筋､上腕の筋と関節の動きを復習する
	到達目標	上肢帯の筋、上腕の筋と関節の動きを説明できる	
7	授業内容	筋学各論 6 前腕の屈筋と関節の動きについて学ぶ	上肢の骨を予習しておく 前腕の屈筋と関節の動きを復習する
	到達目標	前腕の屈筋と関節の動きを説明できる	
8	授業内容	筋学各論 7 前腕の伸筋と関節の動きについて学ぶ	上肢の骨を予習しておく 前腕の伸筋と関節の動きを復習する
	到達目標	前腕の伸筋と関節の動きを説明できる	
9	授業内容	筋学各論 8 手の筋と関節の動きについて学ぶ	手の骨を予習しておく 手の筋と関節の動きを復習する
	到達目標	手の筋と関節の動きを説明できる	
10	授業内容	筋学各論 9 外寛骨筋、内寛骨筋について学ぶ	下肢の骨を予習しておく 外寛骨筋、内寛骨筋を復習する
	到達目標	外寛骨筋、内寛骨筋を説明できる	
11	授業内容	筋学各論 10 大腿の伸筋群と関節の動きについて学ぶ	下肢の骨を予習しておく 大腿の伸筋群と関節の動きを復習する
	到達目標	大腿の伸筋群と関節の動きを説明できる	
12	授業内容	筋学各論 11 大腿の内転筋群・屈筋群と関節の動きについて学ぶ	下肢の骨を予習しておく 大腿の内転筋群･屈筋群と関節の動きを復習する
	到達目標	大腿の内転筋群・屈筋群と関節の動きを説明できる	
13	授業内容	筋学各論 12 下腿の筋と関節の動きについて学ぶ	下肢の骨を予習しておく 下腿の筋と関節の動きを復習する
	到達目標	下腿の筋と関節の動きを説明できる	
14	授業内容	筋学各論 13 足の筋について学ぶ	足の骨を予習しておく 足の筋を復習する
	到達目標	足の筋を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅲ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	多田羅　勝広	E-mail		実施時期	1年　　前期		

授業の目的
解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。柔道整復学で学習する各部の損傷でも内臓損傷の合併が起こります。この科目では、内臓の構造・位置・機能を理解し、内臓学の知識を身につけることを目的とします
到達目標
消化器系の構造を説明できる。 呼吸器系の構造を説明できる。
授業の内容
消化器系では、消化管・消化腺・腹膜について学びます。 呼吸器系では、呼吸器・縦隔について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。　学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第 2 版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、内臓学概論、消化器系 1 内臓・消化器の概要、上皮、口腔について学ぶ	内臓・消化器の概要、上皮、口腔を復習する
	到達目標	内臓・消化器の概要、上皮、口腔を説明できる	
2	授業内容	消化器系 2 歯、舌について学ぶ	組織を予習しておく 歯、舌を復習する
	到達目標	歯、舌を説明できる	
3	授業内容	消化器系 3 唾液腺、咽頭、食道、胃について学ぶ	組織､椎骨の位置を予習しておく 唾液腺、咽頭、食道、胃を復習する
	到達目標	唾液腺、咽頭、食道、胃を説明できる	
4	授業内容	消化器系 4 胃、十二指腸について学ぶ	胃を予習しておく 胃、十二指腸を復習する
	到達目標	胃、十二指腸を説明できる	
5	授業内容	消化器系 5 空腸・回腸、盲腸について学ぶ	小腸を予習しておく 空腸・回腸、盲腸を復習する
	到達目標	空腸・回腸、盲腸を説明できる	
6	授業内容	消化器系 6 結腸、直腸について学ぶ	大腸を予習しておく 結腸、直腸を復習する
	到達目標	結腸、直腸を説明できる	
7	授業内容	消化器系 7 腹膜、肝臓について学ぶ	消化管を予習しておく 腹膜、肝臓を復習する
	到達目標	腹膜、肝臓を説明できる	
8	授業内容	消化器系 8 肝臓、胆嚢、膵臓について学ぶ	消化管・肝臓を予習しておく 肝臓、胆嚢、膵臓を復習する
	到達目標	肝臓、胆嚢、膵臓を説明できる	
9	授業内容	消化器系 9、呼吸器系 1 消化器系の内容について復習する。呼吸器系の概要について学ぶ	消化器系を復習しておく 呼吸器系の概要を復習する
	到達目標	消化器系の内容、呼吸器系の概要を説明できる	
10	授業内容	呼吸器系 2 外鼻、鼻腔、副鼻腔について学ぶ	頭蓋骨を予習しておく 外鼻、鼻腔、副鼻腔を復習する
	到達目標	外鼻、鼻腔、副鼻腔を説明できる	
11	授業内容	呼吸器系 3 喉頭、発声について学ぶ	口腔・咽頭を予習しておく 喉頭、発声を復習する
	到達目標	喉頭、発声を説明できる	
12	授業内容	呼吸器系 4 気管、気管支、肺について学ぶ	胸郭・胸腔を予習しておく 気管、気管支、肺を復習する
	到達目標	気管、気管支、肺を説明できる	
13	授業内容	呼吸器系 5 肺、胸膜・縦隔について学ぶ	胸郭・胸腔を予習しておく 肺、胸膜・縦隔を復習する
	到達目標	肺、胸膜・縦隔を説明できる	
14	授業内容	まとめ 1 本講義の内容について復習する	本講義の内容を復習する
	到達目標	本講義の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅲ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	田中　健吾	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的
解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。柔道整復学で学習する各部の損傷でも内臓損傷の合併が起こります。この科目では、内臓の構造・位置・機能を理解し、内臓学の知識を身につけることを目的とします。
到達目標
泌尿器系の構造を説明できる。 内分泌系の構造を説明できる。 生殖器系の構造を説明できる。
授業の内容
泌尿器系では、腎臓と尿路について学びます。 内分泌系では、各内分泌器官について学びます。 生殖器系では、男性生殖器と女性生殖器に分けて学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、泌尿器系 1 腎臓について学ぶ	腎臓を復習する
	到達目標	腎臓を説明できる	
2	授業内容	泌尿器系 2 腎臓、尿管について学ぶ	腎臓を予習しておく 腎臓、尿管を復習する
	到達目標	腎臓、尿管を説明できる	
3	授業内容	泌尿器系 3 膀胱、尿道について学ぶ	骨盤腔を予習しておく 膀胱、尿道を復習する
	到達目標	膀胱、尿道を説明できる	
4	授業内容	泌尿器系 4、内分泌系 1 泌尿器系の内容について復習する。内分泌系の概要について学ぶ	泌尿器系の内容を復習しておく 内分泌系の概要を復習する
	到達目標	泌尿器系の内容、内分泌系の概要を説明できる	
5	授業内容	内分泌系 2 下垂体、松果体、甲状腺について学ぶ	頭蓋骨、頸部を予習しておく 下垂体、松果体、甲状腺を復習する
	到達目標	下垂体、松果体、甲状腺を説明できる	
6	授業内容	内分泌系 3 上皮小体、ランゲルハンス島、副腎について学ぶ	膵臓を予習しておく 上皮小体、ランゲルハンス島、副腎を復習する
	到達目標	上皮小体、ランゲルハンス島、副腎を説明できる	
7	授業内容	内分泌系 4、生殖器系 1 内分泌系の内容について復習する。男性生殖器の概要について学ぶ	内分泌系を復習しておく 男性生殖器の概要を復習する
	到達目標	内分泌系の内容、男性生殖器の概要を説明できる	
8	授業内容	生殖器系 2 精巣、精巣上体について学ぶ	骨盤腔を予習しておく 精巣、精巣上体を復習する
	到達目標	精巣、精巣上体を説明できる	
9	授業内容	生殖器系 3 精管、精索、男性の性腺について学ぶ	泌尿器系を予習しておく 精管、精索、男性の性腺を復習する
	到達目標	精管、精索、男性の性腺を説明できる	
10	授業内容	生殖器系 4 精液と精子、陰茎、女性生殖器の概要について学ぶ	泌尿器系を予習しておく 精液と精子、陰茎、女性生殖器の概要を復習する
	到達目標	精液と精子、陰茎、女性生殖器の概要を説明できる	
11	授業内容	生殖器系 5 男性生殖器の内容を復習する。卵巣について学ぶ	男性生殖器を復習しておく 卵巣を復習する
	到達目標	男性生殖器の内容、卵巣を説明できる	
12	授業内容	生殖器系 6 卵管、子宮について学ぶ	骨盤腔を予習しておく 卵管、子宮を復習する
	到達目標	卵管、子宮を説明できる	
13	授業内容	生殖器系 7 子宮、胎盤について学ぶ	骨盤内臓器を予習しておく 子宮、胎盤を復習する
	到達目標	子宮、胎盤を説明できる	
14	授業内容	生殖器系 8、まとめ 1 女性生殖器、本講義の内容について復習する	女性生殖器､本講義の内容を復習する
	到達目標	女性生殖器、本講義の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅳ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	橋本　輝幸 多田羅　勝広	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的

解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。柔道整復学で学習する各部の損傷でも脈管損傷の合併が起こります。そのため、この科目では心臓から送り出された血液が全身をめぐる経路を理解し、脈管系の知識を身につけることを目的とします。

到達目標

脈管系の概要を説明できる。
心臓の構造を説明できる。
動脈・静脈の経路を説明できる。
リンパ系を説明できる。

授業の内容

脈管系の概要、心臓、血管系、リンパ系について学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、脈管学総論 脈管系の概要について学ぶ	脈管系の概要を復習する
	到達目標	脈管系の概要を説明できる	
2	授業内容	心臓 1 心臓の位置・形態、構造について学ぶ	組織を予習しておく 心臓の位置・形態、構造を復習する
	到達目標	心臓の位置・形態、構造を説明できる	
3	授業内容	心臓 2 刺激伝導系、栄養血管、神経、心膜について学ぶ	脈管の概要を予習しておく 刺激伝導系、栄養血管、神経、心膜を復習する
	到達目標	刺激伝導系、栄養血管、神経、心膜を説明できる	
4	授業内容	心臓 3、血管系 1 心臓について復習する。大動脈について学ぶ	心臓の内容を復習しておく 大動脈を復習する
	到達目標	心臓の内容、大動脈を説明できる	
5	授業内容	血管系 2 頭頸部の動脈について学ぶ	頭蓋骨、頸椎を予習しておく 頭頸部の動脈を復習する
	到達目標	頭頸部の動脈を説明できる	
6	授業内容	血管系 3 頭頸部・上肢の動脈について学ぶ	上肢の骨､大動脈を予習しておく 頭頸部・上肢の動脈を復習する
	到達目標	頭頸部・上肢の動脈を説明できる	
7	授業内容	血管系 4 上肢・胸腹部の動脈について学ぶ	上肢の動脈を予習しておく 上肢・胸腹部の動脈を復習する
	到達目標	上肢・胸腹部の動脈を説明できる	
8	授業内容	血管系 5 骨盤部・下肢の動脈について学ぶ	骨盤部･下肢の骨を予習しておく 骨盤部・下肢の動脈を復習する
	到達目標	骨盤部・下肢の動脈を説明できる	
9	授業内容	血管系 6 動脈の内容について復習する。静脈の概要について学ぶ	動脈の内容を復習しておく 静脈の概要を復習する
	到達目標	動脈の内容、静脈の概要を説明できる	
10	授業内容	血管系 7 頭部の静脈、皮静脈について学ぶ	頭頸部の動脈を予習しておく 頭部の静脈、皮静脈を復習する
	到達目標	頭部の静脈、皮静脈を理解できる	
11	授業内容	血管系 8 奇静脈系、門脈系について学ぶ	胸腹部の動脈を予習しておく 奇静脈系、門脈系を復習する
	到達目標	奇静脈系、門脈系を説明できる	
12	授業内容	血管系 9 静脈の内容を復習する。胎児循環について学ぶ	静脈を復習しておく 胎児循環を復習する
	到達目標	静脈の内容、胎児循環を説明できる	
13	授業内容	リンパ系 1 リンパ管、リンパ本幹、リンパ節について学ぶ	血管を予習しておく リンパ管、リンパ本幹、リンパ節を復習する
	到達目標	リンパ管、リンパ本幹、リンパ節を説明できる	
14	授業内容	リンパ系 2、まとめ 1 扁桃、脾臓、胸腺について学ぶ。胎児循環、リンパ系の内容について復習する	リンパ系の内容を復習する
	到達目標	扁桃・脾臓・胸腺、リンパ系の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅴ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	渡邉　康晴	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。この科目では、身体の諸器官を連絡・調整している神経系の中でも特に高次機能を担う中枢神経系、外部からの刺激を受け取る感覚器に対する知識を身につけることを目的とします。
到達目標
神経系の基礎を説明できる。 脳・脊髄を説明できる。 感覚器系を説明できる。 伝導路を説明できる。
授業の内容
中枢神経系について学びます。 感覚器系について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、神経系の基礎 1 神経系の区分と特徴、神経組織について学ぶ	神経系の区分と特徴､神経組織を復習する
	到達目標	神経系の区分と特徴、神経組織を説明できる	
2	授業内容	神経系の基礎 2、中枢神経系 1 髄膜と脳室系、大脳皮質について学ぶ	頭蓋・脊柱を予習しておく 髄膜と脳室系､大脳皮質を復習する
	到達目標	髄膜と脳室系、大脳皮質を説明できる	
3	授業内容	中枢神経系 2 大脳皮質について学ぶ	大脳皮質の区分を予習しておく 大脳皮質を復習する
	到達目標	大脳皮質を説明できる	
4	授業内容	中枢神経系 3 大脳髄質、大脳核について学ぶ	神経系の特徴を予習しておく 大脳髄質、大脳核を復習する
	到達目標	大脳髄質、大脳核を説明できる	
5	授業内容	中枢神経系 4 間脳・中脳・橋について学ぶ	神経組織､大脳髄質を予習しておく 間脳・中脳・橋を復習する
	到達目標	間脳・中脳・橋を説明できる	
6	授業内容	中枢神経系 5 延髄・小脳について学ぶ	神経組織を予習しておく 延髄・小脳を復習する
	到達目標	延髄・小脳を説明できる	
7	授業内容	中枢神経系 6 脊髄について学ぶ	神経組織を予習しておく 脊髄を復習する
	到達目標	脊髄を説明できる	
8	授業内容	感覚器系 1 外皮について学ぶ	組織を予習しておく 外皮を復習する
	到達目標	外皮を説明できる	
9	授業内容	感覚器系 2 視覚器について学ぶ	頭蓋骨を予習しておく 視覚器を復習する
	到達目標	視覚器を説明できる	
10	授業内容	感覚器系 3 視覚器、平衡聴覚器について学ぶ	頭蓋骨､大脳皮質を予習しておく 視覚器、平衡聴覚器を復習する
	到達目標	視覚器、平衡聴覚器を説明できる	
11	授業内容	感覚器系 4 平衡聴覚器について学ぶ	頭蓋骨､大脳皮質を予習しておく 平衡聴覚器を復習する
	到達目標	平衡聴覚器を説明できる	
12	授業内容	感覚器系 5、伝導路 1 味覚器・嗅覚器、反射路について学ぶ	頭蓋、内臓系を予習しておく 味覚器･嗅覚器、反射路を復習する
	到達目標	味覚器・嗅覚器、反射路を説明できる	
13	授業内容	伝導路 2 上行性伝導路について学ぶ	脳・脊髄を予習しておく 上行性伝導路を復習する
	到達目標	上行性伝導路を説明できる	
14	授業内容	伝導路 3 下行性伝導路について学ぶ	脳・脊髄を予習しておく 下行性伝導路を復習する
	到達目標	下行性伝導路を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	解剖学Ⅵ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	多田羅　勝広	E-mail		実施時期	２年　後期		

授業の目的
解剖学は生理学とともに医学分野の基礎となる学問と考えられます。この科目では、身体の諸器官を連絡・調整している神経系の中でも特に中枢神経と身体各部を結びつける末梢神経系に対する知識を身につけることを目的とします。
到達目標
脳・脊髄神経を説明できる。 自律神経を説明できる。 末梢神経の分布を説明できる。
授業の内容
末梢神経系について学びます。 筋・皮膚・内臓への分布について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、末梢神経の基礎、脳神経 1 末梢神経・脳神経の概要、第Ⅰ・Ⅱ脳神経について学ぶ	末梢神経・脳神経の概要、第Ⅰ・Ⅱ脳神経を復習する
	到達目標	末梢神経・脳神経の概要、第Ⅰ・Ⅱ脳神経を説明できる	
2	授業内容	脳神経 2 第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ脳神経について学ぶ	頭蓋、視覚器を予習しておく 第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ脳神経を復習する
	到達目標	第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ脳神経を説明できる	
3	授業内容	脳神経 3 第Ⅶ・Ⅷ脳神経について学ぶ	頭蓋、顔面の筋、平衡聴覚器を予習しておく 第Ⅶ・Ⅷ脳神経を復習する
	到達目標	第Ⅶ・Ⅷ脳神経を説明できる	
4	授業内容	脳神経 4 第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ脳神経について学ぶ	頭蓋、内臓、頭頸部の筋を予習しておく 第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ脳神経を復習する
	到達目標	第Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ脳神経を説明できる	
5	授業内容	脊髄神経 1 脊髄神経の概要、頸神経叢について学ぶ	脊柱・脊髄、脊柱の筋、頸部の筋を予習しておく 脊髄神経の概要､頸神経叢を復習する
	到達目標	脊髄神経の概要、頸神経叢を説明できる	
6	授業内容	脊髄神経 2 腕神経叢について学ぶ	上肢の筋を予習しておく 腕神経叢を復習する
	到達目標	腕神経叢を説明できる	
7	授業内容	脊髄神経 3 腕神経叢について学ぶ	上肢の筋を予習しておく 腕神経叢を復習する
	到達目標	腕神経叢を説明できる	
8	授業内容	脊髄神経 4 腕神経叢、胸神経について学ぶ	上肢･胸腹部の筋を予習しておく 腕神経叢、胸神経を復習する
	到達目標	腕神経叢、胸神経を説明できる	
9	授業内容	脊髄神経 5 腰神経叢について学ぶ	下肢の筋を予習しておく 腰神経叢を復習する
	到達目標	腰神経叢を説明できる	
10	授業内容	脊髄神経 6 仙骨神経叢について学ぶ	下肢の筋を予習しておく 仙骨神経叢を復習する
	到達目標	仙骨神経叢を説明できる	
11	授業内容	脊髄神経 7 陰部神経叢、デルマトームなどについて学ぶ	ここまでの脳脊髄神経を予習しておく 陰部神経叢､デルマトームなどを復習する
	到達目標	陰部神経叢、デルマトームなどを説明できる	
12	授業内容	自律神経 1 自律神経の基礎、交感神経について学ぶ	内臓系を予習しておく 自律神経の基礎､交感神経を復習する
	到達目標	自律神経の基礎、交感神経を説明できる	
13	授業内容	自律神経 2 副交感神経、関連痛について学ぶ	内臓系を予習しておく 副交感神経、関連痛を復習する
	到達目標	副交感神経、関連痛を説明できる	
14	授業内容	まとめ 1 本講義の内容について復習する	本講義の内容を復習する
	到達目標	本講義の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	体表解剖学	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	1年　前期		

授業の目的

各部の構造を解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ運動器を中心として、神経・血管等を交えて柔道整復師の施術に必要な解剖と機能を学びます。加えて、内部の構造を体表から理解することを目的とします。

到達目標

各部の骨・筋・関節・神経・血管等を説明できる。
各構造物の位置関係を説明できる。
構造物の機能の概要を説明できる。
体表からの位置を説明できる。

授業の内容

構造物を各部に分けて学習します。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退室は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。
成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。

テキスト

解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、鎖骨部・大腿部・膝関節 1 鎖骨部・大腿部・膝関節の解剖と機能について学ぶ	鎖骨部・大腿部・膝関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	鎖骨部・大腿部・膝関節の解剖と機能を説明できる	
2	授業内容	膝関節 2・肩関節 1 膝関節・肩関節の解剖と機能について学ぶ	膝関節･肩関節の解剖を予習しておく 膝関節･肩関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	膝関節・肩関節の解剖と機能を説明できる	
3	授業内容	肩関節 2 肩関節の解剖と機能について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 肩関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	肩関節の解剖と機能を説明できる	
4	授業内容	体表解剖 鎖骨部・肩関節の体表解剖を学ぶ	鎖骨部･肩関節の解剖を予習しておく 鎖骨部･肩関節の体表解剖を復習する
	到達目標	鎖骨部・肩関節の体表解剖を説明できる	
5	授業内容	体表解剖 大腿部・膝関節の体表解剖を学ぶ	大腿部･膝関節の解剖を予習しておく 大腿部･膝関節の体表解剖を復習する
	到達目標	大腿部・膝関節の体表解剖を説明できる	
6	授業内容	下腿部 下腿部の解剖と機能、体表解剖について学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 下腿部の解剖と機能､体表解剖を復習する
	到達目標	下腿部の解剖と機能、体表解剖を説明できる	
7	授業内容	上腕部 上腕部の解剖と機能、体表解剖について学ぶ	上腕部の解剖を予習しておく 上腕部の解剖と機能､体表解剖を復習する
	到達目標	上腕部の解剖と機能、体表解剖を説明できる	
8	授業内容	足関節 足関節の解剖と機能について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	足関節の解剖と機能を説明できる	
9	授業内容	肘関節 肘関節の解剖と機能について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 肘関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	肘関節の解剖と機能を説明できる	
10	授業内容	体表解剖 足関節・肘関節の体表解剖について学ぶ	足関節･肘関節の解剖を予習しておく 足関節･肘関節の体表解剖を復習する
	到達目標	足関節・肘関節の体表解剖を説明できる	
11	授業内容	頭部・顔面 頭部・顔面の解剖と機能・体表解剖について学ぶ	頭部･顔面の解剖を予習しておく 頭部・顔面の解剖と機能・体表解剖を復習する
	到達目標	頭部・顔面の解剖と機能・体表解剖を説明できる	
12	授業内容	頸部 頸部の解剖と機能について学ぶ	頸部の解剖を予習しておく 頸部の解剖と機能を復習する
	到達目標	頸部の解剖と機能を説明できる	
13	授業内容	体表解剖 頸部の体表解剖について学ぶ	頸部の解剖を予習しておく 頸部の体表解剖を復習する
	到達目標	頸部の体表解剖を説明できる	
14	授業内容	胸部 胸部の解剖と機能・体表解剖について学ぶ	胸部の解剖を予習しておく 胸部の解剖と機能･体表解剖を復習する
	到達目標	胸部の解剖と機能・体表解剖を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	局所解剖学	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	多田羅　勝広	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師の施術と鑑別に必要な各部の構造と機能を学び、学んだ内容が柔道整復学・実技に生かされることを目的とします。
到達目標
各部の骨・筋・関節・神経・血管等を説明できる。 各構造物の位置関係を説明できる。 構造物の機能の概要を説明できる。
授業の内容
構造物を各部に分けて学習する。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂 柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、背部・腰部 1 背部・腰部の解剖と機能について学ぶ	背部･腰部の解剖と機能を復習する
	到達目標	背部・腰部の解剖と機能を説明できる	
2	授業内容	腰部 2・足部 1 腰部・足部の解剖と機能について学ぶ	腰部･足部の解剖を予習しておく 腰部･足部の解剖と機能を復習する
	到達目標	腰部・足部の解剖と機能を説明できる	
3	授業内容	足部 2・前腕部 足部・前腕部の解剖と機能について学ぶ	足部･前腕部の解剖を予習しておく 足部・前腕部と機能を復習する
	到達目標	足部・前腕部の解剖と機能を説明できる	
4	授業内容	骨盤部 骨盤部の解剖と機能を学ぶ	骨盤部の解剖を予習しておく 骨盤部の解剖と機能を復習する
	到達目標	骨盤部の解剖と機能を説明できる	
5	授業内容	手関節 手関節の解剖と機能を学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 手関節の解剖と機能を復習する
	到達目標	手関節の解剖と機能を説明できる	
6	授業内容	股関節 股関節の解剖と機能、体表解剖について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 股関節の解剖と機能､体表解剖を復習する
	到達目標	股関節の解剖と機能、体表解剖を説明できる	
7	授業内容	手指部 手指部の解剖と機能について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 手指部の解剖と機能を復習する
	到達目標	手指部の解剖と機能、体表解剖を説明できる	
8	授業内容	頭頸部 頭頸部の内臓について学ぶ	頭頸部の解剖を予習しておく 頭頸部の内臓を復習する
	到達目標	頭頸部の内臓を説明できる	
9	授業内容	胸部 胸部の内臓について学ぶ	胸部の解剖を予習しておく 胸部の内臓を復習する
	到達目標	胸部の内臓を説明できる	
10	授業内容	腹部 腹部の内臓について学ぶ	腹部の解剖を予習しておく 腹部の内臓を復習する
	到達目標	腹部の内臓を説明できる	
11	授業内容	上肢 1 上肢の解剖について復習する	上肢の解剖を予習しておく 上肢の解剖を復習する
	到達目標	上肢の解剖を説明できる	
12	授業内容	上肢 2 上肢の解剖について復習する	上肢の解剖を予習しておく 上肢の解剖を復習する
	到達目標	上肢の解剖を説明できる	
13	授業内容	下肢 1 下肢の解剖について復習する	下肢の解剖を予習しておく 下肢の解剖を復習する
	到達目標	下肢の解剖を説明できる	
14	授業内容	下肢 2 下肢の解剖について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢の解剖を復習する
	到達目標	下肢の解剖を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	生理学Ⅰ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	小野　富三人 中城　光琴	E-mail		実施時期	1年　　前期		

授業の目的
生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに生命維持に必須な植物性の機能を身につけることを目的とします。
到達目標
血液の働きを説明できる。 循環機能を説明できる。 呼吸機能を説明できる。
授業の内容
ガスや栄養素を運搬する血液の働き、血液を運ぶ循環のしくみ、肺での換気とガス交換のしくみを学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノートを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
生理学　改訂第4版　全国柔道整復学校協会 監修
参考文献・図書
イラストでまなぶ生理学第3版　医学書院
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、生理学の基礎 生理学とは何かについて学ぶ	生理学の基礎を復習する
	到達目標	生理学とは何かを説明できる	
2	授業内容	血液の生理 1 血液の組成、血漿、赤血球について学ぶ	血液の組成を予習しておく 血液の組成、血漿、赤血球を復習する
	到達目標	血液の組成、血漿、赤血球を説明できる	
3	授業内容	血液の生理 2 血小板、血液凝固について学ぶ	血液凝固を予習しておく 血小板、血液凝固を復習する
	到達目標	血小板、血液凝固を説明できる	
4	授業内容	血液の生理 4 血液型、免疫について学ぶ	免疫を予習しておく 血液型、免疫を復習する
	到達目標	血液型、免疫を説明できる	
5	授業内容	まとめ 1 血液の生理について復習する	血液の生理を復習しておく
	到達目標	血液の生理について知識を習得している	
6	授業内容	循環の生理 1 心臓の機能、心電図について学ぶ	心臓の機能を予習しておく 心臓の機能、心電図を復習する
	到達目標	心臓の機能、心電図を説明できる	
7	授業内容	循環の生理 2 心周期について学ぶ	心周期を予習しておく 心周期を復習する
	到達目標	心周期を説明できる	
8	授業内容	循環の生理 3 血管系・リンパ管系について学ぶ	血管の機能を予習しておく 血管系・リンパ管系を復習する
	到達目標	血管系・リンパ管系を説明できる	
9	授業内容	循環の生理 4 循環の調節について学ぶ	循環の調節について予習しておく 循環の調節を復習する
	到達目標	循環の調節を説明できる	
10	授業内容	まとめ 2 循環の生理について復習する	循環の生理を復習しておく
	到達目標	循環の生理について知識を習得している	
11	授業内容	呼吸の生理 1 呼吸器の機能的構造、換気について学ぶ	呼吸器の機能を予習しておく 呼吸器の機能的構造､換気を復習する
	到達目標	呼吸器の機能的構造、換気を説明できる	
12	授業内容	呼吸の生理 2 ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について学ぶ	ガス交換を腰周しておく ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬を復習する
	到達目標	ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬を説明できる	
13	授業内容	呼吸の生理 3 呼吸を調節するしくみについて学ぶ	呼吸の調節を予習しておく 呼吸を調節する仕組みを復習する
	到達目標	呼吸を調節するしくみを説明できる	
14	授業内容	まとめ 3 呼吸の生理について復習する	呼吸の生理を復習しておく
	到達目標	呼吸の生理について知識を習得している	
15	授業内容	まとめ 4(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	生理学Ⅰ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	大黒　恵理子 佐々木　真理	E-mail		実施時期	1年　　後期		

授業の目的
生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに生命時に必須な植物性の機能を身につけることを目的とします。
到達目標
栄養と代謝について説明できる。 消化と吸収について説明できる。 体温の調節について説明できる。 尿の生成と排出について説明できる。 骨の生成について説明できる。
授業の内容
体液の恒常性維持に必須な腎機能、栄養素に関する基本的事項とエネルギー代謝、栄養素の消化と吸収の機序、体温の調節のしくみ骨の構造と代謝を学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノートを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
生理学　改訂第4版　全国柔道整復学校協会 監修
参考文献・図書
イラストでまなぶ生理学第3版　医学書院
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、栄養素と代謝 1 栄養素について学ぶ	栄養素を復習する
	到達目標	栄養素を説明できる	
2	授業内容	栄養素と代謝 2 エネルギー代謝について学ぶ	代謝について予習しておく エネルギー代謝を復習する
	到達目標	エネルギー代謝を説明できる	
3	授業内容	消化と吸収 1 消化器系のはたらきについて学ぶ	消化器系のはたらきを予習しておく 消化器系のはたらきを復習する
	到達目標	消化器系のはたらきを説明できる	
4	授業内容	消化と吸収 2 食物の消化と吸収について学ぶ	消化について予習しておく 食物の消化と吸収を復習する
	到達目標	食物の消化と吸収を説明できる	
5	授業内容	消化と吸収 3 肝臓と胆道系について学ぶ	肝臓の機能を予習しておく 肝臓と胆道系を復習する
	到達目標	肝臓と胆道系を説明できる	
6	授業内容	消化と吸収 4 栄養素の消化と吸収について学ぶ	栄養素の吸収を予習しておく 栄養素の消化と吸収を復習する
	到達目標	栄養素の消化と吸収を説明できる	
7	授業内容	まとめ 1 栄養素と代謝、消化と吸収について復習する	栄養素と代謝､消化と吸収を復習しておく
	到達目標	栄養素と代謝、消化と吸収について知識を習得している	
8	授業内容	体温とその調節 1 体温、熱産生、熱放散について学ぶ	熱産生と熱放散を予習しておく 体温、熱産生、熱放散を復習する
	到達目標	体温、熱産生、熱放散を説明できる	
9	授業内容	体温とその調節 2 体温の調節について学ぶ	体温の調節を予習しておく 体温の調節を復習する
	到達目標	体温の調節を説明できる	
10	授業内容	尿の生成と排泄 1 腎の構造と機能、糸球体でのろ過について学ぶ	腎の構造を予習しておく 腎の構造と機能､糸球体でのろ過を復習する
	到達目標	腎の構造と機能、糸球体でのろ過を説明できる	
11	授業内容	尿の生成と排泄 2 尿細管での再吸収・分泌、腎血流量について学ぶ	尿細管における再吸収･分泌を予習しておく 尿細管での再吸収・分泌、腎血流量を復習する
	到達目標	尿細管での再吸収・分泌、腎血流量を説明できる	
12	授業内容	尿の生成と排泄 3 排尿、腎臓による体液調節について学ぶ	腎臓による体液調節を予習しておく 排尿､腎臓による体液調節を復習する
	到達目標	排尿、腎臓による体液調節を説明できる	
13	授業内容	まとめ 2 体温とその調節、尿の生成と排泄について復習する	体温とその調節､尿の生成と排泄を復習しておく
	到達目標	体温とその調節、尿の生成と排泄について知識を習得している	
14	授業内容	骨の生理 骨の成長について学ぶ	骨の成長について予習しておく 骨の成長を復習する
	到達目標	骨の成長を説明できる	
15	授業内容	まとめ 3(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	生理学Ⅱ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	児玉　香菜絵	E-mail		実施時期	1年　　前期		

授業の目的
生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに動物性の機能を身につけることを目的とします。
到達目標
筋の機能について説明できる。 神経の機能について説明できる。
授業の内容
筋肉の収縮メカニズム、内臓機能を調節する自律神経の働き、運動機能にかかわる反射、運動を司る中枢、高次機能、特殊感覚を学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノートを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
生理学　改訂第4版　全国柔道整復学校協会 監修
参考文献・図書
イラストでまなぶ生理学第3版　医学書院
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、骨格筋 骨格筋の構造について学ぶ	骨の構造を復習する
	到達目標	骨格筋の構造を説明できる	
2	授業内容	筋の生理 1 筋肉の種類とその特徴、骨格筋・平滑筋・心筋の構造について学ぶ	骨格筋の構造を予習しておく 筋肉の種類とその特徴、骨格筋・平滑筋・心筋の構造を復習する
	到達目標	筋肉の種類とその特徴、骨格筋・平滑筋・心筋の構造を説明できる	
3	授業内容	筋の生理 2 筋収縮のしくみ、筋収縮のエネルギーについて学ぶ	筋収縮のしくみを予習しておく 筋収縮のしくみ､筋収縮のエネルギーを復習する
	到達目標	筋収縮のしくみ、筋収縮のエネルギーを説明できる	
4	授業内容	筋の生理 3 骨格筋の収縮の仕方、筋電図について学ぶ	筋の収縮の仕方を予習しておく 骨格筋の収縮の仕方､筋電図を復習する
	到達目標	骨格筋の収縮の仕方、筋電図を説明できる	
5	授業内容	まとめ 1 筋の生理について復習する	筋の生理を復習しておく
	到達目標	筋の生理の内容について知識を習得している	
6	授業内容	神経の生理 1 静止膜電位と活動電位について学ぶ	静止膜電位と活動電位を予習しておく 静止膜電位と活動電位を復習する
	到達目標	静止膜電位と活動電位を説明できる	
7	授業内容	神経の生理 2 興奮の伝導、興奮の伝達について学ぶ	興奮の伝導､興奮の伝達を予習しておく 興奮の伝導､興奮の伝達を復習する
	到達目標	興奮の伝導、興奮の伝達を説明できる	
8	授業内容	神経の生理 3 脳の高次機能について学ぶ	脳について予習する 脳の高次機能を復習する
	到達目標	脳の高次機能を説明できる	
9	授業内容	神経の生理 4 内臓機能の調節について学ぶ	内臓機能について予習しておく 内臓機能の調節を復習する
	到達目標	内臓機能の調節を説明できる	
10	授業内容	まとめ 2 神経の生理について復習する	神経の生理を復習しておく
	到達目標	神経の生理の内容について知識を習得している	
11	授業内容	運動の生理 1 運動の調節について学ぶ	運動の調節のしくみを予習しておく 運動の調節を復習する
	到達目標	運動の調節を説明できる	
12	授業内容	運動の生理 2 骨格筋の感覚器について学ぶ	骨格筋の感覚器を予習しておく 骨格筋の感覚器を復習する
	到達目標	骨格筋の感覚器を説明できる	
13	授業内容	運動の生理 3 反射による運動調節について学ぶ	反射の種類を予習しておく 反射による運動調節を復習する
	到達目標	反射による運動調節を説明できる	
14	授業内容	まとめ 3 運動の生理について復習する	運動の生理を復習しておく
	到達目標	運動の生理の内容について知識を習得している	
15	授業内容	まとめ 4(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	生理学Ⅱ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	児玉　香菜絵	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的
生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問です。次年度の臨床学などで人体の病的状態を理解する上で大切です。この科目では、その生体の正常な働き、とくに動物性の機能を身につけることを目的とします。
到達目標
感覚の機能について説明できる。 生命維持に必須な内分泌について説明できる。
授業の内容
内分泌器官から分泌されるホルモンの種類とそれらの作用、感覚の種類と性質を学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノートを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の2/3に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し60点以上で合格となります。
テキスト
生理学　改訂第4版　全国柔道整復学校協会 監修
参考文献・図書
イラストでまなぶ生理学第3版　医学書院
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、感覚の生理 1 感覚の一般的特性について学ぶ	感覚の一般的特性を復習する
	到達目標	感覚の一般的特性を説明できる	
2	授業内容	感覚の生理 2 視覚、味覚、嗅覚について学ぶ	特殊感覚を予習しておく 視覚、味覚、嗅覚を復習する
	到達目標	視覚、味覚、嗅覚を説明できる	
3	授業内容	感覚の生理 3 聴覚、平衡覚について学ぶ	聴覚、平衡覚を予習しておく 聴覚、平衡覚を復習する
	到達目標	聴覚、平衡覚を説明できる	
4	授業内容	感覚の生理 4 体性感覚について学ぶ	体性感覚を予習しておく 体性感覚を復習する
	到達目標	体性感覚を説明できる	
5	授業内容	まとめ 1 感覚の生理について復習する	感覚の生理を復習しておく
	到達目標	感覚の生理の内容について知識を習得している	
6	授業内容	内分泌 1 ホルモンの一般的性質について学ぶ	ホルモンの一般的性質を予習しておく ホルモンの一般的性質を復習する
	到達目標	ホルモンの一般的性質を説明できる	
7	授業内容	内分泌 2 視床下部のホルモン、下垂体前葉のホルモンについて学ぶ	視床下部のホルモンを予習しておく 視床下部のホルモン､下垂体前葉のホルモンを復習する
	到達目標	視床下部のホルモン、下垂体前葉のホルモンを説明できる	
8	授業内容	内分泌 3 下垂体後葉のホルモン、甲状腺のホルモンについて学ぶ	甲状腺のホルモンを予習しておく 下垂体後葉のホルモン､甲状腺のホルモンを復習する
	到達目標	下垂体後葉のホルモン、甲状腺のホルモンを説明できる	
9	授業内容	内分泌 4 副甲状腺のホルモン、副腎皮質のホルモンについて学ぶ	副腎皮質のホルモンを予習しておく 副甲状腺のホルモン､副腎皮質のホルモンを復習する
	到達目標	副甲状腺のホルモン、副腎皮質のホルモンを説明できる	
10	授業内容	内分泌 5 副腎髄質のホルモン、膵臓のホルモンについて学ぶ	副腎髄質のホルモンを予習しておく 副腎髄質のホルモン､膵臓のホルモンを復習する
	到達目標	副腎髄質のホルモン、膵臓のホルモンを説明できる	
11	授業内容	内分泌 6 精巣のホルモン、卵巣のホルモンについて学ぶ	性ホルモンを予習しておく 精巣のホルモン､卵巣のホルモンを復習する
	到達目標	精巣のホルモン、卵巣のホルモンを説明できる	
12	授業内容	まとめ 2 内分泌について復習する	内分泌を復習しておく
	到達目標	内分泌の内容について知識を習得している	
13	授業内容	生殖 1 性分化、男性の生殖機能について学ぶ	性分化を予習しておく 性分化､男性の生殖機能を復習する
	到達目標	性分化、男性の生殖機能を説明できる	
14	授業内容	生殖 2 女性の生殖機能について学ぶ	女性の生殖機能を予習しておく 女性の生殖機能を復習する
	到達目標	女性の生殖機能を説明できる	
15	授業内容	まとめ 3(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	応用生理学	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	齊藤　昌久	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
高齢者は若年者とは明らかに異なる生理機能をもちます。また、競技者も競技をしていないものとは生理的特性が異なっています。この授業では、柔道整復師として知っておきたい高齢者の生理的特徴や変化、高齢期特有の疾患・障害、競技者の外傷予防のための運動生理学、競技者の生理的特徴を理解することを目的とします。
到達目標
加齢による身体の変化を説明できる。 高齢者の生理的特徴を説明できる。 運動能力の発達を説明できる。 競技者の生理的特徴を説明できる。
授業の内容
加齢によって起きる細胞・組織・臓器の機能の変化とそれに伴う疾患・障害を学びます。 成長に伴うからだや運動能力の発達、競技者の生理的特徴・変化を学びます。
注意事項
応用生理学は，通常の生理学を理解した上での応用的な内容となる。そのため，これまでに習った生理学を復習し，十分に理解しておくことが重要となる。
成績評価
本授業での2/3以上の出席を学期末試験の受験資格とする。 成績は学期末試験で評価する。
テキスト
生理学改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　根来英雄・貴邑冨久子 著　南江堂 競技者の外傷予防　全国柔道整復学校協会監修　小林直行・高橋康輝　著　医歯薬出版
参考文献・図書
オフィスアワーについて
本科目の各授業の終了後をオフィスアワーとします。
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、加齢現象 加齢による細胞・水分量の変化について学ぶ	加齢による細胞･水分量の変化を復習する
	到達目標	加齢による細胞・水分量の変化を説明できる	
2	授業内容	高齢者の生理的特徴 1 神経系・運動器系の変化について学ぶ	神経系・運動系を予習しておく 神経系･運動器系の変化を復習する
	到達目標	神経系・運動器系の変化を説明できる	
3	授業内容	高齢者の生理的特徴 2 感覚器系の変化について学ぶ	感覚器系を予習しておく 感覚器系の変化を復習する
	到達目標	感覚器系の変化を説明できる	
4	授業内容	高齢者の生理的特徴 3 循環器系・消化器系の変化について学ぶ	循環器系･消化器系を予習しておく 循環器系･消化器系の変化を復習する
	到達目標	循環器系・消化器系の変化を説明できる	
5	授業内容	高齢者の生理的特徴 4 高齢者に多い疾患・障害について学ぶ	高齢者の特徴を予習しておく 高齢者に多い疾患･障害を復習する
	到達目標	高齢者に多い疾患・障害を理説明できる	
6	授業内容	高齢者の生理的特徴 5 歩行の変化について学ぶ	高齢者の特徴を予習しておく 歩行の変化を復習する
	到達目標	変性、壊死を説明できる	
7	授業内容	高齢者の生理的特徴 6 平衡機能の変化、反応時間について学ぶ	高齢者の特徴を予習しておく 平衡機能の変化､反応時間を復習する
	到達目標	平衡機能の変化、反応時間を説明できる	
8	授業内容	運動能力の発達 1 発育曲線、青年期までの発育の特徴について学ぶ	小児期から青年期までの変化を予習しておく 発育曲線､青年期までの発育の特徴を復習する
	到達目標	発育曲線、青年期までの発育の特徴を説明できる	
9	授業内容	運動能力の発達 2 呼吸循環系機能、運動の影響について学ぶ	呼吸器・循環器を予習しておく 呼吸循環系機能､運動の影響を復習する
	到達目標	呼吸循環系機能、運動の影響を説明できる	
10	授業内容	運動能力の発達 3 運動の発達と習熟について学ぶ	歩行・走行を予習しておく 運動の発達と習熟を復習する
	到達目標	運動の発達と習熟を説明できる	
11	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 1 筋・心肺機能の変化について学ぶ	筋・呼吸循環器を予習しておく 筋・心肺機能の変化を復習する
	到達目標	筋・心肺機能の変化を説明できる	
12	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 2 神経機構について学ぶ	神経系を予習しておく 神経機構を復習する
	到達目標	神経機構を説明できる	
13	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 3 姿勢調節能力について学ぶ	神経系･感覚器系を予習しておく 姿勢調節能力を復習する
	到達目標	姿勢調節能力を説明できる	
14	授業内容	競技者の生理的特徴・変化 4 眼球運動と姿勢制御について学ぶ	神経系･感覚器系を予習しておく 眼球運動と姿勢制御を復習する
	到達目標	眼球運動と姿勢制御を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	運動学	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	奥田　正作	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
柔道整復術を施行する上で、体の動きに関して知ることが必要になります。この科目では、体の動きを可能にしている構造とそのメカニズムを身につけることを目的とします。
到達目標
身体の構造を説明できる。 姿勢・歩行・発達などを説明できる。
授業の内容
身体を動かす仕組みについて学習します。 姿勢・歩行・のメカニズムについて学習します。 運動の発達と学習について学習します。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
運動学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　齋藤宏・鴨下弘著　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清・石塚寛編　医歯薬出版株式会社
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、運動の目的・表し方 運動学の目的、運動の表示方法について学ぶ	運動学の目的､運動の表示方法を復習する
	到達目標	運動学の目的、運動の表示方法を説明できる	
2	授業内容	身体運動と力学 身体運動に関する力、構造、運動の法則、仕事、エネルギーについて学ぶ	ベクトル､てこの構造を予習しておく 身体運動に関する力､構造､運動の法則､仕事、エネルギーを復習する
	到達目標	身体運動に関する力、構造、運動の法則、仕事、エネルギーを説明できる	
3	授業内容	運動器の構造と機能 1 骨・関節の構造・機能について学ぶ	骨・関節について予習しておく 骨･関節の構造･機能を復習する
	到達目標	骨・関節の構造・機能を説明できる	
4	授業内容	運動器の構造と機能 2 筋の構造・機能について学ぶ	骨格筋について予習しておく 筋の構造・機能を復習する
	到達目標	筋の構造・機能を説明できる	
5	授業内容	神経の構造と機能 神経細胞、末梢・中枢神経について学ぶ	神経の概要を予習しておく 神経細胞､末梢･中枢神経を復習する
	到達目標	神経細胞、末梢・中枢神経を説明できる	
6	授業内容	運動感覚 感覚と制御機構について学ぶ	感覚器を予習しておく 感覚と制御機構を復習する
	到達目標	感覚と制御機構を説明できる	
7	授業内容	反射と随意運動 反射、連合・共同運動、随意運動について学ぶ	神経と骨格筋を予習しておく 反射、連合・共同運動、随意運動を復習する
	到達目標	反射、連合・共同運動、随意運動を説明できる	
8	授業内容	四肢と体幹の運動 1 上肢の運動について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 上肢の運動を復習する
	到達目標	上肢の運動を説明できる	
9	授業内容	四肢と体幹の運動 2 下肢の運動について学ぶ	下肢の構造を予習しておく 下肢の運動を復習する
	到達目標	下肢の運動を説明できる	
10	授業内容	四肢と体幹の運動 3 体幹と脊柱、顔面と頭部の運動について学ぶ	体幹・脊柱・頭部の構造を予習しておく 体幹と脊柱､顔面と頭部の運動を復習する
	到達目標	体幹と脊柱、顔面と頭部の運動を説明できる	
11	授業内容	姿勢 概要、立位姿勢、機能肢位について学ぶ	身体の各部の名称を予習しておく 概要､立位姿勢､機能肢位を復習する
	到達目標	概要、立位姿勢、機能肢位を説明できる	
12	授業内容	歩行 歩行周期、分析、筋活動、代謝、走行、異常歩行について学ぶ	骨・筋を予習しておく 歩行周期、分析、筋活動、代謝、走行、異常歩行を復習する
	到達目標	歩行周期、分析、筋活動、代謝、走行、異常歩行を説明できる	
13	授業内容	運動発達と運動学習 神経組織の成熟と各部の運動発達、運動学習について学ぶ	反射・随意運動を予習しておく 神経組織の成熟と各部の運動発達、運動学習を復習する
	到達目標	神経組織の成熟と各部の運動発達、運動学習を説明できる	
14	授業内容	まとめ 1 本講義の内容について復習をする	本講義の内容を復習する
	到達目標	本講義の内容を説明できる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	病理学概論Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	河井　正隆	E-mail		実施時期	２年　後期		

授業の目的
基礎的な科目と臨床的な科目をリンクさせ、人体の疾病についての原因と病態を考察するために、基礎的・基本的な病理学的知識を習得することを目的とします。
到達目標
疾病の基本構造を説明できる。 疾病の病因を説明できる。
授業の内容
基本的な疾病の基本構造について学習します。 疾病を起こす一般的な病因について、細胞レベルの変化として学習します。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
病理学概論　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　関根一郎著　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
適宜、授業の中で紹介します。
オフィスアワーについて
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。 復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、病理学とは、疾病の一般 病理学の概要、疾病の概要について学ぶ	病理学の概要､疾病の概要を復習する
	到達目標	病理学の概要、疾病の概要を説明できる	
2	授業内容	病因 1 素因について学ぶ	遺伝・免疫を予習しておく 素因を復習する
	到達目標	素因を説明できる	
3	授業内容	病因 2 内分泌障害、物理的外因について学ぶ	ホルモン､物理的因子を予習しておく 内分泌障害､物理的外因を復習する
	到達目標	内分泌障害、物理的外因を説明できる	
4	授業内容	病因 3 化学的外因、生物学的外因について学ぶ	化学的･生物学的因子を予習しておく 化学的外因､生物学的外因を復習する
	到達目標	化学的外因、生物学的外因を説明できる	
5	授業内容	細胞傷害(退行性病変)1 萎縮、変性について学ぶ	細胞構造について予習しておく 萎縮、変性を復習する
	到達目標	萎縮、変性を説明できる	
6	授業内容	細胞傷害(退行性病変)2 変性、壊死について学ぶ	細胞小器官について予習しておく 変性、壊死を復習する
	到達目標	変性、壊死を説明できる	
7	授業内容	循環障害 1 充血、うっ血について学ぶ	血液循環を予習しておく 充血、うっ血を復習する
	到達目標	充血、うっ血を説明できる	
8	授業内容	循環障害 2 貧血、虚血について学ぶ	血液成分を予習しておく 貧血、虚血を復習する
	到達目標	貧血、虚血を説明できる	
9	授業内容	循環障害 3 出血、血栓について学ぶ	血行動態を予習しておく 出血、血栓を復習する
	到達目標	出血、血栓を説明できる	
10	授業内容	循環障害 4 塞栓、梗塞について学ぶ	大循環・小循環を予習しておく 塞栓、梗塞を復習する
	到達目標	塞栓、梗塞を説明できる	
11	授業内容	循環障害 5 浮腫、ショックについて学ぶ	全身循環を予習しておく 浮腫、ショックを復習する
	到達目標	浮腫、ショックを説明できる	
12	授業内容	免疫異常・アレルギー1 免疫不全、自己免疫疾患について学ぶ	免疫細胞を予習しておく 免疫不全､自己免疫疾患を復習する
	到達目標	免疫不全、自己免疫疾患を説明できる	
13	授業内容	免疫異常・アレルギー2 アレルギーについて学ぶ	免疫細胞を予習しておく アレルギーを復習する
	到達目標	アレルギーを説明できる	
14	授業内容	免疫異常・アレルギー3 アレルギーについて学ぶ	免疫細胞を予習しておく アレルギーを復習する
	到達目標	アレルギーを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	病理学概論Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	河井　正隆	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
基礎的な科目と臨床的な科目をリンクさせ、人体の疾病についての原因と病態を考察するために、基礎的・基本的な病理学的知識を習得することを目的とします。
到達目標
疾病の基本構造を説明できる。 疾病の病因を説明できる。
授業の内容
基本的な疾病の基本構造について学習します。 疾病を起こす一般的な病因について、細胞レベルの変化として学習します。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
病理学概論　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　関根一郎著　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
適宜、授業の中で紹介します。
オフィスアワーについて
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。 復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、免疫異常・アレルギー4 移植について学ぶ	免疫のしくみを予習しておく 移植を復習する
	到達目標	移植を説明できる	
2	授業内容	進行性病変と細胞・組織の適応 1 肥大・増殖、再生について学ぶ	細胞・組織を予習しておく 肥大・増殖、再生を復習する
	到達目標	肥大・増殖、再生を説明できる	
3	授業内容	進行性病変と細胞・組織の適応 2 再生、化生について学ぶ	細胞・組織を予習しておく 再生、化生を復習する
	到達目標	再生、化生を説明できる	
4	授業内容	進行性病変と細胞・組織の適応 3 肉芽組織、異物処理について学ぶ	細胞・組織を予習しておく 肉芽組織、異物処理を復習する
	到達目標	肉芽組織、異物処理を説明できる	
5	授業内容	炎症 1 炎症の概念、病変について学ぶ	微小循環系を予習しておく 炎症の概念、病変を復習する
	到達目標	炎症の概念、病変を説明できる	
6	授業内容	炎症 2 炎症の分類について学ぶ	炎症の滲出物を予習しておく 炎症の分類を復習する
	到達目標	炎症の分類を説明できる	
7	授業内容	炎症 3 炎症の分類について学ぶ	炎症の滲出物を予習しておく 炎症の分類を復習する
	到達目標	炎症の分類を説明できる	
8	授業内容	腫瘍 1 腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍について学ぶ	組織について予習しておく 腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍を復習する
	到達目標	腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍を説明できる	
9	授業内容	腫瘍 2 腫瘍の種類、浸潤について学ぶ	組織について予習しておく 腫瘍の種類、浸潤を復習する
	到達目標	腫瘍の種類、浸潤を説明できる	
10	授業内容	腫瘍 3 腫瘍の転移、発生原因について学ぶ	動静脈系､リンパ管系を予習しておく 腫瘍の転移､発生原因を復習する
	到達目標	腫瘍の転移、発生原因を説明できる	
11	授業内容	腫瘍 4 腫瘍の分類について学ぶ	内臓器を予習しておく 腫瘍の分類を復習する
	到達目標	腫瘍の分類を説明できる	
12	授業内容	先天性異常 1 代謝異常と奇形について学ぶ	遺伝について予習しておく 代謝異常と奇形を復習する
	到達目標	代謝異常と奇形を説明できる	
13	授業内容	先天性異常 2 奇形について学ぶ	奇形の原因を予習しておく 奇形を復習する
	到達目標	奇形を説明できる	
14	授業内容	まとめ 1 病理学概論を全体的に復習する	病理学概論を全体的に復習する
	到達目標	病理学概論を全体的に説明している	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	本授業内容を再度復習する
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	降井　佐太郎	E-mail		実施時期	２年　後期		

授業の目的

衛生学・公衆衛生学は、人々の疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。従って保健や医療に従事する者にとっては必須の知識・技術である。この科目では医療従事者である柔道整復師に必要な基本的な内容についての知識を身につけることを目的とします。

到達目標

公衆衛生の概要を説明できる。
健康と疾病との関わりを説明できる。

授業の内容

公衆衛生の概要について学習します。
母子保健、学校保健の概要について学習します。
健康と生活習慣について学習します。
環境衛生について学習します。
疫学、保健統計について学習します。

注意事項

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止する。
途中無断退出は欠席扱いになることがある。
出席カードの提出を求めます。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となり、出席点として30点が配分される。
さらに、期末試験（選択問題と記述問題）を行い、出席点と併せて100点満点で評価する。
合計点が60点以上で合格とする。

テキスト

衛生学・公衆衛生学　改訂第5版　全国柔道整復学校協会監修　鈴木庄亮著　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、歴史と公衆衛生活動 衛生学・公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動について学ぶ	衛生学・公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動を復習する
	到達目標	衛生学・公衆衛生学の歴史・公衆衛生活動を説明できる	
2	授業内容	健康の概念 健康と生活習慣、健康の測定について学ぶ	健康の定義を予習しておく 健康と生活習慣､健康の定義を復習する
	到達目標	健康と生活習慣、健康の測定を説明できる	
3	授業内容	疾病予防と健康管理 段階による疾病予防と健康管理について学ぶ	疾病の危険因子を予習しておく 段階による疾病予防と健康管理を復習する
	到達目標	段階による疾病予防と健康管理を説明できる	
4	授業内容	環境保健 環境及び環境要因について学ぶ	自然環境を予習しておく 環境及び環境要因を復習する
	到達目標	環境及び環境要因を説明できる	
5	授業内容	公　害 大気汚染、水質汚濁について学ぶ	大気・水の組成を予習しておく 大気汚染、水質汚濁を復習する
	到達目標	大気汚染、水質汚濁を説明できる	
6	授業内容	生活環境 上下水道について学ぶ	水質基準を予習しておく 上下水道を復習する
	到達目標	上下水道を説明できる	
7	授業内容	環境問題 地球環境と温暖化等への取り組みについて学ぶ	人口増加・開発を予習しておく 地球環境と温暖化等への取り組みを復習する
	到達目標	地球環境と温暖化等への取り組みを説明できる	
8	授業内容	産業保健 労働災害と職業病について学ぶ	最近の労働条件を予習しておく 労働災害と職業病を復習する
	到達目標	労働災害と職業病を説明できる	
9	授業内容	母子保健 母子保健の指標、行政・対策について学ぶ	ライフサイクルを予習しておく 母子保健の指標、行政・対策を復習する
	到達目標	母子保健の指標、行政・対策を説明できる	
10	授業内容	学校保健 学校保健の組織・管理・教育について学ぶ	学校関係者を予習しておく 学校保健の組織・管理・教育を復習する
	到達目標	学校保健の組織・管理・教育を説明できる	
11	授業内容	成人・高齢者保健 生活習慣病、保健・福祉対策について学ぶ	生活習慣病を予習しておく 生活習慣病、保健・福祉対策を復習する
	到達目標	生活習慣病、保健・福祉対策を説明できる	
12	授業内容	疫学 1 疫学の意義、調査方法について学ぶ	疫学について予習しておく 疫学の意義､調査方法を復習する
	到達目標	疫学の意義、調査方法を説明できる	
13	授業内容	疫学 2 疫学の意義、調査方法について学ぶ	疫学について予習しておく 疫学の意義､調査方法を復習する
	到達目標	疫学の意義、調査方法を説明できる	
14	授業内容	保健統計 集団の把握、健康指標について学ぶ	疫学の調査方法を予習しておく 集団の把握､健康指標を復習する
	到達目標	集団の把握、健康指標を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ ㊡
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	降井　佐太郎	E-mail		実施時期		３年　　前期	

授業の目的

衛生学・公衆衛生学は、人々の疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。従って保健や医療に従事する者にとっては必須の知識・技術である。この科目では医療従事者である柔道整復師に必要な基本的な内容についての知識を身につけることを目的とします。

到達目標

公衆衛生の概要を説明できる。
健康と疾病との関わりを説明できる。

授業の内容

感染症について学習します。
食品と疾病について学習します。

注意事項

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止する。
途中無断退出は欠席扱いになることがある。
出席カードの提出を求めます。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となり、出席点として30点が配分される。
さらに、期末試験（選択問題と記述問題）を行い、出席点と併せて100点満点で評価する。合計点が60点以上で合格とする。

テキスト

衛生学・公衆衛生学　改訂第5版　全国柔道整復学校協会監修　鈴木庄亮著　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日： 木曜日
時間： 授業終了後10分間

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、感染症 1 微生物概論	病原微生物を予習しておく 病原微生物を復習する
	到達目標	感病原微生物を説明できる	
2	授業内容	感染症 2 パンデミックについて学ぶ	病原微生物を予習しておく 病原微生物を復習する
	到達目標	インフルエンザ等を説明できる	
3	授業内容	感染症 3 感染症の発生要因と予防対策について学ぶ	予防の種類を予習しておく 感染症の発生要因と予防対策を復習する
	到達目標	感染症の発生要因と予防対策を説明できる	
4	授業内容	感染症 4 免疫と予防接種について学ぶ	免疫の種類を予習しておく 免疫と予防接種を復習する
	到達目標	免疫と予防接種を説明できる	
5	授業内容	感染症 5 感染症の類型について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の類型を復習する
	到達目標	感染症の類型を説明できる	
6	授業内容	感染症 6 感染症の類型について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の類型を復習する
	到達目標	感染症の類型を説明できる	
7	授業内容	感染症 7 感染症の類型について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の類型を復習する
	到達目標	感染症の類型を説明できる	
8	授業内容	消毒 消毒の意義と消毒方法について学ぶ	消毒薬を予習しておく 消毒の意義と消毒方法を復習する
	到達目標	消毒の意義と消毒方法を説明できる	
9	授業内容	食品と疾病 1 栄養素の欠乏または過剰について学ぶ	栄養素について予習しておく 栄養素の欠乏または過剰を復習する
	到達目標	栄養素の欠乏または過剰を説明できる	
10	授業内容	食品と疾病 2 食中毒の概要について学ぶ	食中毒の種類を予習しておく 食中毒の概要を復習する
	到達目標	食中毒の概要を説明できる	
11	授業内容	食品と疾病 3 微生物性食中毒、細菌学の基礎について学ぶ	病原微生物を予習しておく 微生物性食中毒､細菌学の基礎を復習する
	到達目標	微生物性食中毒、細菌学の基礎を説明できる	
12	授業内容	食品と疾病 4 細菌性及びウイルス性食中毒について学ぶ	病原微生物を予習しておく 細菌性及びウイルス性食中毒を復習する
	到達目標	細菌性及びウイルス性食中毒を説明できる	
13	授業内容	食品と疾病 5 寄生虫性食中毒について学ぶ	病原微生物を予習しておく 寄生虫性食中毒を復習する
	到達目標	寄生虫性食中毒を説明できる	
14	授業内容	食品と疾病 6 自然毒及び化学物質性食中毒について学ぶ	カビ・化学物質を予習しておく 自然毒及び化学物質性食中毒を復習する
	到達目標	自然毒及び化学物質性食中毒を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	一般臨床医学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	宮坂　卓治	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
臨床に欠かせない正確な病態把握、施術の適否の判断、適切な施術法を決定するための基礎的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標
診察法の内容を説明できる。 診察法を実際に行うことができる。
授業の内容
診察に必要な基礎的な知識を学びます。 柔道整復師として必要な主な内科的疾患を学びます。 診察内容と各内科的疾患を結び付けていきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
一般臨床医学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　奈良信雄他著編　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます：「http://merckmanual.jp/mmpej/index.html」X線画像等も無料
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて45分程度の予習を行って下さい。わからない語句は事前に調べておく。 復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて45分程度調べる。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめる。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、診察概論 診察の意義、診察の進め方について学ぶ	診察の意義､診察の進め方を復習する
	到達目標	診察の意義、診察の進め方を説明できる	
2	授業内容	医療面接、視診 1 医療面接の概要、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態について学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 医療面接の概要、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態を復習する
	到達目標	医療面接の概要、体格・体型、体位・姿勢、栄養状態を説明できる	
3	授業内容	視診 2 精神状態、不随意運動、麻痺について学ぶ	神経系･筋骨格系を予習しておく 精神状態、不随意運動、麻痺を復習する
	到達目標	精神状態、不随意運動、麻痺を説明できる	
4	授業内容	視診 3 運動失調、歩行、皮膚の状態について学ぶ	運動器･皮膚の構造を予習しておく 運動失調、歩行、皮膚の状態を復習する
	到達目標	運動失調、歩行、皮膚の状態を説明できる	
5	授業内容	視診 4 頭部・顔面の視診について学ぶ	頭部・顔面を予習しておく 頭部・顔面の視診を復習する
	到達目標	頭部・顔面の視診を説明できる	
6	授業内容	視診 5 頸部・胸部・腹部の視診について学ぶ	頸部・胸部・腹部を予習しておく 頸部・胸部・腹部の視診を復習する
	到達目標	頸部・胸部・腹部の視診を説明できる	
7	授業内容	視診 6 背部・腰部・四肢の視診について学ぶ	背部・腰部・四肢を予習しておく 背部・腰部・四肢の視診を復習する
	到達目標	背部・腰部・四肢の視診を説明できる	
8	授業内容	打診、聴診 打診・聴診の概要、各部の打診・聴診について学ぶ	胸部・腹部を予習しておく 打診・聴診の概要、各部の打診・聴診を復習する
	到達目標	打診・聴診の概要、各部の打診・聴診を説明できる	
9	授業内容	触診、生命徴候 1 触診の概要、各部の触診、体温について学ぶ	内臓の位置を予習しておく 触診の概要、各部の触診、体温を復習する
	到達目標	触診の概要、各部の触診、体温を説明できる	
10	授業内容	生命徴候 2、感覚検査 1 血圧・脈拍・呼吸、感覚検査の概要について学ぶ	呼吸系・脈管系を予習しておく 血圧・脈拍・呼吸、感覚検査の概要を復習する
	到達目標	血圧・脈拍・呼吸、感覚検査の概要を説明できる	
11	授業内容	感覚検査 2、反射検査 1 各感覚検査、反射検査の概要について学ぶ	反射の生理を予習しておく 各感覚検査､反射検査の概要を復習する
	到達目標	各感覚検査、反射検査の概要を説明できる	
12	授業内容	反射検査 2、検査法 各反射検査、心電図・脳波・筋電図検査について学ぶ	反射の生理を予習しておく 各反射検査、心電図・脳波・筋電図検査を復習する
	到達目標	各反射検査、心電図・脳波・筋電図検査を説明できる	
13	授業内容	呼吸器疾患 1 かぜ症候群、気管支炎、肺炎などについて学ぶ	呼吸系を予習しておく かぜ症候群、気管支炎、肺炎などを復習する
	到達目標	かぜ症候群、気管支炎、肺炎などを説明できる	
14	授業内容	呼吸器疾患 2 慢性閉塞性肺疾患、肺癌などについて学ぶ	呼吸系を予習しておく 慢性閉塞性肺疾患､肺癌などを復習する
	到達目標	慢性閉塞性肺疾患、肺癌などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	一般臨床医学Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	宮坂　卓治	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
臨床に欠かせない正確な病態把握、施術の適否の判断、適切な施術法を決定するための基礎的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標
代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙でき、これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明できる。 現代医療における主要な課題について説明できる。
授業の内容
柔道整復師として必要な主な内科的疾患を学びます。 診察内容と各内科的疾患を結び付けていきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
一般臨床医学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　奈良信雄他著編　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます：「http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」 X線画像等も無料
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて45分程度の予習を行って下さい。わからない語句は事前に調べておく。 復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて45分程度調べる。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめる。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、循環器疾患 1 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などについて学ぶ	心臓の解剖を予習しておく 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などを復習する
	到達目標	虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などを説明できる	
2	授業内容	循環器疾患 2 心不全、高血圧、動脈瘤、バージャー病などについて学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 心不全、高血圧、動脈瘤、バージャー病などを復習する
	到達目標	心不全、高血圧、動脈瘤、バージャー病などを説明できる	
3	授業内容	消化器疾患 1 食道疾患、胃疾患などについて学ぶ	食道、胃・十二指腸の解剖・機能を復習しておく 食道疾患､胃疾患などを復習する
	到達目標	食道疾患、胃疾患などを説明できる	
4	授業内容	消化器疾患 2 虫垂炎、腸疾患などについて学ぶ	小腸･大腸の解剖を予習しておく 虫垂炎、腸疾患などを復習する
	到達目標	虫垂炎、腸疾患などを説明できる	
5	授業内容	消化器疾患 3 肝・胆・膵疾患などについて学ぶ	肝・胆・膵の解剖・機能を予習しておく 肝・胆・膵疾患などを復習する
	到達目標	肝・胆・膵疾患などを説明できる	
6	授業内容	代謝疾患 1 糖尿病・脂質異常症などについて学ぶ	膵臓の機能を予習しておく 糖尿病･脂質異常症などを復習する
	到達目標	糖尿病・脂質異常症などを説明できる	
7	授業内容	代謝疾患 2 メタボリックシンドローム、痛風などについて学ぶ	代謝機能を予習しておく メタボリックシンドローム､痛風などを復習する
	到達目標	メタボリックシンドローム、痛風などを説明できる	
8	授業内容	内分泌疾患 1 概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などについて学ぶ	内分泌系を予習しておく 概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などを復習する
	到達目標	概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などを説明できる	
9	授業内容	内分泌疾患 2 副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などについて学ぶ	内分泌系を予習しておく 副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などを復習する
	到達目標	副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などを説明できる	
10	授業内容	血液・造血器疾患 赤血球・白血球・リンパ系疾患などについて学ぶ	血液の生理を予習しておく 赤血球･白血球･リンパ系疾患などを復習する
	到達目標	赤血球・白血球・リンパ系疾患などを説明できる	
11	授業内容	腎・尿路疾患 腎・糸球体疾患、尿路疾患などについて学ぶ	泌尿器系を予習しておく 腎・糸球体疾患、尿路疾患などを復習する
	到達目標	腎・糸球体疾患、尿路疾患などを説明できる	
12	授業内容	神経疾患 脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などについて学ぶ	中枢神経を予習しておく 脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などを復習する
	到達目標	脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などを説明できる	
13	授業内容	感染症 感染症の概要、各疾患について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の概要､各疾患などを復習する
	到達目標	感染症の概要、各疾患を説明できる	
14	授業内容	リウマチ、膠原病、アレルギー 膠原病・アレルギーの概要、各疾患などについて学ぶ	免疫を予習しておく 膠原病･アレルギーの概要、各疾患などを復習する
	到達目標	膠原病・アレルギーの概要、各疾患などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	運動傷害学概論	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	秋津　知宏	E-mail		実施時期	２年　後期		

授業の目的
柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに整形外科領域の疾患の病態及びその診察法・治療法を把握することを目的とします。
到達目標
整形外科的疾患の病態を把握できる。 整形外科的疾患の診察法・治療法を説明できる。
授業の内容
整形外科的疾患の概要及び主要疾患の病態を学びます。 整形外科的疾患の診察法・治療法を学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
整形外科学　改訂第4版　全国柔道整復学校協会監修　松下隆・福林徹・田渕健一編　南江堂
参考文献・図書
標準整形外科学　医学書院
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、整形外科的診察法１ 疾患把握に必要な知識について学ぶ	疾患把握に必要な診察を復習する
	到達目標	疾患把握に必要な知識について説明できる	
2	授業内容	整形外科的診察法２ 疾患把握に必要な姿勢・肢長・周径などについて学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 疾患把握に必要な診察を復習する
	到達目標	疾患把握に必要な姿勢・肢長・周径などを説明できる	
3	授業内容	整形外科的診察法３ 疾患把握に必要な歩行・拘縮などについて学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 疾患把握に必要な診察を復習する
	到達目標	疾患把握に必要な歩行・拘縮などを説明できる	
4	授業内容	整形外科的検査法１ 画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ	骨の構造を予習しておく 整形外科的検査法を復習する
	到達目標	画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などを説明できる	
5	授業内容	整形外科的検査法２ 画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ	骨の構造を予習しておく 整形外科的検査法を復習する
	到達目標	画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などを説明できる	
6	授業内容	整形外科的検査法３ 画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などについて学ぶ	骨の構造を予習しておく 整形外科的検査法を復習する
	到達目標	画像・骨密度・関節鏡・超音波検査などを説明できる	
7	授業内容	整形外科的治療法 整形外科で行われる保存療法・観血療法について学ぶ	骨折･脱臼等の治療法を予習しておく 整形外科的治療法を復習する
	到達目標	整形外科で行われる保存療法・観血療法を説明できる	
8	授業内容	感染性疾患 骨・関節の感染性疾患について学ぶ	骨の構造を予習しておく 骨･関節の感染性疾患を復習する
	到達目標	骨・関節の感染性疾患を説明できる	
9	授業内容	骨腫瘍 骨の悪性・良性腫瘍について学ぶ	骨の構造･感染性疾患を予習しておく 骨の悪性・良性腫瘍を復習する
	到達目標	骨の悪性・良性腫瘍を説明できる	
10	授業内容	軟部腫瘍 運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍について学ぶ	運動器の構造を予習しておく 運動器の軟部組織の悪性･良性腫瘍を復習する
	到達目標	運動器の軟部組織の悪性・良性腫瘍を説明できる	
11	授業内容	全身性骨・軟部疾患 骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患について学ぶ	骨の構造、代謝を予習しておく 骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患を復習する
	到達目標	骨系統疾患、神経線維腫症、代謝・内分泌疾患を説明できる	
12	授業内容	骨端症 1 下肢の骨端症について学ぶ	成長期の骨を予習しておく 下肢の骨端症を復習する
	到達目標	下肢の骨端症を説明できる	
13	授業内容	骨端症 2 上肢、その他の骨端症について学ぶ	成長期の骨を予習しておく 骨端症を復習する
	到達目標	上肢、その他の骨端症を説明できる	
14	授業内容	四肢の循環障害 末梢動脈疾患、レイノー症候群、深部静脈血栓症、静脈瘤について学ぶ	四肢の循環障害を復習する
	到達目標	骨粗鬆症を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	高齢者傷害学概論	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	秋津　知宏	E-mail		実施時期	３年　前期		

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに整形外科領域のとくに高齢者などにみられる疾患、病態及びその診察法・治療法を把握することを目的とします。

到達目標

整形外科的疾患の病態を把握できる。
整形外科的疾患の診察法・治療法を説明できる。

授業の内容

整形外科的疾患の概要及び主要疾患の病態を学びます。
整形外科的疾患の診察法・治療法を学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

整形外科学　改訂第4版　全国柔道整復学校協会監修　松下隆・福林徹・田渕健一編　南江堂

参考文献・図書

標準整形外科学　医学書院

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 運動傷害学概論Ⅰの復習	運動傷害学概論Ⅰの内容を復習しておく
	到達目標	運動傷害学概論Ⅰの内容を説明できる	
2	授業内容	非感染性疾患 1 変形性関節症・関節リウマチについて学ぶ	関節の構造を予習しておく 変形性関節症･関節リウマチを復習する
	到達目標	変形性関節症・関節リウマチを説明できる	
3	授業内容	非感染性疾患 2 痛風・偽性痛風、血友病性関節症について学ぶ	代謝疾患･血友病を予習しておく 痛風･偽性痛風、血友病性関節症を復習する
	到達目標	痛風・偽性痛風、血友病性関節症を説明できる	
4	授業内容	非感染性疾患 3 離断性骨軟骨炎・関節遊離体・その他の関節症について学ぶ	関節の解剖を予習しておく 離断性骨軟骨炎・関節遊離体・その他の関節症を復習する
	到達目標	離断性骨軟骨炎・関節遊離体・その他の関節症を説明できる	
5	授業内容	非感染性疾患 4 骨粗鬆症について学ぶ	骨の構造・組織を予習しておく 骨粗鬆症を復習する
	到達目標	末梢動脈疾患、レイノー症候群、深部静脈血栓症、静脈瘤を説明できる	
6	授業内容	神経・筋疾患 1 神経麻痺、絞扼性神経障害について学ぶ	末梢神経の走行を予習しておく 神経麻痺､絞扼性神経障害を復習する
	到達目標	神経麻痺、絞扼性神経障害を説明できる	
7	授業内容	神経・筋疾患 2 腕神経叢損傷・分娩麻痺について学ぶ	腕神経叢の構成を予習しておく 腕神経叢損傷･分娩麻痺を復習する
	到達目標	腕神経叢損傷・分娩麻痺を説明できる	
8	授業内容	神経・筋疾患 3 全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷について学ぶ	脊髄の構造を予習しておく 全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷を復習する
	到達目標	神経・筋疾患 1 神経麻痺、絞扼性神経障害を説明できる	
9	授業内容	部位別各論　体幹 1 頸部・胸部の損傷・疾患について学ぶ	頸部･胸部の解剖を予習しておく 頸部・胸部の損傷・疾患を復習する
	到達目標	頸部・胸部の損傷・疾患を説明できる	
10	授業内容	部位別各論　体幹 2 腰部の損傷・疾患について学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰部の損傷・疾患を復習する
	到達目標	腰部の損傷・疾患を説明できる	
11	授業内容	部位別各論　上肢 1 肩関節・肩甲帯の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 肩関節・肩甲帯の損傷・疾患を復習する
	到達目標	肩関節・肩甲帯の損傷・疾患を説明できる	
12	授業内容	部位別各論　上肢 2 上腕・肘関節の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 上腕・肘関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	上腕・肘関節の損傷・疾患を説明できる	
13	授業内容	部位別各論　下肢 1 骨盤・股関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 骨盤・股関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	骨盤・股関節の損傷・疾患を説明できる	
14	授業内容	部位別各論　下肢 2 大腿・膝関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 大腿・膝関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	大腿・膝関節の損傷・疾患を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	外科学概論Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	角谷　英治	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに外科領域の疾患・損傷とそれに対する対処法・治療法を理解し、柔道整復師として必要な知識を習得することを目的とします。
到達目標
外科的疾患・損傷及び対処法・治療法を説明できる。 以上の事項を柔道整復師としての業務に応用できる。
授業の内容
外科学の基礎的な内容を学びます。 主要な疾患・損傷の概要を学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
外科学概論　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　炭山嘉伸編　南江堂 柔道整復師のための救急医学　全国柔道整復学校協会監修　太田祥一編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、外科学とは、損傷 外科学の概要、損傷の分類、各部の損傷について学ぶ	外科学の概要、損傷の分類、各部の損傷を復習する
	到達目標	外科学の概要、損傷の分類、各部の損傷を説明できる	
2	授業内容	創傷 創傷の処置、感染予防、治療過程について学ぶ	皮膚の構造を予習しておく 創傷の処置、感染予防・治療過程を復習する
	到達目標	創傷の処置、感染予防、治療過程を説明できる	
3	授業内容	熱傷 熱傷の原因・分類、評価、処置・治療、合併症について学ぶ	皮膚の構造を予習しておく 熱傷の原因・分類、評価、処置・治療、合併症を復習する
	到達目標	熱傷の原因・分類、評価、処置・治療、合併症を説明できる	
4	授業内容	炎症と外科感染症 炎症の定義・分類、発症メカニズム、各外科感染症について学ぶ	炎症、病原微生物を予習しておく 炎症の定義・分類、発症メカニズム、各外科感染症を復習する
	到達目標	炎症の定義・分類、発症メカニズム、各外科感染症を説明できる	
5	授業内容	腫瘍 腫瘍の概要、種類・発育形式・症状・診断・治療・疫学について学ぶ	組織・臓器を予習しておく 腫瘍の概要、種類・発育形式・症状・診断・治療・疫学を復習する
	到達目標	腫瘍の概要、種類・発育形式・症状・診断・治療・疫学を説明できる	
6	授業内容	ショック ショックの種類と緊急処置について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく ショックの種類と緊急処置を復習する
	到達目標	ショックの種類と緊急処置を説明できる	
7	授業内容	輸血・輸液 輸血の概要と実際、一般輸液・高カロリー輸液について学ぶ	体液の成分を予習しておく 輸血の概要と実際、一般輸液・高カロリー輸液を復習する
	到達目標	輸血の概要と実際、一般輸液・高カロリー輸液を説明できる	
8	授業内容	消毒と滅菌 消毒薬の種類、消毒の実際、滅菌方法について学ぶ	病原微生物を予習しておく 消毒薬の種類、消毒の実際、滅菌方法を復習する
	到達目標	消毒薬の種類、消毒の実際、滅菌方法を説明できる	
9	授業内容	手術 手術の準備と各種手術法について学ぶ	皮膚の構造・消毒を予習しておく 手術の準備と各種手術法を復習する
	到達目標	手術の準備と各種手術法を説明できる	
10	授業内容	麻酔 麻酔の概要・準備、全身・局所麻酔について学ぶ	呼吸系・脈管系を予習しておく 麻酔の概要・準備、全身・局所麻酔を復習する
	到達目標	麻酔の概要・準備、全身・局所麻酔を説明できる	
11	授業内容	移植と免疫 移植に関連する用語、代表的臓器移植について学ぶ	血液成分・免疫を予習しておく 移植に関連する用語、代表的臓器移植を復習する
	到達目標	移植に関連する用語、代表的臓器移植を説明できる	
12	授業内容	出血と止血 出血の概要と種類、止血方法について学ぶ	脈管系を予習しておく 出血の概要と種類、止血方法を復習する
	到達目標	出血の概要と種類、止血方法を説明できる	
13	授業内容	心肺蘇生法 意識障害、心肺蘇生法の実際について学ぶ	呼吸系・脈管系を予習しておく 意識障害、心肺蘇生法の実際を復習する
	到達目標	意識障害、心肺蘇生法の実際を説明できる	
14	授業内容	まとめ１ 本講義の内容について復習をしていく	
	到達目標	本講義の内容を説明している	
15	授業内容	まとめ２(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	外科学概論Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	角谷　英治	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに外科領域の疾患・損傷とそれに対する対処法・治療法を理解し、柔道整復師として必要な知識を習得することを目的とします。

到達目標

外科的疾患・損傷及び対処法・治療法を説明できる。
以上の事項を柔道整復師としての業務に応用できる。

授業の内容

外科学の基礎的な内容を学びます。
主要な疾患・損傷の概要を学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

外科学概論　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　炭山嘉伸編　南江堂
柔道整復師のための救急医学　全国柔道整復学校協会監修　太田祥一編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、脳神経外科疾患 1 脳神経系の構造、疾患の主要徴候について学ぶ	脳・神経系の構造、疾患の主要徴候を復習する
	到達目標	脳神経系の構造、疾患の主要徴候を説明できる	
2	授業内容	脳神経外科疾患 2 中枢性疾患特有の病態、検査について学ぶ	脳･神経系の構造を予習しておく 中枢性疾患特有の病態､検査を復習する
	到達目標	中枢性疾患特有の病態、検査を説明できる	
3	授業内容	脳神経外科疾患 3 主な神経性疾患について学ぶ	頭部の構造を予習しておく 主な神経性疾患を復習する
	到達目標	主な神経性疾患を説明できる	
4	授業内容	甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患 1 甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術について学ぶ	頸部･胸部の解剖を予習しておく 甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術を復習する
	到達目標	甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術を説明できる	
5	授業内容	胸壁・呼吸器疾患 2 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷について学ぶ	胸部の構造を予習しておく 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷を復習する
	到達目標	肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷を説明できる	
6	授業内容	心臓・脈管疾患 1 検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎を復習する
	到達目標	検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎を説明できる	
7	授業内容	心臓・脈管疾患 2 心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患を復習する
	到達目標	心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患を説明できる	
8	授業内容	心臓・脈管疾患 3 動脈・静脈疾患について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 動脈・静脈疾患を復習する
	到達目標	動脈・静脈疾患を説明できる	
9	授業内容	乳腺疾患 乳腺部の診断・主な疾患について学ぶ	乳腺部の解剖を予習しておく 乳腺部の診断･主な疾患を復習する
	到達目標	乳腺部の診断・主な疾患を説明できる	
10	授業内容	腹部外科疾患 1 消化器の解剖と生理について学ぶ	消化器の解剖･機能を予習しておく 消化器の解剖と生理を復習する
	到達目標	消化器の解剖と生理を説明できる	
11	授業内容	腹部外科疾患 2 腹部疾患の主な症状について学ぶ	消化器の解剖･機能を予習しておく 腹部疾患の主な症状を復習する
	到達目標	腹部疾患の主な症状を説明できる	
12	授業内容	腹部外科疾患 3 腹部疾患の主な検査について学ぶ	消化器の解剖･機能を予習しておく 腹部疾患の主な検査を復習する
	到達目標	腹部疾患の主な検査を説明できる	
13	授業内容	腹部外科疾患 4 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患について学ぶ	消化管を予習しておく 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患を復習する
	到達目標	食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患を説明できる	
14	授業内容	腹部外科疾患 5 肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患について学ぶ	消化腺を予習しておく 肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患を復習する
	到達目標	肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	リハビリテーション概論	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	奥田　正作	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
柔道整復師は医療の一端を担う一員として障害に対するリハビリテーションの現場に就職するものもいます。この科目では、様々な職種と協力してリハビリテーションに臨めるように柔道整復師として必要な知識を身につけることを目的とします。
到達目標
リハビリテーション医学の概要を説明できる。 障害に対する評価法と治療法を説明できる。 リハビリテーションの実際を説明できる。
授業の内容
リハビリテーション医学の概要・評価法・治療法を学びます。 リハビリテーションが必要な疾患について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
リハビリテーション医学　改訂第４版　全国柔道整復学校協会監修　三上真弘編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日：　月曜日 時間：　授業終了後
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、概論 1 リハビリテーションの歴史と日常生活動作について学ぶ	リハビリテーションの歴史と日常生活動作を復習する
	到達目標	リハビリテーションの歴史と日常生活動作を説明できる	
2	授業内容	概論 2 国際障害分類と国際生活機能分類について学ぶ	障害の分類を予習しておく 国際障害分類と国際生活機能分類を復習する
	到達目標	国際障害分類と国際生活機能分類を説明できる	
3	授業内容	概論 3 障害とそれに対するアプローチについて学ぶ	障害について予習しておく 障害とアプローチを復習する
	到達目標	障害とそれに対するアプローチを説明できる	
4	授業内容	概論 4 高齢者を中心とする社会保障制度などについて学ぶ	高齢者医療を予習しておく 運動器の評価を復習する
	到達目標	高齢者を取り巻く環境と制度を説明できる	
5	授業内容	評価 正常発達を含む基本的な評価を学ぶ	基礎的な解剖学用語を予習しておく 基本的な評価を復習する
	到達目標	基本的な評価を説明できる	
6	授業内容	治療 1 神経筋疾患に対する評価と治療について学ぶ	神経筋疾患を予習しておく 神経筋疾患の評価と治療を復習する
	到達目標	神経筋疾患に対する評価と治療について説明できる	
7	授業内容	治療 2 中枢神経損傷に対する評価と治療について学ぶ	中枢神経損傷を予習しておく 中枢神経損傷に対する評価と治療を復習する
	到達目標	中枢神経損傷に対する評価と治療について説明できる	
8	授業内容	治療 3 高次脳機能障害(失語症など)について学ぶ	高次脳機能障害(失語症など)を予習しておく 失語症を復習する
	到達目標	高次脳機能障害(失語症など)について説明できる	
9	授業内容	治療 4 高次脳機能障害(失行・失認など)について学ぶ	高次脳機能障害(失行･失認など)を予習しておく 失行・失認について復習する
	到達目標	高次脳機能障害(失行・失認など)について説明できる	
10	授業内容	治療 5 構音障害・嚥下について学ぶ	構音障害・嚥下を予習しておく 嚥下のメカニズムを復習する
	到達目標	構音障害・嚥下について説明できる	
11	授業内容	治療 6 慢性疼痛について学ぶ	疼痛について予習しておく 慢性疼痛について復習する
	到達目標	慢性疼痛について説明できる	
12	授業内容	治療 7 基本的なリハビリテーションの治療技術ついて学ぶ	リハビリテーション治療技術を予習しておく 基本的なリハビリテーションの治療技術を復習する
	到達目標	基本的なリハビリテーションの治療技術ついて説明できる	
13	授業内容	治療 8 補装具について学ぶ	補装具について予習しておく 補装具について復習する
	到達目標	補装具について説明できる	
14	授業内容	治療 9 障害者スポーツについて学ぶ	障害者スポーツを予習しておく 障害者スポーツを復習する
	到達目標	障害者スポーツについて説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道整復術の適応	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	秋津　知宏	E-mail		実施時期		１年　前期	

授業の目的

業務を行うに当たり、対象となる損傷が柔道整復術の業務範囲であるかを判断できる能力を養い、また施術可能な方法についての知識を身につけることを目的とします。

到達目標

柔道整復術が適応となる損傷を判断できる。

柔道整復師が可能な施術を説明できる。

授業の内容

柔道整復術の適応・不適応を学びます。柔道整復師が行える施術方法を学びます。また、各損傷・病態について時間内に調べてまとめる作業を行う。

教科書・配布プリントデータを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。

授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。

途中退出は欠席扱いになることがあります。

課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。

学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。

合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

医療の中の柔道整復　全国柔道整復学校協会監修　有沢 治著　南江堂

柔道整復学・理論編　改訂第 6 版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

柔道整復学・実技編　改訂第 2 版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

標準整形外科学　医学書院

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 柔道整復師の役割について学ぶ	柔道整復師について予習しておく
	到達目標	柔道整復師の役割について説明できる	
2	授業内容	柔道整復術の適否について学ぶ	柔道整復師について予習しておく
	到達目標	柔道整復術の適否について説明できる	
3	授業内容	病態 1 骨粗鬆症(こつそしょうしょう)について調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	骨粗鬆症について説明できる	
4	授業内容	病態 2 リウマチについて調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	リウマチについて説明できる	
5	授業内容	病態 3 痛風(つうふう)について調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	痛風について説明することができる	
6	授業内容	病態 4 脊柱管狭窄症(せきちゅうかんきょうさくしょう)について調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	脊柱管狭窄症について説明できる	
7	授業内容	病態 5 変形性膝関節症(へんけいせいひざかんせつしょう)について調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	変形性膝関節症について説明できる	
8	授業内容	病態 6 腰椎分離症(ようついぶんりしょう)について調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	腰椎分離症について説明できる	
9	授業内容	病態 7 腰椎椎間板ヘルニア(ようついついかんばんへるにあ)について調べる	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	腰椎椎間板ヘルニアについて説明できる	
10	授業内容	整形外科で使用する検査 1 レントゲンについて調べる	調べた検査について復習しておく
	到達目標	レントゲンについて説明できる	
11	授業内容	整形外科で使用する検査 2 ＣＴスキャンについて調べる	調べた検査について復習しておく
	到達目標	ＣＴスキャンについて説明できる	
12	授業内容	整形外科で使用する検査 3 ＭＲＩについて調べる	調べた検査について復習しておく
	到達目標	ＭＲＩについて説明できる	
13	授業内容	柔道整復師でも使用できる検査 超音波について調べる	調べた検査について復習しておく
	到達目標	内臓損傷の合併が疑われる損傷について説明できる	
14	授業内容	まとめ 1 本講義の内容について復習する	調べた損傷･病態について復習しておく
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅰ	単位数	１単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田　勲生	E-mail		実施時期	１年　　後期		

授業の目的
１．投技・固技の基本的な動きを身につける。 ２．相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。 ３．柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれるようにする。 ４．受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。
到達目標
武道を通じて、患者さんやチーム医療者に対する礼儀作法を身につける。 柔道でのけがを予防するための受け身を学ぶ。
授業の内容
１．教員が実技を行いながら口頭で説明する。 ２．教員の説明を理解し、指示された実技を行う。 ３．柔道衣の着方を身につける。 ４．審判規定を理解する。
注意事項
１．受け身の重要性を充分理解すること。 ２．準備体操を怠らないようにすること。
成績評価
１．試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。 ２．総授業回数の４／５以上出席した者を評価の対象とする。１／５以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。 ３．平常点（出席・態度）20 点、実技点 80 点、合計 100 点で評価を行う。 ４．減点については、欠席 5 点、遅刻・早退 2 点、見学 2 点、柔道着忘れ 2 点の減点とする。 ５．実技試験と平常の成績の合計点数が 60 点以上の者を及第とし単位を認定する。 ６．試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。 ７．見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については 3 点減点とする。
テキスト
柔道
参考文献・図書
講道館柔道ＤＶＤ投の形（講道館）
オフィスアワーについて
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション・柔道について 柔道の歴史やルールについて学ぶ	柔道のルールを復習する
	到達目標	柔道の歴史やルールを理解できる	
2	授業内容	体操の方法、受け身・礼法・柔道着の着方、取扱い 体操の方法、受け身・礼法・柔道着の着方、取扱い等について学ぶ	準備体操で行う動きを予習しておく 柔道着の着方を復習する
	到達目標	柔道着の扱い方法と礼法を身につける	
3	授業内容	投技の基本的技能 1 受身について学ぶ	受身の種類を予習しておく 柔道着の着方と受け身の重要性を復習する
	到達目標	受け身の重要性を理解する	
4	授業内容	投技の基本的技能 2 体捌き、崩し、後ろ受け身(移動、応用)について学ぶ	柔道時の足運びを予習しておく 足さばきを復習する
	到達目標	柔道の基本的な足さばきができる	
5	授業内容	投技の基本的技能 3 横受け身、前受け身、前回り受け身について学ぶ	前回り受け身を予習しておく 前回り受け身の練習をしておく
	到達目標	前・後・横受け身がとれる	
6	授業内容	投技の基本的技能 4 前回り受け身、寝技の攻め方、受け方について学ぶ	足技を予習しておく 全ての受け身を復習する
	到達目標	全ての受け身がとれる	
7	授業内容	投技の対人的技能 1 足技：膝車・支釣込足＋横受け身について学ぶ	足技の予習をしておく 膝車・支釣込足を復習する
	到達目標	足技ができる	
8	授業内容	投技の対人的技能 2 足技：大外刈＋後ろ受け身について学ぶ	足技の予習をしておく 大外刈を復習する
	到達目標	足技ができる	
9	授業内容	投技の対人的技能 3 腰技：大腰＋前回り受け身について学ぶ	腰技を予習しておく 大腰を復習する
	到達目標	腰技の取りと受けができる	
10	授業内容	投技の対人的技能 4 手技：背負投＋前回り受け身について学ぶ	手技を予習しておく 背負投を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
11	授業内容	投技の対人的技能 5 寝技の基本的技能 1：攻め方、守り方、抑込技について学ぶ	寝技の種類を予習しておく 寝技のルールと攻め方･守り方を復習する
	到達目標	寝技の種類を理解する	
12	授業内容	投技の対人的技能 6 寝技の対人的技能 2：抑込技について学ぶ	抑込技と返し方を予習しておく 抑込技と返し方を復習する
	到達目標	抑込技ができる	
13	授業内容	投技の対人的技能 7 寝技の対人的技能 3：絞め技・関節技について学ぶ	絞め技と関節技の予習しておく 絞め技と関節技の復習をする
	到達目標	絞め技・関節技ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅱ-1	単位数	１単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田　勲生	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
１．投技・固技の基本的な動きを身につける。 ２．相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。 ３．柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれるようにする。 ４．受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。
到達目標
相手を尊重しながら投技や固技を行うことができるようになる。 安全な柔道ができる環境を理解する。
授業の内容
１．教員が実技を行いながら口頭で説明する。 ２．教員の説明を理解し、指示された実技を行う。 ３．柔道衣の着方を身につける。 ４．審判規定を理解する。
注意事項
１．受け身の重要性を充分理解すること。 ２．準備体操を怠らないようにすること。
成績評価
１．試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。 ２．総授業回数の４／５以上出席した者を評価の対象とする。１／５以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。 ３．平常点（出席・態度）20 点、実技点 80 点、合計 100 点で評価を行う。 ４．減点については、欠席 5 点、遅刻・早退 2 点、見学 2 点、柔道着忘れ 2 点の減点とする。 ５．実技試験と平常の成績の合計点数が 60 点以上の者を及第とし単位を認定する。 ６．試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。 ７．見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については 3 点減点とする。
テキスト
柔道
参考文献・図書
講道館柔道ＤＶＤ投の形（講道館）
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔道Ⅰの復習	受け身を予習しておく 受身を復習する
	到達目標	受身ができている	
2	授業内容	投技・寝技の対人的技能 1 投の形（礼法）について学ぶ	投の形を行う時の礼法を予習しておく 礼法を復習する
	到達目標	形演武時の受け身の取り方を理解できる	
3	授業内容	投技・寝技の対人的技能 2 投の形（浮落）について学ぶ	浮落を予習しておく 浮落（右）の形を復習する
	到達目標	浮落の取りと受けができる	
4	授業内容	投技・寝技の対人的技能 3 投の形（浮落）について学ぶ	浮落を予習しておく 浮落（左）の形を復習しておく
	到達目標	浮落の取りと受けができる	
5	授業内容	投技・寝技の対人的技能 4 投の形（背負投）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（右）の形を復習する
	到達目標	背負投げの取りと受けができる	
6	授業内容	投技・寝技の対人的技能 5 投の形（背負投）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（左）の形を復習する
	到達目標	背負投げの取りと受けができる	
7	授業内容	投技・寝技の対人的技能 6 投の形（肩車）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（右）の形を復習する
	到達目標	肩車の取りと受けができる	
8	授業内容	投技・寝技の対人的技能 7 投の形（肩車）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（左）の形を復習する
	到達目標	肩車の取りと受けができる	
9	授業内容	投技・寝技の対人的技能 8 投の形（手技）について学ぶ	浮落を予習しておく 浮落（対人）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
10	授業内容	投技・寝技の対人的技能 9 投の形（手技）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（対人・右）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
11	授業内容	投技・寝技の対人的技能 10 投の形（手技）について学ぶ	背負投を予習しておく 背負投（対人・左）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
12	授業内容	投技・寝技の対人的技能 11 投の形（手技）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（対人・右）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
13	授業内容	投技・寝技の対人的技能 12 投の形（手技）について学ぶ	肩車を予習しておく 肩車（対人・左）を復習する
	到達目標	手技の取りと受けができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習の内容について確認･復習をする
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅱ-2	単位数	１単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・(無)
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	吉田　勲生	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
１．投技・固技の基本的な動きを身につける。 ２．相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。 ３．受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。 ４．初段程度の技量の習得する
到達目標
受身・投技・固め技について初段程度の技量を習得する。 有段者は昇段もしくは形大会入賞レベルの技量を習得する。
授業の内容
１．教員が実技を行いながら口頭で説明する。 ２．教員の説明を理解し、指示された実技を行う。 ３．形を理解し、指示された実技を行う。
注意事項
１．受け身の重要性を充分理解すること。 ２．準備体操を怠らないようにすること。
成績評価
１．試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。 ２．総授業回数の４／５以上出席した者を評価の対象とする。１／５以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。 ３．平常点（出席・態度）20 点、実技点 80 点、合計 100 点で評価を行う。 ４．減点については、欠席 5 点、遅刻・早退 2 点、見学 2 点、柔道着忘れ 2 点の減点とする。 ５．実技試験と平常の成績の合計点数が 60 点以上の者を及第とし単位を認定する。 ６．試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。 ７．見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については 3 点減点とする。
テキスト
柔道
参考文献・図書
講道館柔道ＤＶＤ投の形（講道館）
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 投の形について学ぶ	受身を予習しておく 投の形を復習する
	到達目標	投の形について理解できる	
2	授業内容	対人的技能 1 投の形（礼法)、(浮落）について学ぶ	浮落を予習する 対人的技能（浮落）を復習する
	到達目標	浮落の受けと取りができる	
3	授業内容	対人的技能 2 投の形（背負投）について学ぶ	背負投を予習しておく 対人的技能（背負投）を復習する
	到達目標	背負投の受けと取りができる	
4	授業内容	対人的技能 3 投の形（肩車）について学ぶ	肩車を予習しておく 対人的技能（肩車）を復習する
	到達目標	肩車の受けと取りができる	
5	授業内容	対人的技能 4 投の形（一本背負投）について学ぶ	一本背負投を予習しておく 対人的技能（一本背負投）を復習する
	到達目標	一本背負投の受けと取りができる	
6	授業内容	対人的技能 5 投の形（浮腰）について学ぶ	浮腰を予習しておく 対人的技能（浮腰）を復習する
	到達目標	浮腰の受けと取りができる	
7	授業内容	対人的技能 6 投の形（釣込腰）について学ぶ	釣込腰を予習しておく対人的技能（釣込腰）を復習する
	到達目標	釣込腰の受けと取りができる	
8	授業内容	対人的技能 7 投の形（払腰）について学ぶ	払腰を予習しておく 対人的技能（払腰）を復習する
	到達目標	払腰の受けと取りができる	
9	授業内容	対人的技能 8 投の形（送足払）について学ぶ	送足払を予習しておく 対人的技能（送足払）を復習する
	到達目標	送足払の受けと取りができる	
10	授業内容	対人的技能 9 投の形（支釣込足）について学ぶ	支釣込足を予習しておく 対人的技能（支釣込足）を復習する
	到達目標	支釣込足の受けと取りができる	
11	授業内容	対人的技能 10 投の形（内股）について学ぶ	内股を予習しておく 対人的技能（内股）を復習する
	到達目標	内股の受けと取りができる	
12	授業内容	対人的技能 11 固の形（袈裟固）について学ぶ	袈裟固を予習しておく 対人的技能（袈裟固）を復習する
	到達目標	袈裟固の受けと取りができる	
13	授業内容	対人的技能 12 固の形（上四方固）について学ぶ	上四方固を予習しておく 対人的技能（上四方固）を復習する
	到達目標	上四方固の受けと取りができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅲ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	吉田　勲生	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 投の形について学ぶ	投の形を覚えておく 受身を復習する
	到達目標	形の受け方ができる	
2	授業内容	投の形 1 礼法、浮落について学ぶ	礼法・浮落を予習しておく 礼法・浮落を復習する
	到達目標	礼法と浮落ができる	
3	授業内容	投の形 2 背負投・肩車について学ぶ	背負投・肩車を予習しておく 背負投・肩車を復習する
	到達目標	背負投と肩車ができる	
4	授業内容	投の形 3 浮腰・払腰について学ぶ	浮腰・払腰を予習しておく 浮腰・払腰を復習する
	到達目標	浮腰・払腰ができる	
5	授業内容	投の形 4 釣込腰・送足払について学ぶ	釣込腰・送足払を予習しておく 釣込腰・送足払を復習する
	到達目標	釣込腰・送足払ができる	
6	授業内容	投の形 5 支釣込足について学ぶ	支釣込足・内股を予習しておく 支釣込足・内股を復習する
	到達目標	支釣込足・内股ができる	
7	授業内容	約束乱取り 約束乱取りを行う	投技を予習しておく 礼法・受身・形・乱取を復習する
	到達目標	約束乱取りができる	
8	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
9	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
10	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
11	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
12	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
13	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
14	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする

注意事項

1. 受け身の重要性を充分理解すること。
2. 準備体操を怠らないようにすること。

成績評価

1. 試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。
2. 総授業回数の４／５以上出席した者を評価の対象とする。１／５以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。
3. 平常点（出席・態度）20点、実技点80点、合計100点で評価を行う。
4. 減点については、欠席5点、遅刻・早退2点、見学2点、柔道着忘れ2点の減点とする。
5. 実技試験と平常の成績の合計点数が60点以上の者を及第とし単位を認定する。
6. 試験内容は、礼法・受身・形・乱取を行う。
7. 見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については3点減点する。

テキスト

柔道

参考文献・図書

講道館柔道教本

オフィスアワーについて

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	
15	授業内容	柔道実技　まとめ 今までの柔道実技を復習していく	全体の復習をする
	到達目標	礼法・受身・形・乱取を行うことができる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	職業倫理	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	北川　肇	E-mail			実施時期	２年　後期	

授業の目的
柔道整復師免許取得後は医療の現場で働くこととなります。この科目では医療の現場で必要な医療人としての職業倫理を中心とした倫理を身につけることを目的とします。
到達目標
職業倫理について説明できる。 医療人としての職業倫理について説明できる。
授業の内容
職業倫理・医療人としての職業倫理を学びます。 グループに分かれ、職業倫理について話し合います。 総意を発表し、それに対し議論をします。
注意事項
筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　全国柔道整復学校協会
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、職業倫理 1 職業倫理の概要について学ぶ	職業倫理の概要を復習する
	到達目標	職業倫理の概要を説明できる	
2	授業内容	職業倫理 2 医の倫理について学ぶ	医療者の倫理を予習しておく 医の倫理を復習する
	到達目標	医の倫理を説明できる	
3	授業内容	個人情報 1 個人情報の概要、法律について学ぶ	個人情報に関する法律を予習しておく 概要、法律を復習する
	到達目標	個人情報の概要、法律を説明できる	
4	授業内容	個人情報 2 個人情報と医療との関連について学ぶ	個人情報に関する法律を予習しておく 医療との関連を復習する
	到達目標	個人情報と医療との関連を説明できる	
5	授業内容	守秘義務 1 法律、開示について学ぶ	守秘義務に関する法律を予習しておく 法律、開示を復習する
	到達目標	法律、開示を説明できる	
6	授業内容	守秘義務 2 SNS などについて学ぶ	守秘義務に関する法律を予習しておく SNS などを復習する
	到達目標	SNS などを説明できる	
7	授業内容	インフォームド・コンセント 説明・同意、対象者などについて学ぶ	インフォームド･コンセントに関する法律・宣言を予習しておく インフォームド･コンセントを復習する
	到達目標	説明・同意、対象者などを説明ができる	
8	授業内容	インフォームド・アセント 説明・同意、対象者などについて学ぶ	インフォームド･アセントに関する法律・宣言を予習しておく インフォームド･アセントを復習する
	到達目標	説明・同意、対象者などを説明ができる	
9	授業内容	ハラスメント 1 ハラスメントの内容について学ぶ	ハラスメントの種類を予習しておく ハラスメントの内容を復習する
	到達目標	ハラスメントの内容を説明できる	
10	授業内容	ハラスメント 2 グループワークを行い、意見を出し合う	ハラスメントについて自分の考えをまとめておく ハラスメントの内容を復習する
	到達目標	ハラスメントの内容を説明できる	
11	授業内容	差別 1 障害者・人種などに対する差別について学ぶ	種々の差別について予習しておく 障害者･人種などに対する差別を復習する
	到達目標	障害者・人種などに対する差別を説明できる	
12	授業内容	差別 2 グループワークを行い、意見を出し合う	差別に対して自分の考えをまとめておく 差別について復習する
	到達目標	障害者・人種などに対する差別を説明できる	
13	授業内容	尊厳死・安楽死 グループワークを行い、意見を出し合う	死や延命について自分の考えをまとめておく 尊厳死・安楽死を復習する
	到達目標	尊厳死・安楽死を説明できる	
14	授業内容	延命医療 グループワークを行い、意見を出し合う	死や延命について自分の考えをまとめておく 延命医療を復習する
	到達目標	延命医療を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	関係法規	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	田中　健吾	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
現代法は禁止･罰則のためだけのものではなく、社会における人の権利を守ることも目的の一つです。医療の分野においても、安心して安全な医療を享受･提供する上で関係法規は必要不可欠であり、それを知ることを目的とします。
到達目標
柔道整復師および柔道整復に関する法規を説明できる。 医療従事者として必要な法規を説明できる。
授業の内容
柔道整復師の免許・業務に関する法を学習します。 施術所に関する法を学習します。 医療従事者の資格法、医療法、社会福祉・社会保険関係法規を学習します。
注意事項
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。
テキスト
関係法規　○○○版　全国柔道整復学校協会　監修
参考文献・図書
官報　https://kanpou.npb.go.jp/index.html 法令検索　http://www.e-gov.go.jp/index.html
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、序論 1 法の意義と体系について学ぶ	法の意義と体系を復習する
	到達目標	法の意義と体系を説明できる	
2	授業内容	序論 2 患者の権利、医療事故と医療過誤について学ぶ	患者の権利を予習しておく 患者の権利､医療事故と医療過誤を復習する
	到達目標	患者の権利、医療事故と医療過誤を説明できる	
3	授業内容	柔道整復師法 1 総則について学ぶ	柔道整復師法を予習しておく 総則を復習する
	到達目標	総則を説明できる	
4	授業内容	柔道整復師法 2 免許要件について学ぶ	免許要件を予習しておく 免許要件を復習する
	到達目標	免許要件を説明できる	
5	授業内容	柔道整復師法 3 柔道整復師名簿について学ぶ	柔道整復師名簿を予習しておく 柔道整復師名簿を復習する
	到達目標	柔道整復師名簿を説明できる	
6	授業内容	柔道整復師法 4 免許証について学ぶ	柔道整復師の免許証を予習しておく 免許証を復習する
	到達目標	免許証を説明できる	
7	授業内容	柔道整復師法 5 業務について学ぶ	柔道整復師の業務を予習しておく 業務を復習する
	到達目標	業務を説明できる	
8	授業内容	柔道整復師法 6 施術所について学ぶ	施術所を予習しておく 施術所を復習する
	到達目標	施術所を説明できる	
9	授業内容	柔道整復師法 7 広告について学ぶ	広告を予習しておく 広告を復習する
	到達目標	広告を説明できる	
10	授業内容	柔道整復師法 8 罰則について学ぶ	罰則を予習しておく 罰則を復習する
	到達目標	罰則を説明できる	
11	授業内容	医療従事者の資格法 1 医師法について学ぶ	医師法を予習しておく 医師法を復習する
	到達目標	医師法を説明できる	
12	授業内容	医療従事者の資格法 2 保健師助産師看護師法他について学ぶ	保健師助産師看護師法を予習しておく 保健師助産師看護師法他を復習する
	到達目標	保健師助産師看護師法他を説明できる	
13	授業内容	関係法規 1 医療法について学ぶ	医療法を予習しておく 医療法を復習する
	到達目標	医療法を説明できる	
14	授業内容	関係法規 2 社会福祉関係法規について学ぶ	社会保険関係法規を予習しておく 社会保険関係法規を復習する
	到達目標	社会福祉関係法規を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

科目名	臨床 コミュニケーション論	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	秋津　知宏	E-mail		実施時期		３年　後期	

授業の目的

柔道整復師が診療するにあたり、必ず問診・医療面接が必要になります。この科目では実際の診療に即した形での問診・医療面接を中心とした診察法と、その注意点や進め方について学び、診察法を身につけることを目的とします。

到達目標

問診・医療面接を実施できる。
施術録を記載できる。
医療人としての倫理を理解できる。

授業の内容

問診・医療面接などの診察法と、注意点・進め方などについて学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
期末試験(筆記試験)を行い、100点満点で評価します。
60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
一般臨床医学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　奈良信雄他著編　医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、診察 1 診察の意義と診断のプロセスについて学ぶ	診察の意義と診断のプロセスを復習する
	到達目標	診察の意義と診断のプロセツを説明できる	
2	授業内容	診察 2 診察の進め方について学ぶ	診察について予習しておく 診察の進め方を復習する
	到達目標	診察の進め方を説明できる	
3	授業内容	診察 3 診察の注意点について学ぶ	診察について予習しておく 診察の注意点を復習する
	到達目標	診察の注意点を説明できる	
4	授業内容	医療面接 1 医療面接の目的について学ぶ	医療面接について予習しておく 医療面接の目的を復習する
	到達目標	医療面接の目的を説明できる	
5	授業内容	医療面接 2 医療面接の概要について学ぶ	医療面接について予習しておく 医療面接の概要を復習する
	到達目標	医療面接の概要を説明できる	
6	授業内容	医療面接 3 初診患者さんとのコミュニケーションについて学ぶ	医療面接について予習しておく 初診患者さんとのコミュニケーションの仕方を復習する
	到達目標	初診患者さんとのコミュニケーションの仕方を説明できる	
7	授業内容	医療面接 4 初診患者さんからの情報収集について学ぶ	医療面接について予習しておく 初診患者さんからの情報収集を復習する
	到達目標	初診患者さんからの情報収集を実施できる	
8	授業内容	医療面接 5 再診患者さんとのコミュニケーションについて学ぶ	医療面接について予習しておく 再診患者さんとのコミュニケーションの仕方を復習する
	到達目標	再診患者さんとのコミュニケーションの仕方を説明できる	
9	授業内容	医療面接 6 再診患者さんからの情報収集について学ぶ	医療面接について予習しておく 再診患者さんからの情報収集を復習する
	到達目標	再診患者さんからの情報収集を実施できる	
10	授業内容	コミュニケーション技法 円滑なコミュニケーションを行うための技法について学ぶ	初診・再診患者さんとのコミュニケーションを予習しておく コミュニケーション技法を復習する
	到達目標	円滑なコミュニケーションを行うための技法を説明できる	
11	授業内容	施術録 施術録の記載方法について学ぶ	施術録について予習しておく 施術録の記載方法を復習する
	到達目標	施術録を記載することができる	
12	授業内容	医療面接の実際 1 課題を与えてグループに分かれてロールプレイを行う	ここまでの授業内容を復習しておく
	到達目標	医療面接をすることができる	
13	授業内容	医療面接の実際 2 課題を与えてグループに分かれてロールプレイを行う	ここまでの授業内容を復習しておく
	到達目標	医療面接をすることができる	
14	授業内容	医療面接の実際 3 課題を与えてグループに分かれてロールプレイを行う	ここまでの授業内容を復習しておく
	到達目標	医療面接をすることができる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	社会保障制度	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	丹生　利博	E-mail		実施時期	３年　後期		

授業の目的
柔道整復学は開業することが可能であることからも医療費等の社会保障制度を理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるような知識を身につけることを目的とします。
到達目標
社会保障制度の概要を説明できる。 柔道整復師が関わる保険制度を説明できる。 柔道整復師の保険施術料金を計算説明できる。
授業の内容
社会保障制度の概要を学びます。 柔道整復師が関わる保険制度について学びます。 保険施術料金を学びます。 グループに分かれて計算し、解答を導き出します。
注意事項
筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　全国柔道整復学校協会
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、社会保障制度 1 社会保障の概要について学ぶ	社会保障の概要を復習する
	到達目標	社会保障の概要を説明できる	
2	授業内容	社会保障制度 2 社会保険について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 社会保険を復習する
	到達目標	社会保険を説明できる	
3	授業内容	社会保障制度 3 社会福祉について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 社会福祉を復習する
	到達目標	社会福祉を説明できる	
4	授業内容	社会保障制度 4 公的扶助について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 公的扶助を復習する
	到達目標	公的扶助を説明できる	
5	授業内容	社会保障制度 5 保健医療・公衆衛生について学ぶ	社会保障制度を予習しておく 保険医療・公衆衛生を復習する
	到達目標	保健医療・公衆衛生を説明できる	
6	授業内容	医療費 1 医療保険、国民医療費について学ぶ	医療費を予習しておく 医療保険､国民医療費を復習する
	到達目標	医療保険、国民医療費を説明できる	
7	授業内容	医療費 2 保険診療について学ぶ	医療費を予習しておく 保険診療を復習する
	到達目標	保険診療を説明できる	
8	授業内容	医療費 3 医療保険財政について学ぶ	医療費を予習しておく 医療保険財政を復習する
	到達目標	医療保険財政を説明できる	
9	授業内容	医療費 4 診療報酬制度について学ぶ	医療費を予習しておく 診療報酬制度を復習する
	到達目標	診療報酬制度を説明できる	
10	授業内容	医療費 5 柔道整復師が関連する療養費について学ぶ	医療費を予習しておく 柔道整復師が関連する療養費を復習する
	到達目標	柔道整復師が関連する療養費を説明できる	
11	授業内容	医療費 6 療養費の算定について学ぶ	医療費を予習しておく 療養費の算定を復習する
	到達目標	療養費の算定を説明できる	
12	授業内容	医療費 7 療養費の計算をグループワーク	療養費を予習しておく 療養費の算定を復習する
	到達目標	療養費の計算ができる	
13	授業内容	医療費 8 療養費の計算をグループワーク	療養費を予習しておく 療養費の算定を復習する
	到達目標	療養費の計算ができる	
14	授業内容	医療費 9 労働保険、交通事故の費用について学ぶ。適応・不適応をグループワークにおいて話し合う	労働災害･交通事故を予習しておく 労働保険､交通事故の費用を復習する
	到達目標	労働保険、交通事故の費用、適応・不適応を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価も含む) 本講義の内容について最終的な確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	三澤　圭吾	E-mail			実施時期	1年　　前期	

授業の目的

柔道整復学の中でも基礎となる科目で、柔道整復術とは何かから、骨の基礎、骨折の概説等を学習し、次学期からの柔道整復学各論を理解するための基礎知識を身につけることを目的とします。

到達目標

柔道整復師として的確な判断・施術を行えるように、骨折に対する基礎的な内容を説明できる。

授業の内容

柔道整復師とは何かを学びます。
骨折の発生機序・分類・症状・合併症・予後等を学びます。
損傷に欠かせない痛みについて学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
生理学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　根来英雄、貴邑冨久子編　南江堂

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔道整復の概要、骨折の発生機序 柔道整復術の概要及び骨折の発生機序について学ぶ	骨折の発生機序を復習する
	到達目標	概要及び骨折の発生機序を説明できる	
2	授業内容	骨の構造と機能 骨の構造と分布する血管、機能について学ぶ	骨の構造･種類などを予習しておく 骨の構造・機能を復習する
	到達目標	骨の構造と機能を説明できる	
3	授業内容	骨折の分類 1 骨折の性状・程度による分類について学ぶ	骨の構造･機能、骨に加わる力を予習しておく 骨折の分類を復習する
	到達目標	骨折の性状・程度による分類を説明できる	
4	授業内容	骨折の分類 2 骨折線の方向・創部との交通・数・外力の働いた部位による分類について学ぶ	骨の構造･機能、骨に加わる力を予習しておく 骨折の分類を復習する
	到達目標	骨折線の方向・創部との交通・数・外力の働いた部位による分類を説明できる	
5	授業内容	骨折の分類 3 外力の働き方・部位による分類について学ぶ	骨の構造･機能、骨に加わる力を予習しておく 骨折の分類を復習する
	到達目標	外力の働き方・部位による分類を説明できる	
6	授業内容	骨折の症状 1 一般外傷症状・固有症状について学ぶ	骨及び運動器の構造･機能を予習しておく 骨折の症状を復習する
	到達目標	一般外傷症状・固有症状を説明できる	
7	授業内容	骨折の症状 2 固有症状・全身症状について学ぶ	骨及び運動器の構造･機能を予習しておく 骨折の症状を復習する
	到達目標	固有症状・全身症状を説明できる	
8	授業内容	骨折の合併症 1 併発症・続発症について学ぶ	身体の構造を予習しておく 骨折の合併症を復習する
	到達目標	併発症・続発症を説明できる	
9	授業内容	骨折の合併症 2 後遺症について学ぶ	運動器以外の解剖を予習しておく 骨折の合併症を復習する
	到達目標	後遺症を説明できる	
10	授業内容	骨折の合併症 3 後遺症について学ぶ	運動器以外の解剖を予習しておく 骨折の合併症を復習する
	到達目標	後遺症を説明できる	
11	授業内容	小児骨折 小児骨折の特徴、診断上・治療上の特徴について学ぶ	骨の構造、症状･合併症を予習しておく 小児骨折を復習する
	到達目標	小児骨折の特徴、診断上・治療上の特徴を説明できる	
12	授業内容	高齢者骨折 高齢者骨折の特徴、治療上の注意、治療の目的について学ぶ	骨の構造、症状･合併症を予習しておく 高齢者骨折を復習する
	到達目標	高齢者骨折の特徴、治療上の注意、治療の目的を説明できる	
13	授業内容	骨折の予後 癒合日数・治癒経過・予後・治癒に与える因子について学ぶ	骨折の症状･合併症を予習しておく 骨折の予後を復習する
	到達目標	癒合日数・治療経過・予後・治癒に与える因子を説明できる	
14	授業内容	痛みの基礎 種類・メカニズム・評価・アプローチについて学ぶ	受容器･神経などを予習しておく 痛みについて復習する
	到達目標	種類・メカニズム・評価・アプローチを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	吉田　勲生	E-mail			実施時期	1年　　前期	

授業の目的
柔道整復学の基礎となる科目で、関節・筋腱・神経の基礎及び脱臼・軟部組織損傷の概説を学習し、骨折の知識と合わせ病態の違いを把握して、次学期からの柔道整復学各論を理解するための基礎知識を身につけることを目的とします。
到達目標
柔道整復師として的確な判断・施術を行えるように、脱臼・軟部組織損傷に対する基礎的な内容を理解できる。
授業の内容
脱臼・軟部組織損傷の発生機序・分類・症状・合併症・予後等を学びます。 骨折を含めた柔道整復師の診察の概要を学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清、石塚寛編　南江堂
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、関節の構造と機能 1 骨の連結、関節構成組織について学ぶ	骨の連結､関節構成組織を復習する
	到達目標	骨の連結、関節構成組織を説明できる	
2	授業内容	関節の構造と機能 2、関節損傷の概説 関節構成組織、関節損傷および損傷を起こす力について学ぶ	関節を構成する組織を予習しておく 関節構成組織､損傷を起こす力を復習する
	到達目標	関節構成組織、関節損傷と損傷を起こす力を説明できる	
3	授業内容	関節損傷の分類 関節損傷の分類について学ぶ	関節の構造と骨折の分類を予習しておく 関節損傷の分類を復習する
	到達目標	性状・創部との交通・外力の働いた部位・働き方による分類を説明できる	
4	授業内容	関節構成組織損傷 分類・症状・合併症・治癒過程・予後について学ぶ	関節構成組織を予習しておく 関節損傷の分類を復習する
	到達目標	関節構成組織損傷を説明できる	
5	授業内容	脱臼 1 脱臼の概要・分類について学ぶ	骨折の概要と骨折の分類を予習しておく 脱臼の概要・分類を復習する
	到達目標	脱臼の概要・分類を説明できる	
6	授業内容	脱臼 2 脱臼の症状・合併症について学ぶ	骨折及び関節構成組織を予習しておく 脱臼の症状合併症を復習する
	到達目標	脱臼の症状・合併症を説明できる	
7	授業内容	脱臼 3 脱臼の整復障害・予後について学ぶ	関節構成組織と骨折の予後を予習しておく 脱臼の整復障害･予後を復習する
	到達目標	脱臼の整復障害・予後を説明できる	
8	授業内容	筋の構造と機能 筋の構造・構成組織について学ぶ	筋の概要を予習しておく 筋の構造・構成組織を復習する
	到達目標	筋の構造・構成組織を説明できる	
9	授業内容	筋損傷 1 概説・分類について学ぶ	筋の構造･損傷を起こす力を予習しておく 筋損傷の概要と分類を復習する
	到達目標	概説・分類を説明できる	
10	授業内容	筋損傷 2 症状・予後について学ぶ	筋の構造を予習しておく 筋損傷の症状・予後を復習する
	到達目標	症状・予後を説明できる	
11	授業内容	腱損傷 腱の構造、腱損傷の概説・分類・症状・予後について学ぶ	腱の構造を予習しておく 腱損傷を復習する
	到達目標	腱損傷を説明できる	
12	授業内容	末梢神経損傷 1 神経の構造と機能、末梢神経損傷の概説・分類について学ぶ	末梢神経の構造を予習しておく 神経の構造・機能、損傷の概要・分類・症状・予後を復習する
	到達目標	神経の構造と機能、末梢神経損傷の概説・分類を説明できる	
13	授業内容	末梢神経損傷 2 末梢神経損傷の症状・予後について学ぶ	骨折･脱臼の合併症を予習しておく 神経損傷の症状･予後を復習する
	到達目標	末梢神経損傷の症状・予後を説明できる	
14	授業内容	診察 診察時の注意点・流れ・時期、治療計画、施術録について学ぶ	各損傷を予習しておく 柔道整復師の診察を復習する
	到達目標	柔道整復師の診察を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	三澤　圭吾	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

鎖骨骨折、鎖骨脱臼、肩甲骨骨折、上腕骨近位部骨折、肩関節脱臼、肩関節軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、鎖骨骨折 1 鎖骨骨折の概要・発生機序・症状について学ぶ	鎖骨部の解剖を予習しておく 鎖骨骨折の概要･発生機序症状を復習する
	到達目標	鎖骨骨折の概要・発生機序・症状を説明できる	
2	授業内容	鎖骨骨折 2 鎖骨骨折の整復法・固定法について学ぶ	鎖骨骨折の発生機序･症状を予習しておく 鎖骨骨折の治療法を復習する
	到達目標	鎖骨骨折の整復法・固定法を説明できる	
3	授業内容	鎖骨骨折 3、鎖骨脱臼 1 鎖骨骨折の後療法・合併症、鎖骨脱臼の概要・分類について学ぶ	鎖骨部の解剖を予習しておく 鎖骨骨折の治療法・合併症、鎖骨脱臼の概要・分類を復習する
	到達目標	鎖骨骨折の後療法・合併症、鎖骨脱臼の概要・分類を説明できる	
4	授業内容	鎖骨脱臼 2 胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼の分類・症状・合併症について学ぶ	鎖骨部の解剖を予習しておく 胸鎖関節脱臼､肩鎖関節脱臼を復習する
	到達目標	胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼を説明できる	
5	授業内容	鎖骨脱臼 3、肩甲骨骨折 1 肩鎖関節脱臼の治療、肩甲骨骨折の概要、体部・上角・下角骨折について学ぶ	肩鎖関節･肩甲骨の解剖を予習しておく 肩鎖関節脱臼､肩甲骨骨折を復習する
	到達目標	肩鎖関節脱臼、肩甲骨骨折の概要、体部・上角・下角骨折を説明できる	
6	授業内容	肩甲骨骨折 2、上腕骨近位部骨折 1 肩甲骨関節窩・頸部・肩峰・烏口突起骨折、上腕骨近位部骨折の概要について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 肩甲骨骨折､上腕骨近位部骨折の概要を復習する
	到達目標	肩甲骨関節窩・頸部・肩峰・烏口突起骨折、上腕骨近位部骨折の概要を説明できる	
7	授業内容	上腕骨近位部骨折 2 骨頭・解剖頸骨折、外科頸骨折の概要・発生機序について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 骨頭･解剖頸･外科頸骨折を復習する
	到達目標	骨頭・解剖頸骨折、外科頸骨折の概要・発生機序を説明できる	
8	授業内容	上腕骨近位部骨折 3 外科頸骨折の症状・鑑別・治療法・合併症について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 外科頸骨折を復習する
	到達目標	外科頸骨折の症状・鑑別・治療法・合併症を説明できる	
9	授業内容	上腕骨近位部骨折 4、肩関節脱臼 1 大結節・小結節骨折、骨端線離開、肩関節脱臼の概要・分類について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 上腕骨近位部骨折､肩関節脱臼を復習する
	到達目標	大結節・小結節骨折、骨端線離開、肩関節脱臼の概要・分類を説明できる	
10	授業内容	肩関節脱臼 2 前方脱臼の発生機序・症状・合併症について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 前方脱臼を復習する
	到達目標	前方脱臼の発生機序・症状・合併症を説明できる	
11	授業内容	肩関節脱臼 3 前方脱臼の治療法について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 前方脱臼を復習する
	到達目標	前方脱臼の治療法を説明できる	
12	授業内容	肩関節脱臼 4 後方・下方・上方脱臼について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 肩関節脱臼を復習する
	到達目標	後方・下方・上方脱臼を説明できる	
13	授業内容	肩関節脱臼 5、肩関節軟部組織損傷 1 反復性肩関節脱臼、腱板損傷について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 反復性肩関節脱臼､腱板損傷を復習する
	到達目標	反復性肩関節脱臼、腱板損傷を説明できる	
14	授業内容	肩関節軟部組織損傷 2 上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 上腕二頭筋長頭腱損傷･ベネット損傷を復習する
	到達目標	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	吉田　勲生	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

肩関節軟部組織損傷、上腕骨骨幹部骨折、上腕部軟部組織損傷、上腕骨遠位部骨折、肘関節脱臼の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節軟部組織損傷 3 SLAP 損傷、肩峰下インピンジメント症候群について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく SLAP 損傷、肩峰下インピンジメント症候群を復習する
	到達目標	SLAP 損傷、肩峰下インピンジメント症候群を説明できる	
2	授業内容	肩関節軟部組織損傷 4 リトルリーガー肩、動揺性肩関節について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく リトルリーガー肩､動揺性肩関節を復習する
	到達目標	リトルリーガー肩、動揺性肩関節を説明できる	
3	授業内容	肩関節軟部組織損傷 5 神経障害、五十肩、肩の疾患について学ぶ	肩関節の解剖を予習しておく 神経障害、五十肩、肩の疾患を復習する
	到達目標	神経障害、五十肩、肩の疾患を説明できる	
4	授業内容	上腕骨骨幹部骨折 1 骨幹部骨折の概要、発生機序・症状・転位について学ぶ	上腕部の解剖を予習しておく 上腕骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	骨幹部骨折の概要、発生機序・症状・転位を説明できる	
5	授業内容	上腕骨骨幹部骨折 2 骨幹部骨折の治療法・合併症・予後について学ぶ	上腕部の解剖を予習しておく 上腕骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	骨幹部骨折の治療法・合併症・予後を説明できる	
6	授業内容	上腕部軟部組織損傷 上腕部軟部組織損傷、疾患について学ぶ	上腕部の解剖を予習しておく 上腕部軟部組織損傷､疾患を復習する
	到達目標	上腕部軟部組織損傷、疾患を説明できる	
7	授業内容	上腕骨遠位部骨折 1 遠位部骨折の概要、顆上骨折の概要・発生機序について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 顆上骨折を復習する
	到達目標	遠位部骨折の概要、顆上骨折の概要・発生機序を説明できる	
8	授業内容	上腕骨遠位部骨折 2 顆上骨折の症状・合併症・整復について学ぶ	顆上骨折の発生機序を予習しておく 顆上骨折を復習する
	到達目標	顆上骨折の症状・合併症・整復を説明できる	
9	授業内容	上腕骨遠位部骨折 3 顆上骨折の固定・後療法・後遺症・予後について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 顆上骨折を復習する
	到達目標	顆上骨折の固定・後療法・後遺症・予後を説明できる	
10	授業内容	上腕骨遠位部骨折 4 外顆骨折の概要・発生機序・転位・症状について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 外顆骨折を復習する
	到達目標	外顆骨折の概要・発生機序・転位・症状を説明できる	
11	授業内容	上腕骨遠位部骨折 5 外顆骨折の治療、内側上顆骨折について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 外顆・内側上顆骨折を復習する
	到達目標	外顆骨折の治療、内側上顆骨折を説明できる	
12	授業内容	肘関節脱臼 1 肘関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序・症状について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 肘関節脱臼､後方脱臼を復習する
	到達目標	肘関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序・症状を説明できる	
13	授業内容	肘関節脱臼 2 後方脱臼の治療・予後について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 後方脱臼を復習する
	到達目標	後方脱臼の治療・予後を説明できる	
14	授業内容	肘関節脱臼 3 前方・側方・分散脱臼、橈骨頭単独脱臼について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 肘関節脱臼を復習する
	到達目標	前方・側方・分散脱臼、橈骨頭単独脱臼を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-3	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	吉田　勲生	E-mail			実施時期	２年　　前期	

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

肘内障、前腕骨近位部骨折、肘関節軟部組織損傷、前腕骨骨幹部骨折、前腕部軟部組織損傷、前腕骨遠位部骨折の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肘内障、前腕骨近位部骨折 1 肘内障、近位部骨折の概要、橈骨近位端部骨折について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 肘内障､橈骨近位端部骨折を復習する
	到達目標	肘内障、近位部骨折の概要、橈骨近位端部骨折を説明できる	
2	授業内容	前腕骨近位部骨折 2 橈骨近位端部骨折、肘頭骨折について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 前腕骨近位部骨折を復習する
	到達目標	橈骨近位端部骨折、肘頭骨折を説明できる	
3	授業内容	肘関節軟部組織損傷 1 側副靭帯損傷、PLRI について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 側腹靭帯損傷、PLRI を復習する
	到達目標	側副靭帯損傷、PLRI を説明できる	
4	授業内容	肘関節軟部組織損傷 2 野球肘について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 野球肘を復習する
	到達目標	野球肘を説明できる	
5	授業内容	肘関節軟部組織損傷 3 テニス肘、肘の疾患について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく テニス肘、肘の疾患を復習する
	到達目標	テニス肘、肘の疾患を説明できる	
6	授業内容	前腕骨骨幹部骨折 1 骨幹部骨折の概要、橈骨骨幹部骨折について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく 骨幹部骨折の概要､橈骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	骨幹部骨折の概要、橈骨骨幹部骨折を説明できる	
7	授業内容	前腕骨骨幹部骨折 2 ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく ガレアジ骨折､尺骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折を説明できる	
8	授業内容	前腕骨骨幹部骨折 3 モンテギア骨折、両骨骨幹部骨折の概要・発生機序について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく モンテギア骨折､両骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	モンテギア骨折、両骨骨幹部骨折の概要・発生機序を説明できる	
9	授業内容	前腕骨骨幹部骨折 4 両骨骨幹部骨折の転位・症状・合併症・治療について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく 両骨骨幹部骨折の転位・症状・合併症・治療を復習する
	到達目標	両骨骨幹部骨折の転位・症状・合併症・治療を説明できる	
10	授業内容	前腕部軟部組織損傷 1 コンパートメント症候群、腱交叉症候群について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく コンパートメント症候群､腱交叉症候群を復習する
	到達目標	コンパートメント症候群、腱交叉症候群を説明できる	
11	授業内容	前腕部軟部組織損傷 2 正中神経障害、橈骨神経障害について学ぶ	前腕部の解剖を予習しておく 正中神経障害､橈骨神経障害を復習する
	到達目標	正中神経障害、橈骨神経障害を説明できる	
12	授業内容	前腕部軟部組織損傷 3、前腕骨遠位部骨折 1 尺骨神経障害、橈骨遠位端部骨折の概要、コーレス骨折の発生機序について学ぶ	前腕部･手関節の解剖を予習しておく 尺骨神経障害､コーレス骨折を復習する
	到達目標	尺骨神経障害、橈骨遠位端部骨折の概要、コーレス骨折の発生機序を説明できる	
13	授業内容	前腕骨遠位部骨折 2 コーレス骨折の症状・合併症について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく コーレス骨折を復習する
	到達目標	コーレス骨折の症状・合併症を説明できる	
14	授業内容	前腕骨遠位部骨折 3 コーレス骨折の治療、スミス骨折について学ぶ	コーレス骨折の転位を予習しておく コーレス骨折､スミス骨折を復習する
	到達目標	コーレス骨折、スミス骨折を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-4	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内　伸晃	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

前腕骨遠位部骨折、手根骨骨折、手関節脱臼、中手骨骨折、手指部脱臼、指骨骨折、手関節軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、前腕骨遠位部骨折 4 バートン骨折、ショウファー骨折、骨端線離開について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 橈骨遠位部骨折を復習する
	到達目標	バートン骨折、ショウファー骨折、骨端線離開を説明できる	
2	授業内容	手根骨骨折 1 手根骨骨折の概要、舟状骨骨折について学ぶ	手根骨の構成･解剖を予習しておく 舟状骨骨折を復習する
	到達目標	手根骨骨折の概要、舟状骨骨折を説明できる	
3	授業内容	手根骨骨折 2 三角骨・有鉤骨骨折について学ぶ	手根部の解剖を予習しておく 三角骨・有鉤骨骨折を復習する
	到達目標	三角骨・有鉤骨骨折を説明できる	
4	授業内容	手根骨骨折 3 その他の手根骨骨折について学ぶ	手根部の解剖を予習しておく 手根骨骨折を復習する
	到達目標	その他の手根骨骨折を説明できる	
5	授業内容	手関節部脱臼 1 遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 手関節部脱臼を復習する
	到達目標	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼を説明できる	
6	授業内容	手関節部脱臼 2 月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼について学ぶ	手根骨の解剖を予習しておく 月状骨脱臼･月状骨周囲脱臼を復習する
	到達目標	月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼を説明できる	
7	授業内容	中手骨骨折 1 中手骨頭部・頸部・骨幹部骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 中手骨骨折を復習する
	到達目標	中手骨頭部・頸部・骨幹部骨折を説明できる	
8	授業内容	中手骨骨折 2 中手骨骨幹部・基部骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 中手骨骨折を復習する
	到達目標	中手骨骨幹部・基部骨折を説明できる	
9	授業内容	手根中手関節脱臼、指部脱臼 1 手根中手関節脱臼、中手指節関節脱臼について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 手根中手関節脱臼､中手指節関節脱臼を復習する
	到達目標	手根中手関節脱臼、中手指節関節脱臼を説明できる	
10	授業内容	指部脱臼 2 指節間関節脱臼について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 指節間関節脱臼を復習する
	到達目標	指節間関節脱臼を説明できる	
11	授業内容	指骨骨折 1 基節骨骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 基節骨骨折を復習する
	到達目標	基節骨骨折を説明できる	
12	授業内容	指骨骨折 2 中節骨骨折について学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 中節骨骨折を復習する
	到達目標	中節骨骨折を説明できる	
13	授業内容	指骨骨折 3 末節骨骨折、マレットフィンガーについて学ぶ	手指部の解剖を予習しておく 末節骨骨折､マレットフィンガーを復習する
	到達目標	末節骨骨折、マレットフィンガーを説明できる	
14	授業内容	手関節軟部組織損傷 1 TFCC 損傷、ド・ケルバン病について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく TFCC 損傷、ド・ケルバン病を復習する
	到達目標	TFCC 損傷、ド・ケルバン病を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について最終的な確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ-5	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内　伸晃	E-mail			実施時期	２年　後期	

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

上肢及び下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

手関節軟部組織損傷、手指部軟部組織損傷、股関節軟部組織損傷、頸椎骨折・脱臼、頭部・顔面の骨折・軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手関節軟部組織損傷 2 神経障害、キーンベック病について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 神経障害､キーンベック病を復習する
	到達目標	神経障害、キーンベック病を説明できる	
2	授業内容	手関節軟部組織損傷 3 マーデルング変形、その他の疾患について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく マーデルング変形､その他の疾患を復習する
	到達目標	マーデルング変形、その他の疾患を説明できる	
3	授業内容	手指部軟部組織損傷 1 指の靭帯損傷について学ぶ	指部の解剖を予習しておく 指の靭帯損傷を復習する
	到達目標	指の靭帯損傷を説明できる	
4	授業内容	手指部軟部組織損傷 2 ロッキングフィンガー、ばね指について学ぶ	指部の解剖を予習しておく ロッキングフィンガー､ばね指を復習する
	到達目標	ロッキングフィンガー、ばね指を説明できる	
5	授業内容	手指部軟部組織損傷 3 手指部の拘縮、変形などについて学ぶ	指部の解剖を予習しておく 手指部の拘縮､変形などを復習する
	到達目標	手指部の拘縮、変形などを説明できる	
6	授業内容	股関節軟部組織損傷 2 股関節拘縮、乳児期の疾患について学ぶ	骨盤部･股関節の解剖を予習しておく 股関節拘縮､乳児期の疾患を復習する
	到達目標	股関節拘縮、乳児期の疾患を説明できる	
7	授業内容	股関節軟部組織損傷 3 大腿骨頭すべり症、骨頭壊死、変形性関節症について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 大腿骨頭すべり症、骨頭壊死、変形性関節症を復習する
	到達目標	大腿骨頭すべり症、骨頭壊死、変形性関節症を説明できる	
8	授業内容	頸椎骨折 1 上位頸椎骨折について学ぶ	頸椎の解剖を予習しておく 上位頸椎骨折を復習する
	到達目標	上位頸椎骨折を説明できる	
9	授業内容	頸椎骨折 2、頸椎脱臼 下位頸椎骨折、頸椎脱臼について学ぶ	頸椎の解剖を予習しておく 下位頸椎骨折､頸椎脱臼を復習する
	到達目標	下位頸椎骨折、頸椎脱臼を説明できる	
10	授業内容	頭部・顔面骨折 1 頭蓋冠骨折について学ぶ	頭部･顔面の解剖を予習しておく 頭蓋冠を復習する
	到達目標	頭蓋冠骨折を説明できる	
11	授業内容	頭部・顔面骨折 2 頭蓋底骨折、鼻骨骨折について学ぶ	頭部･顔面の解剖を予習しておく 頭蓋底骨折､鼻骨骨折を復習する
	到達目標	頭蓋底骨折、鼻骨骨折を説明できる	
12	授業内容	頭部・顔面骨折 3 上顎骨骨折、頬骨骨折について学ぶ	頭部･顔面の解剖を予習しておく 上顎骨骨折､頬骨骨折を復習する
	到達目標	上顎骨骨折、頬骨骨折を説明できる	
13	授業内容	頭部・顔面骨折 4、頭部・顔面軟部組織損傷 1 下顎骨骨折、打撲、捻挫について学ぶ	頭部･顔面の解剖を予習しておく 下顎骨骨折、打撲、捻挫を復習する
	到達目標	下顎骨骨折、打撲、捻挫を説明できる	
14	授業内容	頭部・顔面軟部組織損傷 2 顎関節症について学ぶ	頭部･顔面の解剖を予習しておく 顎関節症を復習する
	到達目標	顎関節症を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価も含む) 本講義の内容について最終的な確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅳ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	三澤　圭吾	E-mail			実施時期	1年　後期	

授業の目的
柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。
到達目標
下肢の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。 画像に対する理解を深める。
授業の内容
大腿骨骨幹部骨折、大腿部軟部組織損傷、膝関節軟部組織損傷の各論について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　時　分～　時　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、大腿骨骨幹部骨折 1 大腿骨骨幹部骨折の概要・発生機序・症状について学ぶ	大腿部の解剖を復習する 大腿骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	大腿骨骨幹部骨折の概要・発生機序・症状を説明できる	
2	授業内容	大腿骨骨幹部骨折 2、大腿部軟部組織損傷 1 大腿骨骨幹部骨折の治療、大腿部打撲について学ぶ	骨片転位､大腿部の筋を予習しておく 大腿骨骨幹部骨折､大腿部打撲を復習する
	到達目標	大腿骨骨幹部骨折の治療、大腿部打撲を説明できる	
3	授業内容	大腿部軟部組織損傷 2 大腿部の肉ばなれ、大腿部骨化性筋炎について学ぶ	大腿部の筋を予習しておく 大腿部の肉ばなれ､大腿部骨化性筋炎を復習する
	到達目標	大腿部の肉ばなれ、大腿部骨化性筋炎を説明できる	
4	授業内容	膝関節軟部組織損傷 1 半月板損傷、側副靭帯損傷について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 半月板･側副靭帯損傷を復習する
	到達目標	半月板損傷、側副靭帯損傷を説明できる	
5	授業内容	膝関節軟部組織損傷 2 十字靭帯損傷、膝変形、骨端症について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 十字靭帯損傷、膝変形、骨端症を復習する
	到達目標	十字靭帯損傷、膝変形、骨端症を説明できる	
6	授業内容	膝関節軟部組織損傷 3 ジャンパー膝、分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鵞足炎について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく ジャンパー膝、分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鵞足炎を復習する
	到達目標	ジャンパー膝、分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鵞足炎を説明できる	
7	授業内容	膝関節軟部組織損傷 4 膝蓋軟骨軟化症、タナ障害、変形性関節症、滑液包異常、離断性骨軟骨炎について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝蓋軟骨軟化症、タナ障害、変形性関節症、滑液包異常、離断性骨軟骨炎を復習する
	到達目標	膝蓋軟骨軟化症、タナ障害、変形性関節症、滑液包異常、離断性骨軟骨炎を説明できる	
8	授業内容	膝関節軟部組織損傷 5、大腿骨遠位部骨折 1 膝神経障害など、大腿骨遠位部骨折の概要、顆上骨折について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝神経障害など､顆上骨折を復習する
	到達目標	膝神経障害など、大腿骨遠位部骨折の概要、顆上骨折を説明できる	
9	授業内容	大腿骨遠位部骨折 2 骨端線離開、顆部骨折、裂離骨折について学ぶ	膝関節の解剖を復習しておく 骨端線離開、顆部骨折、裂離骨折を復習する
	到達目標	骨端線離開、顆部骨折、裂離骨折を説明できる	
10	授業内容	下腿骨近位部骨折 1 下腿骨近位部骨折の概要、顆部骨折、顆間隆起骨折について学ぶ	膝関節部の解剖を予習しておく 顆部骨折､顆間隆起骨折を復習する
	到達目標	下腿骨近位部骨折の概要、顆部骨折、顆間隆起骨折を説明できる	
11	授業内容	下腿骨近位部骨折 2 脛骨粗面骨折、腓骨頭骨折などについて学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 脛骨粗面骨折､腓骨頭骨折などを復習する
	到達目標	脛骨粗面骨折、腓骨頭骨折などを説明できる	
12	授業内容	膝関節脱臼 膝関節脱臼について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝関節脱臼を復習する
	到達目標	膝関節脱臼を説明できる	
13	授業内容	膝蓋骨骨折 膝蓋骨骨折について学ぶ	膝関節の解剖を復習しておく 膝蓋骨骨折を復習する
	到達目標	膝蓋骨骨折を説明できる	
14	授業内容	膝蓋骨脱臼 膝蓋骨脱臼について学ぶ	膝関節の解剖を復習しておく 膝蓋骨脱臼を復習する
	到達目標	膝蓋骨脱臼を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

明治東洋医学院専門学校

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅳ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	奥田　香苗	E-mail			実施時期	２年　　前期	

授業の目的
柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷し対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。
到達目標
下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。 画像に対する理解を深める。
授業の内容
下腿骨遠位部骨折、足根骨骨折、中足骨骨折、趾骨骨折、足根部損傷、趾脱臼、足趾部軟部組織損傷、胸椎骨折・脱臼、胸背部軟部組織損傷の各論について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、下腿骨遠位部骨折 1 果部骨折の概要、足関節脱臼について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 果部骨折の概要､足関節脱臼を復習する
	到達目標	果部骨折の概要、足関節脱臼を説明できる	
2	授業内容	下腿骨遠位部骨折 2 果部骨折外転型・内転型について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 果部骨折を復習する
	到達目標	果部骨折外転型・内転型を説明できる	
3	授業内容	下腿骨遠位部骨折 3、足根骨骨折 1 果部骨折軸圧型、距骨骨折について学ぶ	足関節部の解剖を予習しておく 果部骨折、距骨骨折を復習する
	到達目標	果部骨折軸圧型、距骨骨折を説明できる	
4	授業内容	足根骨骨折 2 踵骨骨折について学ぶ	足関節部の解剖を予習しておく 踵骨骨折を復習する
	到達目標	踵骨骨折を説明できる	
5	授業内容	足根骨骨折 3 舟状骨･立方骨･楔状骨骨折について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 足根骨骨折を復習する
	到達目標	足根骨骨折を説明できる	
6	授業内容	中足骨骨折 中足骨骨折について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 中足骨骨折を復習する
	到達目標	中足骨骨折を説明できる	
7	授業内容	趾骨骨折、足根部損傷 1 趾骨骨折、横足根関節損傷について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 趾骨骨折､横足根関節損傷を復習する
	到達目標	趾骨骨折、横足根関節損傷を説明できる	
8	授業内容	足根部損傷 2 足根中足関節損傷、扁平足障害について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 足根中足関節損傷､扁平足障害を復習する
	到達目標	足根中足関節損傷、扁平足障害を説明できる	
9	授業内容	趾脱臼、足趾部軟部組織損傷 1 趾脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液炎、外脛骨について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 趾脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液炎、外脛骨を復習する
	到達目標	趾脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液炎、外脛骨を説明できる	
10	授業内容	足趾部軟部組織損傷 2 足底腱膜炎、第１ケーラー病、足根管症候群、前足部の疾患について学ぶ	足趾部の解剖を予習しておく 足底腱膜炎､第１ケーラー病､足根管症候群､前足部の疾患を復習する
	到達目標	足底腱膜炎、第１ケーラー病、足根管症候群、前足部の疾患を説明できる	
11	授業内容	胸椎骨折 1 棘突起・椎体骨折について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 胸椎骨折を復習する
	到達目標	棘突起・椎体骨折を説明できる	
12	授業内容	胸椎骨折 2、胸椎脱臼 椎体骨折、脱臼骨折について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 胸椎骨折・脱臼を復習する
	到達目標	椎体骨折、脱臼骨折を説明できる	
13	授業内容	胸背部軟部組織損傷 1 背部部軟部組織損傷について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 背部軟部組織損傷を復習する
	到達目標	背部部軟部組織損傷を説明できる	
14	授業内容	胸背部軟部組織損傷 2 胸部軟部組織損傷について学ぶ	胸背部の解剖を予習しておく 胸部軟部組織損傷を復習する
	到達目標	胸部軟部組織損傷を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅴ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	奥田　香苗	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解も深める。

授業の内容

下腿骨骨幹部骨折、下腿部軟部組織損傷、足関節軟部組織損傷、顎関節脱臼、頸部軟部組織損傷、頸部疾患の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、下腿骨骨幹部骨折 1 下腿骨骨幹部骨折の概要、脛骨単独・両骨骨折の発生機序・転位・症状について学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 骨幹部骨折の概要、脛骨単独・両骨骨折の発生機序・転位・症状を復習する
	到達目標	下腿骨骨幹部骨折の概要、脛骨単独・両骨骨折の発生機序・転位・症状を説明できる	
2	授業内容	下腿骨骨幹部骨折 2 脛骨単独・両骨骨折の治療・予後について学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 脛骨単独・両骨骨折を復習する
	到達目標	脛骨単独・両骨骨折の治療・予後を説明できる	
3	授業内容	下腿骨骨幹部骨折 3 腓骨単独骨折、果上骨折、疲労骨折について学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 下腿骨骨幹部骨折を復習する
	到達目標	腓骨単独骨折、果上骨折、疲労骨折を説明できる	
4	授業内容	下腿部軟部組織損傷 1 アキレス腱炎・断裂、下腿部肉ばなれについて学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく アキレス腱炎・断裂、下腿部肉ばなれを復習する
	到達目標	アキレス腱炎・断裂、下腿部肉ばなれを説明できる	
5	授業内容	下腿部軟部組織損傷 2 シンスプリント、コンパートメント症候群などについて学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく シンスプリント､コンパートメント症候群などを復習する
	到達目標	シンスプリント、コンパートメント症候群などを説明できる	
6	授業内容	足関節軟部組織損傷 1 足関節捻挫の概要、外側・内側靭帯損傷について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節捻挫の概要、外側・内側靭帯損傷を復習する
	到達目標	足関節捻挫の概要、外側・内側靭帯損傷を説明できる	
7	授業内容	足関節軟部組織損傷 2 脛腓靭帯・二分靭帯損傷、骨軟骨損傷について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 脛腓靭帯・二分靭帯損傷、骨軟骨損傷を復習する
	到達目標	脛腓靭帯・二分靭帯損傷、骨軟骨損傷を説明できる	
8	授業内容	足関節軟部組織損傷 3 足根洞症候群、腓骨腱脱臼、外骨腫について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足根洞症候群、腓骨腱脱臼、外骨腫を復習する
	到達目標	足根洞症候群、腓骨腱脱臼、外骨腫を説明できる	
9	授業内容	足関節軟部組織損傷 4、顎関節脱臼 1 三角骨、足関節の損傷・疾患、顎関節脱臼の概要、前方脱臼の症状について学ぶ	足関節･顎関節の解剖を予習しておく 三角骨、足関節の損傷・疾患、顎関節脱臼を復習する
	到達目標	三角骨、足関節の損傷・疾患、顎関節脱臼の概要、前方脱臼の症状を説明できる	
10	授業内容	顎関節脱臼 2 前方脱臼の治療、後方・側方脱臼について学ぶ	顎関節の解剖を予習しておく 顎関節脱臼を復習する
	到達目標	前方脱臼の治療、後方・側方脱臼を説明できる	
11	授業内容	頸部軟部組織損傷 1 むちうち、胸郭出口症候群について学ぶ	頸部の解剖を予習しておく むちうち､胸郭出口症候群を復習する
	到達目標	むちうち、胸郭出口症候群を説明できる	
12	授業内容	頸部軟部組織損傷 2、頸部疾患 1 寝違え、斜頸、ヘルニアについて学ぶ	頸部の解剖を予習しておく 寝違え、斜頸、ヘルニアを復習する
	到達目標	寝違え、斜頸、ヘルニアを説明できる	
13	授業内容	頸部疾患 2 頸椎症、OPLL、炎症、神経損傷について学ぶ	頸部の解剖を予習しておく 頸椎症、OPLL、炎症、神経損傷を復習する
	到達目標	頸椎症、OPLL、炎症、神経損傷を説明できる	
14	授業内容	頸部疾患 3 神経損傷などについて学ぶ	頸部の解剖を予習しておく 神経損傷などを復習する
	到達目標	神経損傷などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復学Ⅴ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	三澤　圭吾	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的

柔道整復師が損傷に対する的確な施術を行うためには、損傷に対する確実な判断が必要になります。総論で得た知識を基に各損傷に対する知識を身につけ、柔道整復師の業務に生かせることを目的とします。

到達目標

下肢・体幹の損傷についての内容及びそれに関する解剖学的生理学的な内容を説明できる。
画像に対する理解を深める。

授業の内容

胸部骨折、腰椎骨折・脱臼、腰部軟部組織損傷、骨盤骨骨折、骨盤部疾患、大腿骨近位部骨折、股関節脱臼、股関節軟部組織損傷の各論について学びます。

教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、胸部骨折 1 肋骨骨折の概要、発生機序･症状について学ぶ	胸郭の解剖を予習しておく 肋骨骨折の概要、発生機序･症状を復習する
	到達目標	肋骨骨折の概要、発生機序･症状を説明できる	
2	授業内容	胸部骨折 2 肋骨骨折の合併症・治療・予後について学ぶ	胸郭の解剖を予習しておく 肋骨骨折を復習する
	到達目標	肋骨骨折の合併症・治療・予後を説明できる	
3	授業内容	胸部骨折 3、腰椎骨折 1 胸骨骨折、椎体・チャンス・破裂骨折について学ぶ	胸郭･腰椎の解剖を予習しておく 胸骨骨折、腰椎骨折を復習する
	到達目標	胸骨骨折、椎体・チャンス・破裂骨折を説明できる	
4	授業内容	腰椎骨折 2、腰椎脱臼、腰部軟部組織損傷 1 肋骨突起骨折、腰椎脱臼、腰椎捻挫について学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰椎骨折・脱臼、腰椎捻挫を復習する
	到達目標	肋骨突起骨折、腰椎脱臼、腰椎捻挫を説明できる	
5	授業内容	腰部軟部組織損傷 2 腰椎捻挫、腰部の疾患などについて学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰椎捻挫､腰部の疾患などを復習する
	到達目標	腰椎捻挫、腰部の疾患などを説明できる	
6	授業内容	骨盤骨骨折 1 骨盤骨骨折の概要、骨盤骨単独骨折について学ぶ	骨盤部の解剖を予習しておく 骨盤骨骨折を復習する
	到達目標	骨盤骨骨折の概要、骨盤骨単独骨折を説明できる	
7	授業内容	骨盤骨骨折 2、骨盤部の疾患 骨盤輪骨折、骨盤部の疾患について学ぶ	骨盤部の構成を予習しておく 骨盤輪骨折､骨盤部の疾患を復習する
	到達目標	骨盤輪骨折、骨盤部の疾患を説明できる	
8	授業内容	大腿骨近位部骨折 1 大腿骨近位部骨折の概要、骨頭部骨折、頸部骨折の発生機序について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 骨頭部・頸部骨折を復習する
	到達目標	大腿骨近位部骨折の概要、骨頭部骨折、頸部骨折の発生機序を説明できる	
9	授業内容	大腿骨近位部骨折 2 頸部骨折の分類・症状・治療について学ぶ	大腿骨近位端の解剖を予習しておく 頸部骨折を復習する
	到達目標	頸部骨折の分類・症状・治療を説明できる	
10	授業内容	大腿骨近位部骨折 3 頸部骨折の合併症、転子部骨折について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 頸部・転子部骨折を復習する
	到達目標	頸部骨折の合併症、転子部骨折を説明できる	
11	授業内容	大腿骨近位部骨折 4、股関節脱臼 1 転子下骨折、股関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 転子下骨折、股関節脱臼の概要、後方脱臼を復習する
	到達目標	転子下骨折、股関節脱臼の概要、後方脱臼の発生機序を説明できる	
12	授業内容	股関節脱臼 2 後方脱臼の症状・治療について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 後方脱臼を復習する
	到達目標	後方脱臼の症状・治療を説明できる	
13	授業内容	股関節脱臼 3 前方脱臼、中心性脱臼について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 股関節脱臼を復習する
	到達目標	前方脱臼、中心性脱臼を説明できる	
14	授業内容	股関節部軟部組織損傷 1 鼡径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 鼡径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股､梨状筋症候群を復習する
	到達目標	鼡径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的
柔道整復師が行う治療法には整復法・固定法・後療法があり、さらに後療法の中には手技療法・運動療法・物理療法があります。この科目では、治療法の概要を理解した後、物理療法についての知識を身につけることを目的とします。
到達目標
治療法について説明できる。 物理療法の種類について説明できる。 物理療法機器の使用方法について説明できる。 物理療法の適応と禁忌を説明できる。
授業の内容
整復・固定の概要、物理療法の種類と機序、各物理療法機器の使用方法、物理療法の適応と禁忌について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　時　分～　時　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、治療法概論、整復法 1 治療法の種類、骨折の整復法について学ぶ	治療法の種類､骨折の整復法を復習する
	到達目標	治療法の種類、骨折の整復法を説明できる	
2	授業内容	整復法 2 脱臼の整復法、損傷の初期処置について学ぶ	整復法を予習しておく 脱臼の整復法､損傷の初期処置を復習する
	到達目標	脱臼の整復法、損傷の初期処置を説明できる	
3	授業内容	固定法 固定法の概要について学ぶ	固定法を予習しておく 固定法の概要を復習する
	到達目標	固定法の概要を説明できる	
4	授業内容	電気療法 1 電気療法の分類、低周波電流療法について学ぶ	物理療法の概要を予習しておく 電気療法の分類､低周波電流療法を復習する
	到達目標	電気療法の分類、低周波電流療法を説明できる	
5	授業内容	電気療法 2 中周波電流療法、その他の電気療法について学ぶ	電気療法を予習しておく 中周波電流療法､その他の電気療法を復習する
	到達目標	中周波電流療法、その他の電気療法を説明できる	
6	授業内容	温熱療法 1 伝導熱療法(ホットパック、パラフィン浴)について学ぶ	温熱療法を予習しておく 伝導熱療法を復習する
	到達目標	伝導熱療法(ホットパック、パラフィン浴)を説明できる	
7	授業内容	温熱療法 2 伝導熱療法(水治療法)、輻射熱療法について学ぶ	温熱療法を予習しておく 伝導熱療法､輻射熱療法を復習する
	到達目標	伝導熱療法(水治療法)、輻射熱療法を説明できる	
8	授業内容	温熱療法 3 変換熱療法(超短波、極超短波)について学ぶ	温熱療法を予習しておく 変換熱療法を復習する
	到達目標	変換熱療法(超短波、極超短波)を説明できる	
9	授業内容	温熱療法 4 変換熱療法(超音波)について学ぶ	温熱療法を予習しておく 変換熱療法を復習する
	到達目標	変換熱療法(超音波)を説明できる	
10	授業内容	光線療法 低反応レベルレーザー療法について学ぶ	光線療法を予習しておく 低反応レベルレーザー療法を復習する
	到達目標	低反応レベルレーザー療法を説明できる	
11	授業内容	寒冷療法 伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法について学ぶ	寒冷療法を予習しておく 各冷却法を復習する
	到達目標	伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法を説明できる	
12	授業内容	牽引療法 1 頸椎牽引について学ぶ	牽引療法を予習しておく 頸椎牽引を復習する
	到達目標	頸椎牽引を説明できる	
13	授業内容	牽引療法 2 腰椎牽引について学ぶ	牽引療法を予習しておく 腰椎牽引を復習する
	到達目標	腰椎牽引を説明できる	
14	授業内容	その他の物理療法 間欠的圧迫法などについて学ぶ	各種物理療法を予習しておく 間欠的圧迫法などを復習する
	到達目標	間欠的圧迫法などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師が業務を行うに際しては、より患者さんに安全なものを提供する必要があります。そのために医用画像は大きな力となります。とくに超音波画像装置は柔道整復師が使用可能な機器であるため重要です。この科目では、各種医用画像機器の概要と主な医用画像について学び、医用画像を理解するとともに、超音波画像装置の使用方法を身につけることを目的とします。
到達目標
医用画像機器の概要を説明できる。 医用画像につい理解できる。 超音波画像診断装置を使用できる。 外傷・障害を判断できる。
授業の内容
各種医用画像機器の概要、医用画像、超音波画像診断装置の使用方法について学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
施術の適応と医用画像の理解　全国柔道整復学校協会監修　細野昇・川口央修著　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、医用画像、Ｘ線 医用画像、放射線、Ｘ線について学ぶ	医用画像、放射線、Ｘ線を復習する
	到達目標	医用画像、放射線、Ｘ線を説明できる	
2	授業内容	Ｘ線の撮影法 1 各部の撮影と画像について学ぶ	肩関節･肘関節の解剖を予習しておく 各部の撮影と画像を復習する
	到達目標	各部の撮影と画像を説明できる	
3	授業内容	Ｘ線の撮影法 2 各部の撮影と画像について学ぶ	手関節・膝関節・足関節の解剖を予習しておく 各部の撮影と画像を復習する
	到達目標	各部の撮影と画像を説明できる	
4	授業内容	Ｘ線の撮影法 3 各部の撮影と画像について学ぶ	股関節･体幹の解剖を予習しておく 各部の撮影と画像を復習する
	到達目標	各部の撮影と画像を説明できる	
5	授業内容	画像のデジタル化 Ｘ線画像のデジタル化のシステム・形成・応用について学ぶ	Ｘ線について予習しておく デジタル化のシステム・形成・応用を復習する
	到達目標	Ｘ線画像のデジタル化のシステム・形成・応用を説明できる	
6	授業内容	ＣＴ ＣＴの原理・特性・実際について学ぶ	ＣＴを予習しておく 原理・特性・実際を復習する
	到達目標	ＣＴの原理・特性・実際を説明できる	
7	授業内容	ＭＲＩ1 ＭＲＩの装置・原理・画像形成について学ぶ	ＭＲＩを予習しておく 装置･原理･画像形成を復習する
	到達目標	ＭＲＩの装置・原理・画像形成を説明できる	
8	授業内容	ＭＲＩ2 ＭＲＩの各種撮影法、手順、留意点について学ぶ	ＭＲＩを予習しておく 各種撮影法、手順、留意点を復習する
	到達目標	各種撮影法、手順、留意点を説明できる	
9	授業内容	核医学検査 核医学検査の概要について学ぶ	核医学検査を予習しておく 核医学検査の概要を復習する
	到達目標	核医学検査の概要を説明できる	
10	授業内容	超音波画像装置 1 超音波画像装置の原理・装置・特徴について学ぶ	超音波画像装置を予習しておく 原理・装置・特徴を復習する
	到達目標	原理・装置・特徴を説明できる	
11	授業内容	超音波画像装置 2 超音波画像装置の使用方法について学ぶ	超音波画像装置を予習しておく 超音波画像装置の使用方法を復習する
	到達目標	超音波画像装置の使用方法を説明できる	
12	授業内容	超音波画像装置 3 画像を撮影し、グループワークで画像を検討する	超音波画像を予習しておく 画像を復習する
	到達目標	画像を撮影することができ、画像を説明できる	
13	授業内容	超音波画像装置 4 画像を撮影し、グループワークで画像を検討する	超音波画像を予習しておく 画像を復習する
	到達目標	画像を撮影することができ、画像を説明できる	
14	授業内容	超音波画像装置 5 画像を撮影し、グループワークで画像を検討する	超音波画像を予習しておく 画像を復習する
	到達目標	画像を撮影することができ、画像を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	脇坂　謙三 奥田　香苗	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師が行う治療には様々な方法があります。この科目では、その中のいくつかを紹介し、自分で治療を行う段階になった時の一助にすることを目的とします。
到達目標
徒手で行える治療法の種類について説明できる。 治療法の基本動作を説明できる。 治療機序を説明できる。
授業の内容
徒手で行うことができる治療法を数種類紹介し、その簡便な方法と治療機序を学んでいきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、後療法 基本の後療法、手技療法の種類と適用・禁忌について学ぶ	基本の後療法､手技療法を復習する
	到達目標	基本の後療法、手技療法を説明できる	
2	授業内容	運動療法 運動療法の種類と適用・禁忌について学ぶ	運動療法を予習しておく 運動療法を復習する
	到達目標	運動療法を説明できる	
3	授業内容	カイロプラクティック 1 カイロプラクティックの種類と内容について学ぶ	カイロプラクティックの種類と内容を復習する
	到達目標	カイロプラクティックの種類と内容を説明できる	
4	授業内容	カイロプラクティック 2 脊柱と骨盤の解剖・機能について学ぶ	脊柱･骨盤の解剖を予習しておく 脊柱・骨盤の解剖・機能を復習する
	到達目標	脊柱と骨盤の解剖・機能を説明できる	
5	授業内容	カイロプラクティック 3 ディバーシファイドテクニックについて学ぶ	脊柱･骨盤の解剖を予習しておく ディバーシファイドテクニックを復習する
	到達目標	ディバーシファイドテクニックを説明できる	
6	授業内容	カイロプラクティック 4 ガンステッドテクニックについて学ぶ	脊柱･骨盤の解剖を予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを説明できる	
7	授業内容	カイロプラクティック 5 ガンステッドテクニックについて学ぶ	脊柱･骨盤の解剖を予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを説明できる	
8	授業内容	カイロプラクティック 6 ＳＯＴについて学ぶ	脊柱･骨盤の解剖を予習しておく ＳＯＴを復習する
	到達目標	ＳＯＴを説明できる	
9	授業内容	カイロプラクティック 7 ＡＫについて学ぶ	ＡＫを復習する
	到達目標	ＡＫを説明できる	
10	授業内容	美顔マッサージ 1 美顔マッサージと顔面・頸部の解剖について学ぶ	美顔マッサージと顔面･頸部の解剖を復習する
	到達目標	美顔マッサージと顔面・頸部の解剖を説明できる	
11	授業内容	美顔マッサージ 2 美顔マッサージの方法について学ぶ	顔面･頸部の解剖を予習しておく 美顔マッサージの方法を復習する
	到達目標	美顔マッサージの方法を説明できる	
12	授業内容	ストレッチング 1 筋の構造、静的ストレッチについて学ぶ	筋の構造を予習しておく 筋の構造､静的ストレッチを復習する
	到達目標	筋の構造、静的ストレッチを説明できる	
13	授業内容	ストレッチング 2 ＰＮＦストレッチについて学ぶ	筋の構造を予習しておく ＰＮＦストレッチを復習する
	到達目標	ＰＮＦストレッチを説明できる	
14	授業内容	ＡＫＡ 関節包内運動、ＡＫＡについて学ぶ	関節運動を予習しておく 関節包内運動､ＡＫＡを復習する
	到達目標	関節包内運動、ＡＫＡを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

明治東洋医学院専門学校

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ-1	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		接骨院開業					
担当者	山村　宣延	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師に必要な競技者の運動器の機能障害に対する機能回復訓練法の知識を身につけることを目的とします。
到達目標
競技者の運動器の機能障害を説明できる。 種々の機能訓練方法を説明できる。
授業の内容
臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら学びます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
リハビリテーション医学　改訂第４版　全国柔道整復学校協会監修　三上真弘編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、機能回復訓練法 訓練法の概要と種類について学ぶ	訓練法の概要と種類を復習する
	到達目標	訓練法の概要と種類を説明できる	
2	授業内容	アスレティックトレーナー アスレティックトレーナーの仕事・役割について学ぶ	トレーナーについて予習しておく アスレティックトレーナーの仕事・役割を復習する
	到達目標	アスレティックトレーナーの仕事・役割を説明できる	
3	授業内容	トレーニングの概要 1 トレーニングについて学ぶ	トレーニングについて予習しておく トレーニングの概要を復習する
	到達目標	トレーニングの概要を説明できる	
4	授業内容	トレーニングの概要 2 トレーニングの原理・原則について学ぶ	トレーニングについて予習しておく トレーニングの原理･原則を復習する
	到達目標	トレーニングの原理・原則を説明できる	
5	授業内容	トレーニングの概要 3 トレーニングの種類について学ぶ	トレーニングについて予習しておく トレーニングの種類について復習する
	到達目標	トレーニングの種類を説明できる	
6	授業内容	スポーツ外傷 1 急性外傷とオーバーユース障害について学ぶ	急性外傷とオーバーユース障害を予習しておく 急性外傷とオーバーユース障害を復習する
	到達目標	急性外傷とオーバーユース障害を説明できる	
7	授業内容	スポーツ外傷 2 スポーツ外傷と間違えやすい症状について学ぶ	スポーツ外傷と間違えやすい症状を予習しておく スポーツ外傷と間違えやすい症状を復習する
	到達目標	スポーツ外傷と間違えやすい症状を説明できる	
8	授業内容	機能障害と筋力低下 スポーツ外傷による機能障害と筋力低下について学ぶ	運動器の評価を予習しておく スポーツ外傷による機能障害と筋力低下を復習する
	到達目標	スポーツ外傷による機能障害と筋力低下を説明できる	
9	授業内容	トレーニング測定法 1 身体構造・計測について学ぶ	トレーニングの概要を復習しておく 身体構造・計測を復習する
	到達目標	身体構造・計測を説明できる	
10	授業内容	トレーニング測定法 2 身体機能について学ぶ	身体計測を予習しておく 身体機能を復習する
	到達目標	身体機能を説明できる	
11	授業内容	トレーニング測定法 3 トレーニングの評価について学ぶ	身体機能を予習しておく トレーニングの評価を復習する
	到達目標	トレーニングの評価を説明できる	
12	授業内容	トレーニング 1 下肢のトレーニングについて学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢のトレーニングを復習する
	到達目標	下肢のトレーニングを説明できる	
13	授業内容	トレーニング 2 体幹のトレーニングについて学ぶ	体幹の解剖を予習しておく 体幹のトレーニングを復習する
	到達目標	体幹のトレーニングを説明できる	
14	授業内容	トレーニング 3 上肢のトレーニングについて学ぶ	上肢の解剖を予習しておく 上肢のトレーニングを復習する
	到達目標	上肢のトレーニングを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅳ-2	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		元プロ野球トレーナー					
担当者	松元　隆司	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師に必要な外傷による運動器の機能障害に対する機能回復訓練法の知識及び技術を身につけることを目的とします。
到達目標
競技者の運動器の機能障害を説明できる。 種々の機能訓練方法を説明できる。
授業の内容
臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら実技を交えて実施していきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
リハビリテーション医学　改訂第４版　全国柔道整復学校協会監修　三上真弘編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、関節モビライゼーション 関節モビライゼーションの方法について学ぶ	関節の構造を予習しておく 関節モビライゼーションの方法を復習する
	到達目標	関節モビライゼーションの方法を説明できる	
2	授業内容	ＰＮＦ ＰＮＦの方法について学ぶ	神経・筋の構造を予習しておく ＰＮＦの方法を復習する
	到達目標	ＰＮＦの方法を説明できる	
3	授業内容	ＤＹＪＯＣ(動的関節制動訓練) ＤＹＪＯＣの方法について学ぶ	関節の構造を予習しておく ＤＹＪＯＣの方法を復習する
	到達目標	ＤＹＪＯＣの方法を説明できる	
4	授業内容	認知運動療法 認知運動療法の方法について学ぶ	脳・伝導路を予習しておく 認知運動療法の方法を復習する
	到達目標	認知運動療法の方法を説明できる	
5	授業内容	痛み 痛みのメカニズムと痛みへのアプローチについて学ぶ	生理学の感覚を予習しておく 痛みのメカニズム･アプローチを復習する
	到達目標	痛みのメカニズムと痛みへのアプローチを説明できる	
6	授業内容	伝統的治療法 スポーツ外傷に対する伝統的治療法について学ぶ	スポーツ外傷を予習しておく 伝統的治療法を復習する
	到達目標	スポーツ外傷に対する伝統的治療法を説明できる	
7	授業内容	損傷 1 脊椎の骨折について学ぶ	脊椎骨折を予習しておく 脊椎骨折の治療と後療法を復習する
	到達目標	脊椎骨折の治療と後療法を説明できる	
8	授業内容	損傷 2 上肢損傷後遺症について学ぶ	上肢損傷を予習しておく 上肢損傷後遺症について復習する
	到達目標	上肢損傷後遺症を説明できる	
9	授業内容	損傷 3 下肢損傷後遺症について学ぶ	下肢損傷を予習しておく 下肢損傷後遺症について復習する
	到達目標	下肢損傷後遺症を説明できる	
10	授業内容	損傷 4 頸肩腕症候群・腰痛について学ぶ	頸肩腕症候群･腰痛を予習しておく 頸肩腕症候群・腰痛を復習する
	到達目標	頸肩腕症候群・腰痛を説明できる	
11	授業内容	部位別訓練法 1 膝のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	膝の構造を予習しておく 膝のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	膝のスポーツ外傷と訓練法を説明できる	
12	授業内容	部位別訓練法 2 腰のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	腰の構造を予習しておく 腰のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	腰のスポーツ外傷と訓練法を説明できる	
13	授業内容	部位別訓練法 3 肩のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	肩の構造を予習しておく 肩のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	肩のスポーツ外傷と訓練法を説明できる	
14	授業内容	後療法の実際 実際の症例を通じて後療法について学ぶ	障害のリハビリテーションについて予習しておく 実際の症例を通じて後療法について復習する
	到達目標	実際の症例を通じて後療法について説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

明治東洋医学院専門学校

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅴ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		実業団チームトレーナー					
担当者	川西　弘晃	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
スポーツトレーナーの実践内容を紹介し、必要な知識を身につけることを目的とします。
到達目標
スポーツトレーナーの補助ができる。
授業の内容
各種競技の特性を知り、コンディショニングとケア、コメディカルを学んでいく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
受験資格　：　5分の4以上の出席が必要です。 評価　　：　期末テストに平常点が加味されます。
テキスト
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション トレーナーの種類と役割について学ぶ	トレーナーの種類と役割を復習する
	到達目標	トレーナーの種類と役割を説明できる	
2	授業内容	柔道 1 柔道の特性について学ぶ	柔道について予習しておく 柔道の特性を復習する
	到達目標	柔道の特性を説明できる	
3	授業内容	柔道 2 柔道における外傷について学ぶ	柔道について予習しておく 柔道における外傷を復習する
	到達目標	柔道における外傷を説明できる	
4	授業内容	野球 1 野球の特性について学ぶ	野球について予習しておく 野球の特性を復習する
	到達目標	野球の特性について説明できる	
5	授業内容	野球 2 野球における障害について学ぶ	野球について予習しておく 野球における障害を復習する
	到達目標	野球における障害が説明できる	
6	授業内容	サッカー1 サッカーの特性について学ぶ	サッカーについて予習しておく サッカーの特性を復習する
	到達目標	サッカーの特性を説明できる	
7	授業内容	サッカー2 サッカーにおける外傷について学ぶ	サッカーについて予習しておく サッカーにおける外傷を復習する
	到達目標	サッカーにおける外傷を説明できる	
8	授業内容	ラグビー1 ラグビーの特性について学ぶ	ラグビーについて予習しておく ラグビーの特性を復習する
	到達目標	ラグビーの特性を説明できる	
9	授業内容	ラグビー2 ラグビーにおける外傷について学ぶ	ラグビーについて予習しておく ラグビーにおける外傷を復習する
	到達目標	ラグビーにおける外傷を説明できる	
10	授業内容	陸上競技 1 陸上競技の特性について学ぶ	陸上競技について予習しておく 陸上競技の特性を復習する
	到達目標	陸上競技の特性を説明できる	
11	授業内容	陸上競技 2 長距離走における障害について学ぶ	長距離走について予習しておく 長距離走における障害を復習する
	到達目標	長距離走における障害を説明できる	
12	授業内容	陸上競技 3 短距離走における外傷について学ぶ	短距離走について予習しておく 短距離走における外傷を復習する
	到達目標	短距離走における外傷を説明できる	
13	授業内容	バレーボール バレーボールの特性と障害について学ぶ	バレーボールについて予習しておく バレーボールの特性と障害を復習する
	到達目標	バレーボールの特性と障害を説明できる	
14	授業内容	バスケットボール バスケットボールの特性と障害について学ぶ	バスケットボールについて予習しておく バスケットボールの特性と障害を復習する
	到達目標	バスケットボールの特性と障害を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅴ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		接骨院開業					
担当者	川端　崇司	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
接骨院を開業することを考え、接骨院の施術内容を紹介し、施術に必要な知識を身につけることを目的とします。
到達目標
接骨院業務の補助ができる。
授業の内容
各種傷病の特性をしり、コンディショニングとケアを学んでいく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
受験資格　：　5分の4以上の出席が必要です。 評価　　：　期末テストに平常点が加味されます。
テキスト
配布資料
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、頸椎捻挫 1 頚椎捻挫の診察について学ぶ	頚椎捻挫の診察を復習する
	到達目標	頸椎捻挫の診察を説明できる	
2	授業内容	頸椎捻挫 2 頸椎捻挫の処置・施術について学ぶ	頸椎捻挫を予習しておく 頸椎捻挫の処置･施術を復習する
	到達目標	頚椎捻挫の処置・施術を説明できる	
3	授業内容	腰椎捻挫・背部挫傷 1 腰椎捻挫・背部挫傷の診察について学ぶ	背腰部の解剖を予習しておく 腰椎捻挫･背部挫傷の診察を復習する
	到達目標	腰椎捻挫・背部挫傷の診察を説明できる	
4	授業内容	腰椎捻挫・背部挫傷 2 腰椎捻挫・背部挫傷の処置・施術について学ぶ	腰椎捻挫･背部挫傷を予習しておく 腰椎捻挫・背部挫傷の処置・施術を復習する
	到達目標	腰椎捻挫・背部挫傷の処置・施術を説明できる	
5	授業内容	肩関節捻挫 1 肩関節捻挫の診察について学ぶ	肩関節の解剖を予習する 肩関節捻挫の診察を復習する
	到達目標	肩関節捻挫の診察を説明できる	
6	授業内容	肩関節捻挫 2 肩関節捻挫の処置・施術について学ぶ	肩関節捻挫を予習しておく 肩関節捻挫の処置･施術を復習する
	到達目標	肩関節捻挫の処置・施術を説明できる	
7	授業内容	肘関節捻挫 肘関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	肘関節の解剖を予習しておく 肘関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肘関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
8	授業内容	手関節捻挫 手関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	手関節の解剖を予習しておく 手関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	手関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
9	授業内容	股関節捻挫 股関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	股関節の解剖を予習しておく 股関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	股関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
10	授業内容	大腿部挫傷 大腿部挫傷の診察・処置・施術について学ぶ	大腿部の解剖を予習しておく 大腿部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
11	授業内容	膝関節捻挫 1 膝関節捻挫の診察について学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝関節捻挫の診察を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の診察を説明できる	
12	授業内容	膝関節捻挫 2 膝関節捻挫の処置・施術について学ぶ	膝関節捻挫を予習しておく 膝関節捻挫の処置･施術を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の処置・施術を説明できる	
13	授業内容	下腿部挫傷 下腿部挫傷の診察・処置・施術について学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 下腿部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	下腿部挫傷の診察・処置・施術を説明できる	
14	授業内容	足関節捻挫 足関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	足関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅵ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		デイサービス開業					
担当者	田中　精一	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に介護予防における機能訓練指導員の責務は大きく、柔道整復師はその一員として認められている以上、今後益々　その担い手として介護分野への参画が期待されます。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事を目的とします。
到達目標
機能訓練指導員として必要な知識を正確に説明でき、業務を行うにあたり実施する運動などを確実に指導できる。
授業の内容
柔道整復師と機能訓練指導(介護保険制度の理解・機能訓練指導員としての知識と技術の習得)について学びます。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない 病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復師と機能訓練指導員(機能訓練指導員養成テキスト）全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔道整復師と介護保険 介護保険とそれに関わる柔道整復師について学ぶ	柔道整復師と介護保険との関連を復習する
	到達目標	柔道整復師と介護保険を説明できる	
2	授業内容	発達と老化の理解 人間の成長・発達と老化に伴う変化について学ぶ	発達と老化を予習しておく 人間の成長･発達と老化に伴う変化を復習する
	到達目標	人間の成長・発達と老化に伴う変化を説明できる	
3	授業内容	高齢者の疾患 1 高齢者にみられる疾患について学ぶ	高齢者の疾患を予習しておく 高齢者にみられる疾患を復習する
	到達目標	高齢者にみられる疾患を説明できる	
4	授業内容	高齢者の疾患 三大生活習慣病などについて学ぶ	高齢者の疾患について予習しておく 高齢者の疾患を復習する
	到達目標	三大生活習慣病などを説明できる	
5	授業内容	認知症の理解 認知症について学ぶ	認知症について予習しておく 認知症を復習する
	到達目標	認知症を説明できる	
6	授業内容	介護保険制度 介護保険について学ぶ	介護保険について予習しておく 介護保険制度を復習する
	到達目標	介護保険制度を説明できる	
7	授業内容	介護の過程 1 居宅介護計画(原案)を作成する	居宅介護について予習しておく 居宅介護計画を復習する
	到達目標	居宅介護計画を作成できる	
8	授業内容	介護の過程 2 居宅介護計画(原案)を作成する	居宅介護計画について復習しておく 居宅介護計画を復習する
	到達目標	居宅介護計画について説明できる	
9	授業内容	高齢者介護とＩＣＦ 高齢者とＩＣＦとの関連性について学ぶ	ＩＣＦについて予習しておく 高齢者介護とＩＣＦを復習する
	到達目標	高齢者介護とＩＣＦを説明できる	
10	授業内容	介護予防と生活機能の向上 介護予防の問題点と対策、その結果について学ぶ	介護の予防を予習しておく 介護予防の問題点と対策､その結果を復習する
	到達目標	介護予防の問題点と対策、その結果を説明できる	
11	授業内容	介護予防・日常生活支援総合事業 各事業について学ぶ	介護の予防を予習しておく 日常生活支援総合事業を復習する
	到達目標	日常生活支援総合事業を説明できる	
12	授業内容	ロコモシンドローム ロコモティブシンドロームの原因・症状・トレーニングについて学ぶ	ロコモティブシンドロームについて予習しておく ロコモティブシンドロームを復習する
	到達目標	ロコモシンドロームを理解できる	
13	授業内容	機能訓練 1 機能訓練指導員と機能訓練について学ぶ	機能訓練について予習しておく 機能訓練指導員と機能訓練を復習する
	到達目標	機能訓練指導員と機能訓練を説明できる	
14	授業内容	機能訓練 2 実施計画書と指導員に必要な知識・能力について学ぶ	機能訓練について予習しておく 機能訓練指導員と機能訓練を復習する
	到達目標	実施計画書と指導員に必要な知識・能力を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅶ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的

柔道整復師免許取得後、実際に患者に接するに当たり、必要な診察を行い適切な評価・判断ができるような知識を身につけることを目的とします。

到達目標

診察(医療面接、視診・打診・聴診・触診、その他の検査など)を行うことができる。
診察の結果を基に評価・判断ができる。
実際の患者に対した場合に診察できる。

授業の内容

診察方法を学びます。
診察結果に対し、考えられる病態・疾患を学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

一般臨床医学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　奈良信雄他著　医歯薬出版株式会社
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、医療面接 診察の進め方、医療面接の概要を学ぶ	診察の進め方、医療面接の意義・方法を復習する
	到達目標	診察の進め方、医療面接の概要を説明できる	
2	授業内容	視診 1 視診の概要、体格・体型、体位・姿勢について学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 視診の意義・方法、体格・体型、体位・姿勢を復習する
	到達目標	視診の概要、体格・体型、体位・姿勢を説明できる	
3	授業内容	視診 2 栄養状態、精神状態について学ぶ	運動器の解剖を予習しておく 栄養状態、精神状態を復習する
	到達目標	栄養状態、精神状態を説明できる	
4	授業内容	視診 3 異常運動、歩行について学ぶ	神経系･筋骨格系を予習しておく 異常運動、歩行を復習する
	到達目標	異常運動、歩行を説明できる	
5	授業内容	視診 4 皮膚の状態について学ぶ	皮膚の構造を予習しておく 皮膚の状態を復習する
	到達目標	皮膚の状態を説明できる	
6	授業内容	視診 5 頭部・顔面部の視診、頸部の視診について学ぶ	頭部・顔面部・頸部について予習しておく 頭部・顔面部の視診、頸部の視診を復習する
	到達目標	頭部・顔面部の視診、頸部の視診を説明できる	
7	授業内容	視診 6 胸部の視診、腹部の視診について学ぶ	胸部･腹部の解剖を予習しておく 胸部の視診､腹部の視診を復習する
	到達目標	胸部の視診、腹部の視診を説明できる	
8	授業内容	視診 7、打診 四肢の視診、打診について学ぶ	四肢の解剖、胸部・腹部の解剖について予習しておく 四肢の視診、打診を復習する
	到達目標	四肢の視診、打診を説明できる	
9	授業内容	聴診、触診 聴診・触診の概要、各部の聴診・触診について学ぶ	内臓の位置などを予習しておく 聴診・触診生命徴候を復習する
	到達目標	聴診・触診を説明できる	
10	授業内容	生命徴候 体温・血圧・脈拍・呼吸について学ぶ	脈管系・呼吸系を予習しておく 生命徴候を復習する
	到達目標	生命徴候を説明できる	
11	授業内容	感覚 感覚検査の概要、各検査法について学ぶ	感覚器を予習しておく 感覚検査のを復習する
	到達目標	感覚検査を説明できる	
12	授業内容	反射 反射の種類、各反射検査法について学ぶ	反射の生理を予習しておく 各反射検査法を復習する
	到達目標	反射検査法を説明できる	
13	授業内容	発熱 発熱の病態生理、熱型、発熱をきたす疾患について学ぶ	発熱の生理を予習しておく 発熱の病態生理、熱型、発熱をきたす疾患を復習する
	到達目標	発熱の病態生理、熱型、発熱をきたす疾患を説明できる	
14	授業内容	検査法 心電図・脳波・筋電図検査などについて学ぶ	心臓・脳・筋を予習しておく 心電図･脳波･筋電図検査などを復習する
	到達目標	心電図・脳波・筋電図検査などを説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復学Ⅷ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	神内　伸晃	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的

柔道整復師が直面する損傷・疾患には保険適応・適応外を問わず、様々なものがあります。急性期を経過した後には、慢性に移行しないようにしなければなりませんし、正常な機能をいち早く取り戻す必要があります。この科目では、身体を各部に分け、よく見られる損傷・疾患について復習し、それによって低下した機能を回復するための訓練法を身につけることを目的とします。

到達目標

各部の損傷・疾患について説明できる。
損傷・疾患に対する機能回復訓練法を説明できる。

授業の内容

今まで学習した損傷・疾患の中で、とくに柔道整復師が施術することの多いものについて復習し、それらの機能回復訓練法を学んでいきます。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。
授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

受験資格　：　5分の4以上の出席が必要です。
評価　　：　期末テスト（80%）、中間テスト（20%）に平常点が加味されます。

テキスト

配布資料

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節 1 肩関節の機能回復について学ぶ	肩関節の機能回復法を復習する
	到達目標	肩関節の機能回復法を説明できる	
2	授業内容	肩関節 2 肩関節の機能回復について学ぶ	肩関節の構造･機能を予習しておく 肩関節の機能回復法を復習する
	到達目標	肩関節の機能回復法を説明できる	
3	授業内容	肘関節 肘関節の機能回復について学ぶ	肘関節の構造･機能を予習しておく 肘関節の機能回復法を復習する
	到達目標	肘関節の機能回復法を説明できる	
4	授業内容	手関節 手関節の機能回復について学ぶ	手関節の構造･機能を予習しておく 手関節の機能回復法を復習する
	到達目標	手関節の機能回復法を説明できる	
5	授業内容	指部 指部の機能回復について学ぶ	指部の構造･機能を予習しておく 指部の機能回復法を復習する
	到達目標	指部の機能回復法を説明できる	
6	授業内容	頸部 1 頸部の機能回復について学ぶ	頸部の構造･機能を予習しておく 頸部の機能回復法を復習する
	到達目標	頸部の機能回復法を説明できる	
7	授業内容	頸部 2 頸部の機能回復について学ぶ	頸部の構造･機能を予習しておく 頸部の機能回復法を復習する
	到達目標	頸部の機能回復法ができる	
8	授業内容	腰部 1 腰部の機能回復について学ぶ	腰部の構造･機能を予習しておく 腰部の機能回復法を復習する
	到達目標	腰部の機能回復法を説明できる	
9	授業内容	腰部 2 腰部の機能回復について学ぶ	腰部の構造･機能を予習しておく 腰部の機能回復法を復習する
	到達目標	腰部の機能回復法を説明できる	
10	授業内容	股関節 股関節の機能回復について学ぶ	股関節の構造･機能を予習しておく 股関節の機能回復法を復習する
	到達目標	股関節の機能回復法を説明できる	
11	授業内容	膝関節 1 膝関節の機能回復について学ぶ	膝関節の構造･機能を予習しておく 膝関節の機能回復法を復習する
	到達目標	膝関節の機能回復法を説明できる	
12	授業内容	膝関節 2 膝関節の機能回復について学ぶ	膝関節の構造･機能を予習しておく 膝関節の機能回復法を復習する
	到達目標	膝関節の機能回復法を説明できる	
13	授業内容	足関節 1 足関節の機能回復について学ぶ	足関節の構造･機能を予習しておく 足関節の機能回復法を復習する
	到達目標	足関節の機能回復法を説明できる	
14	授業内容	足関節 2 足関節の機能回復について学ぶ	足関節の構造･機能を予習しておく 足関節の機能回復法を復習する
	到達目標	足関節の機能回復法を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容についての知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	脇坂　謙三	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
柔道整復学とくに上肢を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論 1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
2	授業内容	柔整理論 2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
3	授業内容	柔整理論 3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
4	授業内容	柔整理論 4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
5	授業内容	柔整理論 5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
6	授業内容	柔整理論 6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
7	授業内容	柔整理論 7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
8	授業内容	柔整理論 8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
9	授業内容	柔整理論 9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
10	授業内容	柔整理論 10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
11	授業内容	柔整理論 11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
12	授業内容	柔整理論 12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
13	授業内容	柔整理論 13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
14	授業内容	柔整理論 14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
生理学を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
生理学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　根来英雄、貴邑冨久子編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、生理学 1 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
2	授業内容	生理学 2 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
3	授業内容	生理学 3 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
4	授業内容	生理学 4 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
5	授業内容	生理学 5 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
6	授業内容	生理学 6 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
7	授業内容	生理学 7 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
8	授業内容	生理学 8 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
9	授業内容	生理学 9 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
10	授業内容	生理学 10 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
11	授業内容	生理学 11 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
12	授業内容	生理学 12 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
13	授業内容	生理学 13 生理学ついて復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
14	授業内容	生理学 14 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅲ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	３年　後期		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
解剖学を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
解剖学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　岸清・石塚寛編　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、解剖学 1 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
2	授業内容	解剖学 2 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
3	授業内容	解剖学 3 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
4	授業内容	解剖学 4 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
5	授業内容	解剖学 5 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
6	授業内容	解剖学 6 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
7	授業内容	解剖学 7 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
8	授業内容	解剖学 8 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
9	授業内容	解剖学 9 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
10	授業内容	解剖学 10 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
11	授業内容	解剖学 11 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
12	授業内容	解剖学 12 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
13	授業内容	解剖学 13 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
14	授業内容	解剖学 14 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅳ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
柔道整復学とくに下肢・体幹及び総論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論 1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
2	授業内容	柔整理論 2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
3	授業内容	柔整理論 3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
4	授業内容	柔整理論 4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
5	授業内容	柔整理論 5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
6	授業内容	柔整理論 6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
7	授業内容	柔整理論 7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
8	授業内容	柔整理論 8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
9	授業内容	柔整理論 9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
10	授業内容	柔整理論 10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
11	授業内容	柔整理論 11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
12	授業内容	柔整理論 12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
13	授業内容	柔整理論 13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
14	授業内容	柔整理論 14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅴ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高 奥田　香苗 田中　健吾	E-mail		実施時期	３年　時間外		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
衛生学・公衆衛生学、病理学概論、外科学概論を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
衛生学・公衆衛生学　改訂第5版　全国柔道整復学校協会監修　鈴木庄亮他著　南江堂 病理学概論　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　関根一郎著　医歯薬出版株式会社 外科学概論　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　炭山嘉伸編　南江堂 柔道整復師のための救急医学　全国柔道整復学校協会監修　太田祥一編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日：　　時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、衛生学・公衆衛生学 1 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学･公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
2	授業内容	衛生学・公衆衛生学 2 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学･公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
3	授業内容	衛生学・公衆衛生学 3 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学･公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
4	授業内容	衛生学・公衆衛生学 4 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学･公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
5	授業内容	衛生学・公衆衛生学 5 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学･公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を説明できる	
6	授業内容	病理学概論 1 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
7	授業内容	病理学概論 2 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
8	授業内容	病理学概論 3 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
9	授業内容	病理学概論 4 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
10	授業内容	病理学概論 5 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を説明できる	
11	授業内容	外科学概論 1 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
12	授業内容	外科学概論 2 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
13	授業内容	外科学概論 3 外科学概論ついて復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
14	授業内容	外科学概論 4 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅵ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	神内　伸晃	E-mail		実施時期	３年　時間外		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
一般臨床医学、関係法規を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
一般臨床医学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　奈良信雄他著編　医歯薬出版株式会社 関係法規　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　前田和彦編著　医歯薬出版株式会社
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、一般臨床医学 1 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
2	授業内容	一般臨床医学 2 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
3	授業内容	一般臨床医学 3 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
4	授業内容	一般臨床医学 4 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明ができる	
5	授業内容	一般臨床医学 5 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
6	授業内容	一般臨床医学 6 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
7	授業内容	一般臨床医学 7 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
8	授業内容	一般臨床医学 8 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
9	授業内容	一般臨床医学 9 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
10	授業内容	一般臨床医学 10 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を説明できる	
11	授業内容	関係法規 1 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
12	授業内容	関係法規 2 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
13	授業内容	関係法規 3 関係法規ついて復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
14	授業内容	関係法規 4 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅶ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	３年　時間外		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・昇華し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
運動学、整形外科学、リハビリテーション医学を中心とした内容を把握・理解し説明できる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
運動学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　齋藤宏・鴨下博著　医歯薬出版株式会社 整形外科学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　松下隆・福林徹・田渕健一編　南江堂 リハビリテーション医学　改訂第3版　全国柔道整復学校協会監修　三上真弘編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、運動学 1 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
2	授業内容	運動学 2 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
3	授業内容	運動学 3 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
4	授業内容	運動学 4 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を説明できる	
5	授業内容	整形外科学 1 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
6	授業内容	整形外科学 2 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
7	授業内容	整形外科学 3 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
8	授業内容	整形外科学 4 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
9	授業内容	整形外科学 5 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を説明できる	
10	授業内容	リハビリテーション医学 1 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
11	授業内容	リハビリテーション医学 2 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
12	授業内容	リハビリテーション医学 3 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
13	授業内容	リハビリテーション医学 4 リハビリテーション医学ついて復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
14	授業内容	リハビリテーション医学 5 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅷ	単位数	1単位	授業形態	演習	実務経験の有無	有 ・ (無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	３年　　時間外		

授業の目的
専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。
到達目標
国家試験必修問題を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。
授業の内容
過去の国家試験問題を解きます。必修問題出題項目に合わせた様々なタイプの問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。 卒業認定試験（筆記試験）を行い、その点数をもって100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション　必修問題 1 出題項目について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
2	授業内容	必修問題 2 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
3	授業内容	必修問題 3 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
4	授業内容	必修問題 4 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
5	授業内容	必修問題 5 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
6	授業内容	必修問題 6 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
7	授業内容	必修問題 7 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
8	授業内容	必修問題 8 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
9	授業内容	必修問題 9 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
10	授業内容	必修問題 10 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
11	授業内容	必修問題 11 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
12	授業内容	必修問題 12 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
13	授業内容	必修問題 13 必修問題ついて復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
14	授業内容	必修問題 14 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	
15	授業内容	必修問題 15 必修問題について復習する	授業で解いた問題を復習しておく
	到達目標	必修問題を理解できる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 Ⅰ-1	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	神内　伸晃	E-mail		実施時期	1年　　前期		

授業の目的

柔道整復師として施術を行うにあたり、副子固定・包帯固定が必要となる。このため包帯を巻く技術が必要とされる。この科目では、各損傷の固定法を学ぶ前に、基礎となる包帯の技術を習得することを目的とします。

到達目標

患部の処置をするときに被覆や固定を行う基礎包帯法を行うことができる。

授業の内容

包帯の名称・使用方法・使用目的・使用部位などの基礎的内容を習得し、各部位に合わせた包帯法を練習する。また患者の体格により基礎通りに包帯を巻けないことがあり、様々な体格の人に包帯を巻き、基礎的な包帯法をマスターする。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

ケーシーの着用（重ね着不可）、学生証
全授業数の4/5以上の出席を必要とする。
写真・動画は禁止する。
時計・アクセサリー類は外すこと。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100点満点で評価します。
欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学実技編・配布プリント

参考文献・図書

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
包帯固定学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、包帯の基礎 包帯の名称、包帯の基本的な操作について学ぶ	包帯の名称や操作方法を復習する
	到達目標	包帯の名称を理解し、基本的な操作ができる	
2	授業内容	基本包帯法 1 隻指帯・全指帯について学ぶ	隻指帯･全指帯の巻き方を予習しておく 隻指帯・全指帯の復習する
	到達目標	隻指帯・全指帯ができる	
3	授業内容	基本包帯法 2 指頭包か帯・総指包か帯について学ぶ	指頭包か帯･総指包か帯の巻き方を予習しておく 指頭包か帯･総指包か帯の復習する
	到達目標	指頭包か帯・総指包か帯ができる	
4	授業内容	基本包帯法 3 手関節上行・下行麦穂帯について学ぶ	手の麦穂帯の巻き方を予習しておく 手の麦穂帯の復習する
	到達目標	手関節上行・下行麦穂帯ができる	
5	授業内容	基本包帯法 4 前腕の包帯・三角巾について学ぶ	折転帯の巻き方を予習しておく 折転帯の復習する
	到達目標	前腕の包帯・三角巾ができる	
6	授業内容	基本包帯法 5 肘関節集合・離開亀甲帯について学ぶ	亀甲帯の巻き方を予習しておく 亀甲帯の復習する
	到達目標	肘関節集合・離開亀甲帯ができる	
7	授業内容	基本包帯法 6 肩関節上行・下行麦穂帯について学ぶ	肩の麦穂帯の巻き方を予習しておく 肩の麦穂帯の復習する
	到達目標	肩関節上行・下行麦穂帯ができる	
8	授業内容	まとめ 1 ここまでの実習内容について復習する	ここまでの実習を復習しておく 指摘された内容について見直す
	到達目標	今後の学習目標を見つける	
9	授業内容	基本包帯法 7 鐙帯・総趾包か帯について学ぶ	鐙帯･総趾包か帯の巻き方を予習しておく 鐙帯・総趾包か帯の復習する
	到達目標	鐙帯・総趾包か帯ができる	
10	授業内容	基本包帯法 8 足関節上行・下行麦穂帯について学ぶ	足の麦穂帯の巻き方を予習しておく 足の麦穂帯の復習する
	到達目標	足関節上行・下行麦穂帯ができる	
11	授業内容	基本包帯法 9 踵離開亀甲帯について学ぶ	亀甲帯の巻き方を予習しておく 亀甲帯の復習する
	到達目標	踵離開亀甲帯ができる	
12	授業内容	基本包帯法 10 下腿の包帯について学ぶ	折転帯の巻き方を予習しておく 折転帯の復習する
	到達目標	下腿の包帯ができる	
13	授業内容	基本包帯法 11 膝関節集合・離開亀甲帯について学ぶ	亀甲帯の巻き方を予習しておく 亀甲帯の復習する
	到達目標	膝関節集合・離開亀甲帯ができる	
14	授業内容	まとめ 2 本実習の内容について復習する	本実習の内容を復習する
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 3(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術・知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 Ⅰ-2	単位数	1　単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30　時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	１年　　前期		

授業の目的

柔道整復師が使用する種々の固定材料の作製方法・固定方法を学び、技術を習得することを目的とします。

到達目標

副子の作製ができる。

副子の特性を理解し、適材適所の選択ができる。

副子を用いた固定ができる。

授業の内容

上肢に使用する副子を作製する。
各種固定材料(包帯、絆創膏、金属副子、厚紙副子、木製副子、合成樹脂副子など)を使用して、主として上肢の固定を行う。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

ケーシーを着用し、学生証を提示して下さい。
実技に携帯電話、スマートフォンは必要ありません。手にすることは禁じます。
欠席した場合、友人から習う、担当教員に質問するなどして自分でフォローしておいて下さい。
実技の内容により、脱衣が必要になるので、脱衣可能な衣服を用意しておいて下さい。
授業途中に退室すると欠席扱いとしますので、やむを得ず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得て下さい。

成績評価

授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。

期末試験を行い、100 点満点で評価します。

欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第 6 版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第 2 版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
包帯固定学　改訂第 2 版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、晒包帯作製、固定材料 晒包帯、固定材料について学ぶ	固定材料について復習する
	到達目標	晒包帯を作製し、固定材料の種類を説明できる	
2	授業内容	上肢のクラーメル作製 1、8 字帯 上肢のクラーメル、8 字帯について学ぶ	8 字帯を予習しておく 8 字帯を復習する
	到達目標	8 字包帯での固定ができる	
3	授業内容	上肢のクラーメル作製 2 上肢のクラーメルを完成させる	クラーメル副子を予習しておく
	到達目標	上肢のクラーメルの作製ができる	
4	授業内容	副子固定 1 厚紙副子・枕子を使用した固定について学ぶ	軟性固定材料を予習しておく 固定法を復習する
	到達目標	厚紙副子を作製し、固定することができる	
5	授業内容	副子固定 2 アルミ副子を使用した固定について学ぶ	アルミ副子について予習しておく 固定法の復習をしておく
	到達目標	アルミ副子を作製し、固定することができる	
6	授業内容	副子固定 3 厚紙副子・アルミ副子・呉氏副子を使用した固定について学ぶ	固定材料の種類を予習しておく 固定法を復習する
	到達目標	上肢の固定ができる	
7	授業内容	副子固定 4 上肢のクラーメル固定について学ぶ	上肢のクラーメル固定を復習しておく
	到達目標	上肢の固定ができる	
8	授業内容	まとめ 1(評価を含む) ここまでの実習内容について復習する	ここまでの内容を復習しておく
	到達目標	各固定材料の扱いを修得している	
9	授業内容	副子固定 5 上肢のクラーメル固定及び提肘について学ぶ	クラーメル副子固定･三角巾操作方法を予習しておく クラーメル固定を復習する
	到達目標	上肢の堤肘までの固定ができる	
10	授業内容	熱可塑性キャスト 熱可塑性キャスト固定について学ぶ	キャスト材について予習しておく キャスト材固定を復習する
	到達目標	熱可塑性キャストを作製し、固定ができる	
11	授業内容	冠名包帯 ヴェルポー包帯、ジュール包帯について学ぶ	感銘包帯を予習しておく 冠名包帯法を復習する
	到達目標	冠名包帯法ができる	
12	授業内容	ギプスシーネ ギプスシーネ固定について学ぶ	ギプスシーネを予習しておく ギプスシーネ固定法を復習する
	到達目標	ギプスシーネを作製し、固定ができる	
13	授業内容	吸水硬化性キャスト 吸水硬化性キャスト固定について学ぶ	吸水性キャスト材での固定法を復習する
	到達目標	吸水硬化性キャストを作製し、固定ができる	
14	授業内容	まとめ 2 本実習の内容について復習する	基礎包帯法と硬性材料固定法を復習する
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 3(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について技術・知識を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	1年　　後期		

授業の目的
柔道整復師が施術を行う上では、来院された患者さんの損傷・疾患が何であるかを判断し、他に合併しているものがないかを確認する必要があります。この科目では、今後学んでいく内容を踏まえ、判断・確認のための診察・検査が行えるように、基本的な知識・技術を身につけることを目的とします。
到達目標
基本的な診察・検査の内容を説明できる。 基本的な診察・検査を実施できる。
授業の内容
施術録の扱い方や記載方法、計画の作製などについて学びます。 診察法の内容、基本的な検査の方法について学びます。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、施術録 施術録と診察する項目について学ぶ	施術録の内容と診察する項目を復習する
	到達目標	施術録の内容と診察する項目を説明できる	
2	授業内容	肢長・周径 肢長・周径の計測について学ぶ	骨指標を予習しておく 肢長・周径の計測を復習する
	到達目標	肢長・周径の計測を説明し、実施できる	
3	授業内容	感覚 表在感覚について学ぶ	皮膚表面の部位を予習しておく 表在感覚を復習する
	到達目標	表在感覚を説明し、検査を実施できる	
4	授業内容	反射 1 腱反射について学ぶ	腱の部位を予習しておく 腱反射を復習する
	到達目標	腱反射を説明し、検査を実施できる	
5	授業内容	反射 2 病的反射について学ぶ	四肢末端の部位を予習しておく 病的反射を復習する
	到達目標	病的反射を説明し、検査を実施できる	
6	授業内容	反射 3 表在反射・自律神経反射について学ぶ	各部の名称を予習しておく 表在反射･自律神経反射を復習する
	到達目標	表在反射・自律神経反射を説明し、検査を実施できる	
7	授業内容	関節可動域 1 上肢の関節可動域について学ぶ	上肢の関節を予習しておく 上肢の関節可動域を復習する
	到達目標	上肢の関節可動域を説明し、検査を実施できる	
8	授業内容	関節可動域 2 下肢の関節可動域について学ぶ	下肢の関節を予習しておく 下肢の関節可動域を復習する
	到達目標	下肢の関節可動域を説明し、検査を実施できる	
9	授業内容	関節可動域 3 体幹の関節可動域について学ぶ	体幹の関節を予習する 体幹の関節可動域を復習する
	到達目標	体幹の関節可動域を説明し、検査を実施できる	
10	授業内容	徒手筋力検査 1 上肢の筋力検査について学ぶ	上肢の筋を予習しておく 上肢の筋力検査を復習する
	到達目標	上肢の筋力検査を説明し、検査を実施できる	
11	授業内容	徒手筋力検査 2 下肢の筋力検査について学ぶ	下肢の筋を予習しておく 下肢の筋力検査を復習する
	到達目標	下肢の筋力検査を説明し、検査を実施できる	
12	授業内容	関節弛緩性 関節弛緩性検査について学ぶ	各部の関節を予習しておく 関節弛緩性検査を復習する
	到達目標	関節弛緩を説明し、検査を実施できる	
13	授業内容	バイタルサイン 脈拍・血圧などについて学ぶ	バイタルを予習しておく 脈拍・血圧の検査を復習する
	到達目標	脈拍・血圧を説明し、検査を実施できる	
14	授業内容	まとめ１ 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 Ⅲ-1	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的

柔道整復師として業務を行う上で必要となる上肢の損傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。

到達目標

上肢の外傷について、判断・評価・処置ができる。

授業の内容

本科目では鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼・上腕骨外科頸骨折・肩関節脱臼・上腕骨骨幹部骨折・上腕骨顆上骨折の施術目的・方法について学習していきます。

また、各部位の整復・固定法を学習していきます。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。

授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。

固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。

欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。

承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。

期末試験を行い、100点満点で評価します。

欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。

合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
包帯固定学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、冠名包帯法、鎖骨骨折 1 鎖骨骨折の固定材料、デゾー包帯、鎖骨骨折の診察・整復法について学ぶ	鎖骨骨折の診察･整復を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、デゾー包帯、鎖骨骨折の診察・整復ができる	
2	授業内容	鎖骨骨折 2 鎖骨骨折の固定法について学ぶ	鎖骨骨折の固定法を予習しておく 鎖骨骨折の固定を復習する
	到達目標	鎖骨骨折の固定ができる	
3	授業内容	鎖骨骨折 3 鎖骨骨折の整復法・固定法について学ぶ	鎖骨骨折の治療法を予習しておく 鎖骨骨折の治療を復習する
	到達目標	上記以外の鎖骨骨折の整復・固定ができる	
4	授業内容	肩鎖関節脱臼 1 肩鎖関節脱臼の固定材料、診察・整復法について学ぶ	肩鎖関節脱臼を予習しておく 肩鎖関節脱臼の診察･整復を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、肩鎖関節脱臼の診察・整復ができる	
5	授業内容	肩鎖関節脱臼 2 肩鎖関節脱臼の固定法について学ぶ	肩鎖関節脱臼の固定法を予習しておく 肩鎖関節脱臼の治療を復習する
	到達目標	肩鎖関節脱臼の固定ができる	
6	授業内容	上腕骨外科頸骨折 上腕骨外科頸骨折の診察・整復法・固定法について学ぶ	外科頸骨折を予習しておく 外科頸骨折の治療を復習する
	到達目標	外科頸骨折の診察・整復・固定ができる	
7	授業内容	肩関節脱臼 1 肩関節脱臼の固定材料・診察・整復法について学ぶ	肩関節脱臼を予習しておく 肩関節脱臼の診察･整復を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、肩関節脱臼の診察・整復ができる	
8	授業内容	肩関節脱臼 2 肩関節脱臼の固定法について学ぶ	肩関節脱臼を予習しておく 肩関節脱臼の固定を復習する
	到達目標	肩関節脱臼の固定ができる	
9	授業内容	肩関節脱臼 3 肩関節脱臼の各種整復法について学ぶ	肩関節脱臼を予習しておく 肩関節脱臼の治療を復習する
	到達目標	肩関節脱臼の整復ができる	
10	授業内容	肩関節軟部組織損傷 1 肩関節の徒手検査法について学ぶ	肩関節軟部組織損傷を予習しておく 肩関節の徒手検査を復習する
	到達目標	肩関節の徒手検査ができる	
11	授業内容	肩関節軟部組織損傷 2 腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷に診察・検査法について学ぶ	肩関節軟部組織損傷を予習しておく 腱板損傷・長頭腱損傷の診察・検査を復習する
	到達目標	腱板損傷・長頭腱損傷の診察・検査ができる	
12	授業内容	上腕骨骨幹部骨折 骨幹部骨折の診察・治療について学ぶ	上腕骨骨幹部骨折を予習しておく 骨幹部骨折の治療を復習する
	到達目標	骨幹部骨折の固定ができる	
13	授業内容	上腕骨顆上骨折 顆上骨折の診察・整復法・固定法について学ぶ	上腕骨顆上骨折を予習しておく 顆上骨折の治療を復習する
	到達目標	顆上骨折の治療について理解できる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 Ⅲ-2	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	松下　寿	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師として業務を行う上で必要となる上肢の損傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。
到達目標
上肢の外傷について、判断・評価・処置ができる。
授業の内容
本科目では肘関節脱臼・肘内障・肘頭骨折・肘関節軟部組織損傷・前腕部軟部組織損傷・コーレス骨折・舟状骨骨折・月状骨脱臼・中手骨頸部骨折・PIP関節脱臼の施術目的・方法について学習していきます。 また、各部位の整復・固定法を学習していきます。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 包帯固定学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肘関節脱臼 1 肘関節脱臼の固定材料、診察・整復法について学ぶ	肘関節脱臼の診察･整復を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、診察・整復ができる	
2	授業内容	肘関節脱臼 2 肘関節脱臼の固定法について学ぶ	肘関節脱臼の固定法を予習しておく 肘関節脱臼の治療を復習する
	到達目標	肘関節脱臼の固定ができる	
3	授業内容	肘内障 肘内障の診察・整復法について学ぶ	肘内障を予習しておく 肘内障の診察・整復を復習する
	到達目標	肘内障の診察・整復ができる	
4	授業内容	肘頭骨折 肘頭骨折の診察・治療法について学ぶ	肘頭骨折を予習しておく 肘頭骨折の治療を復習する
	到達目標	肘頭骨折の診察・治療が理解できる	
5	授業内容	肘関節軟部組織損傷 肘関節の徒手検査・テーピングについて学ぶ	肘関節軟部組織損傷を予習しておく 検査・テーピングを復習する
	到達目標	軟部組織損傷の検査・テーピングができる	
6	授業内容	前腕部軟部組織損傷 前腕部の徒手検査について学ぶ	前腕部軟部組織損傷を予習しておく 検査を復習する
	到達目標	軟部組織損傷の検査ができる	
7	授業内容	コーレス骨折 1 コーレス骨折の固定材料について学ぶ	コーレス骨折を予習しておく
	到達目標	固定材料を作製できる	
8	授業内容	コーレス骨折 2 コーレス骨折の診察・整復法について学ぶ	コーレス骨折を予習しておく コーレス骨折の診察･整復を復習する
	到達目標	コーレス骨折の診察・整復ができる	
9	授業内容	コーレス骨折 3 コーレス骨折の固定法について学ぶ	コーレス骨折を予習しておく コーレス骨折の治療を復習する
	到達目標	コーレス骨折の固定ができる	
10	授業内容	舟状骨骨折 舟状骨骨折の診察・治療法について学ぶ	舟状骨骨折を予習しておく 舟状骨骨折の診察･治療を復習する
	到達目標	舟状骨骨折の診察・治療が理解できる	
11	授業内容	月状骨脱臼 月状骨脱臼の診察・治療法について学ぶ	月状骨脱臼を予習しておく 月状骨脱臼の診察･治療を復習する
	到達目標	月状骨脱臼の診察・治療が理解できる	
12	授業内容	中手骨頸部骨折 頸部骨折の診察・治療について学ぶ	中手骨頸部骨折を予習しておく 第 5 中手骨頸部骨折の固定を復習する
	到達目標	第 5 中手骨頸部骨折の固定ができる	
13	授業内容	指節間関節脱臼 指節間関節脱臼の診察・治療について学ぶ	指節間関節脱臼を予習しておく 第 2 指 PIP 関節脱臼の固定を復習する
	到達目標	第 2 指 PIP 関節脱臼の固定ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技Ⅳ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	松下　寿	E-mail		実施時期	1年　後期		

授業の目的

柔道整復師として業務を行う上で必要となる下肢の損傷(骨折・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。

到達目標

下肢の損傷に対し必要な診察を行い、判断・評価をすることができる。
損傷に対し必要な処置・施術をすることができる。

授業の内容

本科目では大腿部打撲・ハムストリングス肉ばなれ・膝関節軟部組織損傷・膝蓋骨骨折・下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂・下腿三頭筋肉ばなれ・足関節靭帯損傷の施術目的・方法について学習していきます。

また、各部位の整復・固定法を学習していきます。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。

授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。

固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。

欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。

承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100点満点で評価します。
欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
包帯固定学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、下肢のクラーメル作製 下肢のクラーメルについて学ぶ	クラーメル作製手順を復習する
	到達目標	クラーメルを作製することができる	
2	授業内容	大腿部打撲 大腿部打撲の診察・検査法について学ぶ	大腿部打撲を予習しておく 大腿部打撲の診察･検査を復習する
	到達目標	大腿打撲の診察・検査ができる	
3	授業内容	ハムストリングス肉ばなれ ハムストリングス肉ばなれの診察・検査法について学ぶ	ハムストリングス肉ばなれを予習しておく ハムストリングス肉ばなれの診察・検査を復習する
	到達目標	ハムストリングス肉ばなれの診察・検査ができる	
4	授業内容	大腿部のテーピング 大腿四頭筋・ハムストリングスのテープ・キネシオテープについて学ぶ	大腿部の損傷を予習しておく 大腿部のテーピングを復習する
	到達目標	テーピングを貼付することができる	
5	授業内容	半月板損傷 半月板損傷の診察・検査法について学ぶ	半月板損傷を予習しておく 半月板損傷の診察･検査を復習する
	到達目標	半月板損傷の診察・検査ができる	
6	授業内容	側腹靭帯損傷 側副靭帯損傷の診察・検査法について学ぶ	側副靭帯損傷を予習しておく 側副靭帯損傷の診察･検査を復習する
	到達目標	側副靭帯損傷の診察・検査ができる	
7	授業内容	十字靭帯損傷 十字靭帯損傷の診察・検査法について学ぶ	十字靭帯損傷を予習しておく 十字靭帯損傷の診察･検査を復習する
	到達目標	十字靭帯損傷の診察・検査ができる	
8	授業内容	膝関節の固定 膝関節の厚紙副子固定・テーピングについて学ぶ	膝関節軟部組織損傷を予習しておく 膝関節の固定を復習する
	到達目標	膝関節の固定ができる	
9	授業内容	膝蓋骨骨折・脱臼 膝蓋骨の固定材料、診察・治療について学ぶ	膝蓋骨骨折・脱臼を予習する 膝蓋骨骨折･脱臼の治療を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、治療について理解することができる	
10	授業内容	下腿骨骨幹部骨折 下腿骨骨幹部骨折の診察・治療法について学ぶ	下腿骨骨幹部骨折を予習しておく 下腿骨骨幹部骨折の固定を復習する
	到達目標	下腿骨骨幹部骨折の診察・固定ができる	
11	授業内容	アキレス腱断裂 アキレス腱断裂の診察・検査法・固定法について学ぶ	アキレス腱断裂を予習しておく アキレス腱断裂の固定を復習する
	到達目標	アキレス腱断裂の検査・固定ができる	
12	授業内容	下腿三頭筋肉ばなれ 下腿三頭筋肉ばなれの診察・検査法・テーピングについて学ぶ	下腿三頭筋肉ばなれを予習しておく 下腿三頭筋肉ばなれの診察･検査を復習する
	到達目標	下腿三頭筋肉ばなれの診察・検査ができる	
13	授業内容	足関節外側靭帯損傷 1 足関節の固定材料、外側靭帯損傷の診察・検査法について学ぶ	足関節外側靭帯損傷を予習しておく 外側靭帯損傷の診察･検査を復習する
	到達目標	固定材料を作製し、外側靭帯損傷の診察・検査ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	基礎柔道整復実技 V	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	２年　　前期		

授業の目的
柔道整復師として業務を行う上で必要となる体幹(及び上肢・下肢)の損傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対し処置・施術が行えるように、考える力と対応できる能力を身につけることを目的とする。
到達目標
下肢の損傷に対し必要な診察を行い、判断・評価をすることができる。 損傷に対し必要な処置・施術をすることができる。
授業の内容
本科目では足関節外側靭帯損傷・顎関節脱臼・頸部軟部組織損傷・肋骨骨折・腰部軟部組織損傷・指骨骨折・マレットフィンガー・腱鞘炎の施術目的・方法について学習していきます。 また、各部位の整復・固定法を学習していきます。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 柔道整復学・実技編　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂 包帯固定学　改訂第2版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、足関節外側靭帯損傷 2 靭帯損傷の厚紙副子固定について学ぶ	外側靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	外側靭帯損傷の厚紙副子固定ができる	
2	授業内容	足関節外側靭帯損傷 3 靭帯損傷のバスケット・ウィーブ固定について学ぶ	外側靭帯損傷を予習しておく 外側靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	外側靭帯損傷のバスケット・ウィーブ固定ができる	
3	授業内容	足関節外側靭帯損傷 4 靭帯損傷のフィギュアエイト固定について学ぶ	外側靭帯損傷を予習しておく 外側靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	外側靭帯損傷のフィギュアエイト固定ができる	
4	授業内容	顎関節脱臼 顎関節脱臼の診察・治療法について学ぶ	顎関節脱臼を予習しておく 顎関節脱臼の診察･治療を復習する
	到達目標	顎関節脱臼の診察・治療ができる	
5	授業内容	頸部軟部組織損傷 1 頸部の徒手検査法について学ぶ	頸部軟部組織損傷を予習しておく 頸部の徒手検査を復習する
	到達目標	頸部の徒手検査ができる	
6	授業内容	頸部軟部組織損傷 2 頸部の徒手検査法について学ぶ	頸部軟部組織損傷を予習しておく 頸部の徒手検査を復習する
	到達目標	頸部の徒手検査ができる	
7	授業内容	肋骨骨折 1 肋骨骨折の厚紙副子・診察について学ぶ	肋骨骨折を予習しておく 肋骨骨折の診察を復習する
	到達目標	厚紙副子を作製し、肋骨骨折の診察ができる	
8	授業内容	肋骨骨折 2 肋骨骨折の固定法について学ぶ	肋骨骨折を予習しておく 肋骨骨折の固定を復習する
	到達目標	肋骨骨折の固定ができる	
9	授業内容	腰部軟部組織損傷 1 腰部の徒手検査法について学ぶ	腰部軟部組織損傷を予習する 腰部の徒手検査を復習する
	到達目標	腰部の徒手検査法ができる	
10	授業内容	腰部軟部組織損傷 2 腰部の徒手検査法について学ぶ	腰部軟部組織損傷を予習する 腰部の徒手検査を復習する
	到達目標	腰部の徒手検査法ができる	
11	授業内容	指骨骨折 指骨骨折の診察・治療法について学ぶ	指骨骨折を予習しておく 指骨骨折の診察･治療を復習する
	到達目標	指骨骨折の診察・治療ができる	
12	授業内容	マレットフィンガー マレットフィンガーの診察・治療法について学ぶ	マレットフィンガーを予習しておく マレットフィンガーの診察･治療を復習する
	到達目標	マレットフィンガーの診察・治療ができる	
13	授業内容	腱鞘炎 ばね指、ド・ケルバン病の診察・検査法について学ぶ	腱鞘炎を予習しておく 腱鞘炎の診察・検査を復習する
	到達目標	腱鞘炎の診察・検査ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容を行うことができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	脇坂　謙三 奥田　香苗	E-mail		実施時期	２年　後期		

授業の目的
臨床柔道整復学Ⅲで学んだ様々な治療法を実際に体験することを目的とします。
到達目標
治療法の基本動作を実施できる。 解剖・機能を説明できる。 治療機序を説明できる。
授業の内容
治療法の基本動作を学び、実際に体験し実践していきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復学・理論編　改訂第6版　全国柔道整復学校協会監修　教科書委員会編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手技療法 1 軽擦・強擦・叩打・振戦法を実践する	基本の手技療法を予習しておく 手技療法を復習する
	到達目標	軽擦・強擦・叩打・振戦法を実施できる	
2	授業内容	手技療法 2 圧迫・揉捏法を実践する	基本の手技療法を予習しておく 手技療法を復習する
	到達目標	圧迫・揉捏法を実施できる	
3	授業内容	手技療法 3 頸部・腰部の手技療法を実践する	基本の手技療法を予習しておく 頸部･腰部の手技療法を復習する
	到達目標	頸部・腰部の手技療法を実施できる	
4	授業内容	運動療法 他動・自動運動を実践する	運動療法を予習しておく 他動・自動運動を復習する
	到達目標	他動・自動運動を実施できる	
5	授業内容	ストレッチング 1 上肢の静的ストレッチ法を実践する	上肢の筋を予習しておく 上肢のストレッチ法を復習する
	到達目標	上肢の静的ストレッチ法を実施できる	
6	授業内容	ストレッチング 2 下肢の静的ストレッチ法を実践する	下肢の筋を予習しておく 下肢のストレッチ法を復習する
	到達目標	下肢の静的ストレッチ法を実施できる	
7	授業内容	ストレッチング 3 その他のストレッチ法を実践する	ＰＮＦストレッチなどを予習しておく その他のストレッチ法を復習する
	到達目標	その他のストレッチ法を実施できる	
8	授業内容	ＡＫＡ ＡＫＡを実践する	ＡＫＡについて予習しておく ＡＫＡを復習する
	到達目標	ＡＫＡを実施できる	
9	授業内容	カイロプラクティック 1 ガンステッドテクニックを実践する	ガンステッドテクニックについて予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを実施できる	
10	授業内容	カイロプラクティック 2 ガンステッドテクニックを実践する	ガンステッドテクニックについて予習しておく ガンステッドテクニックを復習する
	到達目標	ガンステッドテクニックを実施できる	
11	授業内容	カイロプラクティック 3 ＳＯＴを実践する	ＳＯＴについて予習しておく ＳＯＴを復習する
	到達目標	ＳＯＴを実施できる	
12	授業内容	カイロプラクティック 4 ＡＫを実践する	ＡＫについて予習しておく ＡＫを復習する
	到達目標	ＡＫを実施できる	
13	授業内容	美顔マッサージ 美顔マッサージを実践する	美顔マッサージについて予習しておく 美顔マッサージを復習する
	到達目標	美顔マッサージを実施できる	
14	授業内容	美顔マッサージ 美顔マッサージを実践できる	美顔マッサージについて予習しておく 美顔マッサージを復習する
	到達目標	美顔マッサージを実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		接骨院開業（山村）　元プロ野球チームトレーナー（松元）					
担当者	山村　宣延 松元　隆司	E-mail		実施時期	２年　　後期		

授業の目的
柔道整復師に必要な競技者の運動器の機能障害を見極める力をつけるとともに、機能回復訓練法の知識と技術を身につけることを目的とします。
到達目標
競技者の運動器の機能障害を説明できる。 種々の機能訓練法を説明できる。 種々の機能訓練法を行うことができる。
授業の内容
臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら学んでいきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
リハビリテーション医学　改訂第４版　全国柔道整復学校協会監修　三上真弘編　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、トレーニングの実際 1 下肢のトレーニングについて学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢のトレーニングを復習する
	到達目標	下肢のトレーニングを実施できる	
2	授業内容	トレーニングの実際 2 下肢のトレーニングについて学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下肢のトレーニングを復習する
	到達目標	下肢のトレーニングを実施できる	
3	授業内容	トレーニングの実際 3 体幹のトレーニングについて学ぶ	体幹の解剖を予習しておく 体幹のトレーニングを復習する
	到達目標	体幹のトレーニングを実施できる	
4	授業内容	トレーニングの実際 4 上肢のトレーニングについて学ぶ	上肢の解剖を予習しておく 上肢のトレーニングを復習する
	到達目標	上肢のトレーニングを実施できる	
5	授業内容	関節モビライゼーション 関節モビライゼーションの方法と実際について学ぶ	関節モビライゼーションを予習しておく 関節モビライゼーションの方法と実際を復習する
	到達目標	関節モビライゼーションの方法を理解し、実施できる	
6	授業内容	ＰＮＦ ＰＮＦの方法と実際について学ぶ	ＰＮＦを予習しておく ＰＮＦの方法と実際を復習する
	到達目標	ＰＮＦの方法を理解し、実施できる	
7	授業内容	ＤＹＪＯＣ(動的関節制動訓練) ＤＹＪＯＣの方法と実際について学ぶ	ＤＹＪＯＣを予習しておく ＤＹＪＯＣの方法と実際を復習する
	到達目標	ＤＹＪＯＣの方法を理解し、実施できる	
8	授業内容	認知運動療法 認知運動療法の方法と実際について学ぶ	認知運動療法を予習しておく 認知運動療法の方法と実際を復習する
	到達目標	認知運動療法の方法を理解し、実施できる	
9	授業内容	痛みに対する治療 痛みに対するアプローチについて学ぶ	痛みのメカニズムを予習しておく 痛みに対するアプローチを復習する
	到達目標	痛みに対するアプローチを理解し、実施できる	
10	授業内容	伝統的治療法 スポーツ外傷に対する伝統的治療法と実際について学ぶ	伝統的治療法を予習しておく 伝統的治療法を復習する
	到達目標	スポーツ外傷に対する伝統的治療法を理解し、実施できる	
11	授業内容	部位別訓練法 1 膝のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	膝の構造を予習しておく 膝のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	膝のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実施できる	
12	授業内容	部位別訓練法 2 腰のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 腰のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	腰のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実施できる	
13	授業内容	部位別訓練法 3 肩のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	腰の構造を予習しておく 肩のスポーツ外傷と訓練法を復習する
	到達目標	肩のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実施できる	
14	授業内容	後療法の実際 実際の症例を通じて後療法を行う	障害のリハビリテーションを予習しておく 実際の症例に対する後療法を復習する
	到達目標	実際の症例を通じて後療法の実際を理解し、訓練法を実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅲ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	吉田　勲生	E-mail			実施時期	2年　後期	

授業の目的
傷病者や怪我人に対する応急処置・救急処置を理解し、かつ実際に実施できる能力を身につけることを目的とします。
到達目標
疾病・疾患を説明できる。 疾病・疾患に対し適切な判断できる。 応急手当・救急処置を実施できる。
授業の内容
赤十字基礎講習や救急法講習で行われている内容に沿って学びます。 応急手当・処置が必要な怪我や病気等について学びます。 怪我や病気等の発生時に必要な応急手当・処置について学びます。 テーピング等の固定材料を使用して固定法を実施します。
注意事項
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退出は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（実技試験）を行い、100点満点で評価します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復師のための救急医学　全国柔道整復学校協会監修　太田祥一編　南江堂
参考文献・図書
赤十字救急法基礎講習　第5版 赤十字救急法講習 CGと実写動画で覚えるテーピングナビ
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手当の基本 手当の基本を学ぶ	手当の基本を復習する
	到達目標	手当の基本を説明できる	
2	授業内容	応急手当・救急処置 1 一次救命処置について学ぶ	応急処置を予習しておく 一次救命処置を復習する
	到達目標	一次救命処置を説明できる	
3	授業内容	応急手当・救急処置 2 外科的応急処置について学ぶ	外科的疾患を予習しておく 外科的応急処置を復習する
	到達目標	外科的応急処置を説明し、実施できる	
4	授業内容	応急手当・救急処置 3 急病とその対処法について学ぶ	緊急を要する疾患を予習しておく 急病とその対処法を復習する
	到達目標	急病とその対処法を説明し、実施できる	
5	授業内容	応急手当・救急処置 4 怪我等に対する応急手当について学ぶ	骨折・脱臼、開放性損傷を予習しておく 怪我等に対する応急手当を復習する
	到達目標	怪我等に対する応急手当を説明し、実施できる	
6	授業内容	応急手当・救急処置 5 搬送・救護について学ぶ	搬送時の注意を予習しておく 搬送・救護を復習する
	到達目標	搬送・救護を説明し、実施できる	
7	授業内容	まとめ 1 応急手当・救急処置の内容について確認・復習する	これまでの内容について復習しておく 応急手当・救急処置を復習する
	到達目標	応急手当・救急処置の内容を習得している	
8	授業内容	固定 1 肩部の固定について実技を交えて学ぶ	肩部の解剖を予習しておく 肩部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	肩部の固定ができる	
9	授業内容	テーピング・固定 2 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定ができる	
10	授業内容	テーピング・固定 3 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定ができる	
11	授業内容	テーピング・固定 4 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝関節のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定ができる	
12	授業内容	テーピング・固定 5 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	大腿部の解剖を予習しておく 大腿部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定を行うことができる	
13	授業内容	テーピング・固定 6 下腿部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	下腿部の解剖を予習しておく 下腿部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	下腿部のテーピング・固定ができる	
14	授業内容	テーピング・固定 7 足部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足部の解剖を予習しておく 足部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足部のテーピング・固定ができる	
15	授業内容	まとめ 2(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅳ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		実業団チームトレーナー					
担当者	川西　弘晃	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的
スポーツトレーナーの実践内容に必要な知識と技術を身につけることを目的とします。
到達目標
スポーツトレーナーの補助ができる。
授業の内容
各種競技の特性を学び、コンディショニングとケア、コメディカルを実践していく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日：　木曜日 時間：　16 時 20 分～　17 時 20 分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔道 1 柔道の外傷に対する処置と予防法について学ぶ	柔道の外傷を予習しておく 柔道の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	柔道の外傷に対する処置と予防法を説明できる	
2	授業内容	柔道 2 柔道の外傷に対する処置と予防法を実践する	柔道の外傷を予習しておく 柔道の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	柔道の外傷に対する処置と予防法を実施できる	
3	授業内容	野球 1 野球の障害に対する施術と予防法について学ぶ	野球の障害を予習しておく 野球の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	野球の障害に対する施術と予防法を説明できる	
4	授業内容	野球 2 野球の障害に対する施術と予防法を実践する	野球の障害を予習しておく 野球の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	野球の障害に対する施術と予防法を実施できる	
5	授業内容	サッカー1 サッカーの外傷に対する処置と予防法について学ぶ	サッカーの外傷を予習しておく サッカーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	サッカーの外傷に対する処置と予防法を説明できる	
6	授業内容	サッカー2 サッカーの外傷に対する処置と予防法を実践する	サッカーの外傷を予習しておく サッカーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	サッカーの外傷に対する処置と予防法を実施できる	
7	授業内容	ラグビー1 ラグビーの外傷に対する処置と予防法について学ぶ	ラグビーの外傷を予習しておく ラグビーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	ラグビーの外傷に対する処置と予防法を説明できる	
8	授業内容	ラグビー2 ラグビーの外傷に対する処置と予防法を実践する	ラグビーの外傷を予習しておく ラグビーの外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	ラグビーの外傷に対する処置と予防法を実施できる	
9	授業内容	陸上競技 1 長距離走の障害に対する施術と予防法について学ぶ	長距離走の障害を予習しておく 長距離走の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	長距離走の障害に対する施術と予防法を説明できる	
10	授業内容	陸上競技 2 長距離走の障害に対する施術と予防法を実践できる	長距離走の障害を予習しておく 長距離走の障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	長距離走の障害に対する施術と予防法を実施できる	
11	授業内容	陸上競技 3 短距離走の外傷に対する処置と予防法について学ぶ	短距離走の外傷を予習しておく 短距離走の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	短距離走の外傷における処置と予防法を説明できる	
12	授業内容	陸上競技 4 短距離走の外傷における処置と予防法を実践する	短距離走の外傷を予習しておく 短距離走の外傷に対する処置と予防法を復習する
	到達目標	短距離走の外傷における処置と予防法を実施する	
13	授業内容	バレーボール バレーボールの障害における施術と予防法を学び、実践する	バレーボールの障害を予習しておく バレーボールの障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	バレーボールの障害における施術と予防法を説明し、実施できる	
14	授業内容	バスケットボール バスケットボールの障害における施術と予防法を学び、実践する	バスケットボールの障害を予習しておく バスケットボールの障害に対する施術と予防法を復習する
	到達目標	バスケットボールの障害における施術と予防法を説明し、実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅳ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		接骨院開業					
担当者	川端　崇司	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的
接骨院の開業を考え、接骨院の施術内容に必要な知識と技術を身につけることを目的とします。
到達目標
接骨院業務の補助ができる。
授業の内容
各種傷病の特性を学び、コンディショニングとケアを実践していく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。
テキスト
配布資料
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、頸椎捻挫 1 頸椎捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	頸椎捻挫を予習しておく 頸椎捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	頸椎捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
2	授業内容	頸椎捻挫 2 頸椎捻挫の診察・処置・施術を実践する	頸椎捻挫について予習しておく 頸椎捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	頸椎捻挫の診察・処置・施術を実施できる	
3	授業内容	腰椎捻挫・背部挫傷 1 腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術について学ぶ	腰椎捻挫･背部挫傷を予習しておく 腰椎捻挫･背部挫傷の診察･処置･施術を復習する
	到達目標	腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を説明できる	
4	授業内容	腰椎捻挫・背部挫傷 1 腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を実践する	腰椎捻挫･背部挫傷を予習しておく 腰椎捻挫･背部挫傷の診察･処置･施術を復習する
	到達目標	腰椎捻挫・背部挫傷の診察・処置・施術を実施できる	
5	授業内容	肩関節捻挫 1 肩関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	肩関節捻挫を予習しておく 肩関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肩関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
6	授業内容	肩関節捻挫 2 肩関節捻挫の診察・処置・施術を実践する	肩関節捻挫を予習しておく 肩関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肩関節捻挫の診察・処置・施術を実施できる	
7	授業内容	肘関節捻挫 肘関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	肘関節捻挫を予習しておく 肘関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	肘関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
8	授業内容	手関節捻挫 手関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	手関節捻挫を予習しておく 手関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	手関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
9	授業内容	股関節捻挫 股関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	股関節捻挫を予習しておく 股関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	股関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
10	授業内容	大腿部挫傷 大腿部挫傷の診察・処置・施術について学び、実践する	大腿部挫傷を予習しておく 大腿部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	大腿部挫傷の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
11	授業内容	膝関節捻挫 1 膝関節捻挫の診察・処置・施術について学ぶ	膝関節捻挫を予習しておく 膝関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の診察・処置・施術を説明できる	
12	授業内容	膝関節捻挫 2 膝関節捻挫の診察・処置・施術を実践する	膝関節捻挫を予習しておく 膝関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	膝関節捻挫の診察・処置・施術を実施できる	
13	授業内容	下腿部挫傷 下腿部挫傷の診察・処置・施術について学び、実践する	下腿部挫傷を予習しておく 下腿部挫傷の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	下腿部挫傷の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
14	授業内容	足関節捻挫 足関節捻挫の診察・処置・施術について学び、実践する	足関節捻挫を予習しておく 足関節捻挫の診察・処置・施術を復習する
	到達目標	足関節捻挫の診察・処置・施術を説明し、実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅴ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	神内　伸晃	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的

高齢者及び競技者の生理学的特徴、変化で得た知識を活用し、高齢者及び競技者に対する具体的な外傷予防の手法を身につける。

到達目標

高齢者及び競技者に対する具体的な外傷予防プログラムを組み立てて、実施できる。

授業の内容

本科目では高齢者と競技者の生理学的特徴に応じた予防法を学び、プログラムをたて、実施できるよう指導したうえで、グループに分かれて、実施できるようにする。

注意事項

実技の授業中は運動ができる服装とし、ハーフパンツを着用してください。
授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100点満点で評価します。
欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

競技者の外傷予防　全国柔道整復学学校協会監修　医歯薬出版

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、高齢者外傷予防 高齢者の生理的特徴と下肢の筋力トレーニングについて学ぶ	高齢者の生理学的特徴を復習する
	到達目標	高齢者の生理学的特徴を理解し、下肢の筋力トレーニングを行うことができる	
2	授業内容	高齢者の外傷予防エクササイズ 高齢者のトレーニング方法(バランス・呼吸機能トレーニング)について学ぶ	高齢者の外傷予防エクササイズを予習しておく 高齢者のトレーニング方法を復習する
	到達目標	高齢者のトレーニング方法(バランス・呼吸機能トレーニング)が実施できる	
3	授業内容	競技者の外傷予防概論、競技者の外傷予防のためのメディカルチェック 1 メディカルチェックについて学ぶ	競技者の外傷予防概論を予習しておく競技者の外傷予防概論､メディカルチェックを復習する
	到達目標	メディカルチェックを理解し、行うことができる	
4	授業内容	競技者の外傷予防のためのメディカルチェック 2 メディカルチェックについて学ぶ	競技者特性を予習しておく 競技者の外傷予防のためのメディカルチェックを復習する
	到達目標	メディカルチェックを理解し、行うことができる	
5	授業内容	競技者の外傷予防に必要なコンディショニング 1 競技者の外傷予防のためのセルフケア(ローラー・アイシング)について学ぶ	競技者特性を予習しておく 競技者の外傷予防に必要なコンディショニングを復習する
	到達目標	競技者の外傷予防のためのセルフケアを実施することができる	
6	授業内容	競技者の外傷予防に必要なコンディショニング 2 競技者の外傷予防のためのケア(ストレッッチ・マッサージ)について学ぶ	競技者特性を予習しておく 競技者の外傷予防のためのケアを復習する
	到達目標	競技者の外傷予防のためのケアを実施することができる	
7	授業内容	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際 1 可動域拡大のためのトレーニング・スタビリティトレーニングについて学ぶ	筋力トレーニングを予習しておく 外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際を復習する
	到達目標	外傷予防に必要な筋力トレーニングを実施することができる	
8	授業内容	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際 2 下肢のトレーニング・ウォーミングアップ・プレパレーショントレーニングについて学ぶ	筋力トレーニングを予習しておく､外傷予防に必要な筋力トレーニングを復習する
	到達目標	各種トレーニングを実施することができる	
9	授業内容	障害予防に対するトレーニング 1 肩関節の障害予防のためのトレーニングについて学ぶ	肩関節の障害について予習しておく､肩関節の障害予防のためのトレーニングを復習する
	到達目標	肩関節の障害予防のためのトレーニングを実施できる	
10	授業内容	障害予防に対するトレーニング 2 腰痛予防のためのトレーニングについて学ぶ	腰痛について予習しておく 腰痛予防のためのトレーニングを復習する
	到達目標	腰痛予防のためのトレーニングを実施できる	
11	授業内容	障害予防に対するトレーニング 3 前十字靭帯損傷予防のためのトレーニングについて学ぶ	前十字靭帯損傷を予習しておく 前十字靭帯損傷予防のためのトレーニングを予習しておく
	到達目標	前十字靭帯損傷予防のためのトレーニングを実施できる	
12	授業内容	障害予防に対するトレーニング 4 足関節捻挫予防のためのトレーニングについて学ぶ	足関節捻挫を予習しておく 足関節捻挫予防のためのトレーニングを復習する
	到達目標	足関節捻挫予防のためのトレーニングを実施できる	
13	授業内容	スポーツテーピング スポーツテーピングの方法と実際について学ぶ	スポーツテーピングを予習しておく､スポーツテーピングの方法と実際を復習する
	到達目標	スポーツテーピングを行うことができる	
14	授業内容	年齢別外傷予防 成長期の外傷予防について学ぶ	成長期の外傷予防を予習しておく 成長期の外傷予防を復習する
	到達目標	成長期の外傷予防について説明できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅵ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	棚原　勝平	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的

卒業後、トレーナーとしての実践を考えてテーピング、キネシオテープが実施できることを目的とします。

卒業後、リハビリテーション科で勤務される場合を想定した器具の使い方の習得と、機能回復訓練法が実施できることを目的とします。

到達目標

実践で使えるテーピング、キネシオテープが施術できる。

物療機器の取り扱いと、機能回復訓練法が実施できる。

授業の内容

本科目ではテーピングの基礎、各関節の特性を教授し、外傷処置や外傷予防のテーピング、キネシオを重ねて練習する。また、実際に物療機器を用いて、その扱い方を教授し、機能回復訓練に必要な技術を学び練習する。

注意事項

実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。

授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。

固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。

欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。

承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。

期末試験を行い、100点満点で評価します。

欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。

合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

配布資料

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、テーピング 1 テーピングの基礎・扱い方について学ぶ	テーピングの基礎･扱い方を復習する
	到達目標	テーピングの基礎を説明し、扱うことができる	
2	授業内容	テーピング 2 一般的なテーピング法について学ぶ	テープについて予習しておく テーピングについて復習する
	到達目標	ホワイトテーピングを扱うことができる	
3	授業内容	テーピング 3 肩部のテーピング法について学ぶ	肩部の構造を予習しておく 肩部のテーピングを復習する
	到達目標	肩部のテーピング法ができる	
4	授業内容	テーピング 4 肩部のキネシオテープ法について学ぶ	肩部の構造を予習しておく 肩部のキネシオテープを復習する
	到達目標	肩部のキネシオテープ法ができる	
5	授業内容	テーピング 5 肘部のテーピング法について学ぶ	肘部の構造を予習しておく 肘部のテーピングを復習する
	到達目標	肘部のテーピング法ができる	
6	授業内容	テーピング 6 肘部のキネシオテープ法について学ぶ	肘部の構造を予習しておく 肘部のキネシオテープを復習する
	到達目標	肘部のキネシオテープ法ができる	
7	授業内容	テーピング 7 手関節、手指部のテーピング法について学ぶ	手関節､手指部の構造を予習しておく 手関節､手指部のテーピングを復習する
	到達目標	手関節、手指部のテーピング法ができる	
8	授業内容	まとめ 1 各部のテーピングについて確認・復習する	第 7 回までの内容を復習しておく
	到達目標	テーピングの内容を習得している	
9	授業内容	機能回復訓練 1 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	上肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
10	授業内容	機能回復訓練 2 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	上肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	上肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
11	授業内容	機能回復訓練 3 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	下肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
12	授業内容	機能回復訓練 4 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	下肢の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	下肢の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
13	授業内容	機能回復訓練 5 体幹の物理療法と徒手筋力増強訓練法について学ぶ	体幹の機能障害部位に対するセルフケアを予習しておく 体幹の物理療法と徒手筋力増強訓練法を復習する
	到達目標	体幹の物理療法と徒手筋力増強訓練法ができる	
14	授業内容	まとめ 2 物理療法と徒手筋力増強訓練法について確認・復習する	ここまでの内容を復習しておく
	到達目標	物理療法と徒手筋力増強訓練法の内容を習得している	
15	授業内容	まとめ 3(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

明治東洋医学院専門学校

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技Ⅶ	単位数	１単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		デイサービス勤務					
担当者	関　寛樹	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的
高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっています。特に介護予防における機能訓練指導員の責務は大きく、柔道整復師はその一員として認められている以上、今後益々　その担い手として介護分野への参画が期待されます。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事を目的とします。
到達目標
機能訓練指導員として必要な知識を正確に説明でき、業務を行うにあたり実施する運動などを確実に指導することができるようになる。
授業の内容
柔道整復師と機能訓練指導(介護保険制度の理解・機能訓練指導員としての知識と技術の習得)を実技を交えて学んでいきます。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
成績評価
授業時間数の 4/5 以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100 点満点で評価します。 欠席－5 点、遅刻・早退－2 点、忘れ物－2 点、その他授業態度などで減点します。 合計点が 60 点以上で合格となります。
テキスト
柔道整復師と機能訓練指導員(機能訓練指導員養成テキスト）全国柔道整復学校協会監修　南江堂
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、コグニサイズ コグニサイズを実践する	コグニサイズを復習する
	到達目標	コグニサイズを正確に実施できる	
2	授業内容	自立支援 ポジショニングとシーティングについて学ぶ	自立支援について予習しておく ポジショニングとシーティングを復習する
	到達目標	ポジショニングとシーティングを実施できる	
3	授業内容	口腔機能と心肺機能 嘔吐物の対処方法と心肺蘇生を実践する	口腔機能と心肺機能を予習しておく 嘔吐物の対処方法と心肺蘇生を復習する
	到達目標	嘔吐物の対処方法・心肺蘇生を正確に実施できる	
4	授業内容	機能訓練の評価 疼痛・バランスの評価を実践する	機能訓練の評価を予習しておく 疼痛･バランスの評価を復習する
	到達目標	疼痛・バランスの評価を実施できる	
5	授業内容	ロコモティブシンドローム ロコチェックとロコトレを実践する	ロコモティブシンドロームを予習しておく ロコチェックとロコトレを復習する
	到達目標	ロコチェックとロコトレを実施できる	
6	授業内容	転倒 転倒の要因と予防法を実践する	転倒について予習しておく 転倒の要因と予防法を復習する
	到達目標	転倒の要因と予防法を実施できる	
7	授業内容	器具を用いない運動 1 背臥位での軽運動と予備運動を実践する	器具を用いない運動を予習しておく 背臥位での軽運動と予備運動を復習する
	到達目標	背臥位での軽運動と予備運動を実施できる	
8	授業内容	器具を用いない運動 2 立位でのストレッチングを実践する	器具を用いない運動を予習しておく 立位でのストレッチングを復習する
	到達目標	立位でのストレッチングを実施できる	
9	授業内容	器具を用いない運動 3 上肢・体幹のストレッチングと筋力を向上させる運動を実践する	器具を用いない運動を予習しておく 上肢・体幹の運動を復習する
	到達目標	上肢・体幹の運動を実施できる	
10	授業内容	器具を用いない運動 4 下肢の筋力強化運動を実践する	器具を用いない運動を予習しておく 下肢の運動を復習する
	到達目標	下肢の筋力強化運動を実施できる	
11	授業内容	器具を用いた運動 1 ボール、チューブを用いた運動を実践する	器具を用いた運動を予習しておく ボール､チューブを用いた運動を復習する
	到達目標	ボール、チューブを用いた運動を実施できる	
12	授業内容	器具を用いた運動 2 チューブ、ポールを用いた運動を実践する	器具を用いた運動を予習しておく チューブ､ポールを用いた運動を復習する
	到達目標	チューブ、ポールを用いた運動を実施できる	
13	授業内容	各部の運動 1 上半身の運動を実践する	各部の運動について予習しておく 上半身の運動を復習する
	到達目標	上半身の運動を実施できる	
14	授業内容	各部の運動 2 下半身の運動を実践する	各部の運動について予習しておく 下半身の運動を復習する
	到達目標	下半身の運動を実施できる	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

明治東洋医学院専門学校

【柔整学科授業シラバス】

科目名	伝承柔道整復実技	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	脇坂　謙三	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的

柔道整復師が関わることが多い傷病でありながら、これまでの実技授業で扱われることが少なかった項目を取り上げ、その項目に対する知識と施術法を身につけることを目的とします。

到達目標

各項目の詳細を説明することができる。
急性症状に対する処置ができる。
施術を行うことができる。

授業の内容

腰部・頚肩部・膝関節など主だった部位のよくみられる傷病を取り上げて学んでいきます。

注意事項

・項目が多いので、積極的に実習を行ってください。
・実習時はケーシー・学生証を着用し半パン、Tシャツ、サンダル不可
・実技の授業に携帯電話、スマートフォンは必要ないので、電源は切っておくこと。
（使用している場合や呼び出し音が鳴った場合は平常点の減点対象とします）
・途中退室した場合、欠席扱いになることがありますので、やむおえず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得てください。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。
期末試験を行い、100点満点で評価します。
欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間：

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、ぎっくり腰 ぎっくり腰の概要・処置・施術を学び実践する	ぎっくり腰の概要・処置・施術を復習する
	到達目標	ぎっくり腰について説明し、処置・施術を実施できる	
2	授業内容	寝違い 寝違いの概要・処置・施術を学び実践する	寝違いについて予習しておく 寝違いの概要・処置・施術を復習する
	到達目標	寝違いについて説明し、処置・施術を実施できる	
3	授業内容	テニス肘 テニス肘の概要・施術を学び実践する	テニス肘について予習しておく テニス肘の概要･施術を復習する
	到達目標	テニス肘について説明し、施術を実施できる	
4	授業内容	腰痛 腰痛の概要・施術を学び実践する	腰痛について予習しておく 腰痛の概要・施術を復習する
	到達目標	腰痛について説明し、施術を実施できる	
5	授業内容	腱鞘炎 腱鞘炎の概要・施術を学び実践する	腱鞘炎について予習しておく 腱鞘炎の概要・施術を復習する
	到達目標	腱鞘炎について説明し、施術を実施できる	
6	授業内容	肩こり 肩こりの概要・施術を学び実践する	肩こりについて予習しておく 肩こりの概要・施術を復習する
	到達目標	肩こりついて説明し、施術を実施できる	
7	授業内容	膝関節痛 膝関節痛の概要・施術を学び実践する	膝関節痛について予習しておく 膝関節痛の概要･施術を復習する
	到達目標	膝関節痛について説明し、施術を実施できる	
8	授業内容	胸郭出口症候群 胸郭出口症候群の概要・施術を学び実践する	胸郭出口症候群について予習しておく 胸郭出口症候群の概要･施術を復習する
	到達目標	胸郭出口症候群について説明し、施術を実践できる	
9	授業内容	坐骨神経痛 坐骨神経痛の概要・施術を学び実践する	坐骨神経痛について予習しておく 坐骨神経痛の概要･施術を復習する
	到達目標	坐骨神経痛について説明し、施術を実施できる	
10	授業内容	手根管症候群 手根管症候群の概要・施術を学び実践する	手根管症候群について予習しておく 手根管症候群の概要･施術を復習する
	到達目標	手根管症候群について説明し、施術を実施できる	
11	授業内容	外反母趾 外反母趾の概要・施術を学び実践する	外反母趾について予習しておく 外反母趾の概要･施術を復習する
	到達目標	外反母趾について説明し、施術を実施できる	
12	授業内容	足関節痛 足関節痛の概要・施術を学び実践する	足関節痛について予習しておく 足関節痛の概要･施術を復習する
	到達目標	足関節痛について説明し、施術と実施できる	
13	授業内容	五十肩 五十肩の概要・施術を学び実践する	五十肩について予習しておく 五十肩の概要・施術を復習する
	到達目標	五十肩について説明し、施術を実施できる	
14	授業内容	仙腸関節痛 仙腸関節痛の概要・施術を学び実践する	仙腸関節痛について予習しておく 仙腸関節痛の概要･施術を復習する
	到達目標	仙腸関節痛について説明し、施術を実施できる	
15	授業内容	まとめ（評価含む） 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復実技Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	奥田　香苗 脇坂　謙三	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的
認定実技審査を踏まえて、面接、診断、整復、固定について実習を行います。
到達目標
認定実技試験の課題について知識を深め、認定実技試験に合格できる以上の技術を習得する。
授業の内容
骨折・脱臼では、診断法・整復法・固定法を実習します。 軟部組織損傷では、診断法の主に徒手検査法を実習します。 各項目は1年次2年次に履修した復習であり、ここでは治療における一連の流れについて認定実技審査を踏まえて学習します。
注意事項
項目が多いので、積極的に実習を行ってください。 実習時はケーシー・学生証を着用し半パン、Tシャツ、サンダル不可 実技の授業に携帯電話、スマートフォンは必要ないので、電源は切っておくこと。 （使用している場合や呼び出し音が鳴った場合は平常点の減点対象とします） 途中退室した場合、欠席扱いになることがありますので、やむおえず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得てください。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。60点未満を欠点とし、夏季集中講座に参加することになります。
テキスト
柔道整復学教科書（理論編・実技編）：南江堂
参考文献・図書
解剖学教科書：南江堂 整形外科教科書：南江堂
オフィスアワーについて
曜日： 時間：
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節脱臼 肩関節脱臼の整復および固定について復習する	肩関節脱臼の整復･固定を復習する
	到達目標	肩関節脱臼の整復・固定ができる	
2	授業内容	鎖骨骨折 鎖骨骨折の整復および固定について復習する	鎖骨骨折を予習しておく 鎖骨骨折の整復･固定を復習する
	到達目標	鎖骨骨折の整復・固定ができる	
3	授業内容	肩鎖関節脱臼 肩鎖関節脱臼の整復および固定について復習する	肩鎖関節脱臼を予習しておく 肩鎖関節脱臼の整復･固定を復習する
	到達目標	肩鎖関節脱臼の整復・固定ができる	
4	授業内容	肘関節脱臼 肘関節脱臼の整復および固定について復習する	肘関節脱臼を予習しておく 肘関節脱臼の整復･固定を復習する
	到達目標	肘関節脱臼の整復・固定ができる	
5	授業内容	コーレス骨折 コーレス骨折の整復および固定について復習する	コーレス骨折を予習しておく コーレス骨折の整復･固定を復習する
	到達目標	コーレス骨折の整復・固定ができる	
6	授業内容	上腕骨外科頸骨折、PIP 関節脱臼 上腕骨外科頸骨折の整復と PIP 関節脱臼の固定について復習する	上腕骨外科頸骨折･PIP 関節脱臼を予習しておく 上腕骨外科頸骨折の整復･PIP 関節脱臼の固定を復習する
	到達目標	上腕骨外科頸骨折の整復・PIP 関節脱臼の固定ができる	
7	授業内容	肋骨骨折、肘内障 肋骨骨折の固定と肘内障の整復について復習する	肋骨骨折･肘内障を予習しておく 肋骨骨折の固定･肘内障の整復を復習する
	到達目標	肋骨骨折の固定・肘内障の整復ができる	
8	授業内容	第 5 中手骨骨折 第 5 中手骨骨折の固定について復習する	第 5 中手骨骨折を予習しておく 第 5 中手骨骨折の固定を復習する
	到達目標	第 5 中手骨骨折の固定ができる	
9	授業内容	上腕骨骨幹部骨折 上腕骨骨幹部骨折の固定について復習する	上腕骨骨幹部骨折を予習しておく 上腕骨骨幹部骨折の固定を復習する
	到達目標	上腕骨骨幹部骨折の固定ができる	
10	授業内容	下腿骨骨幹部骨折 下腿骨骨幹部骨折の固定について復習する	下腿骨骨幹部骨折を予習しておく 下腿骨骨幹部骨折の固定を復習する
	到達目標	下腿骨骨幹部骨折の固定ができる	
11	授業内容	アキレス腱断裂 アキレス腱断裂の固定について復習する	アキレス腱断裂を予習しておく アキレス腱断裂の固定を復習する
	到達目標	アキレス腱断裂の固定ができる	
12	授業内容	足関節靭帯損傷 足関節靭帯損傷の副子固定・バスケットウィーブ固定について復習する	足関節靭帯損傷を予習しておく 足関節靭帯損傷の副子固定･バスケットウィーブ固定を復習する
	到達目標	足関節靭帯損傷の副子固定・バスケットウィーブ固定ができる	
13	授業内容	足関節靭帯損傷、膝関節靭帯損傷 足関節靭帯損傷のフィギュアエイト固定と膝関節靭帯損傷の固定について復習する	足関節靭帯損傷の固定､膝関節靭帯損傷の固定を予習しておく 足関節靭帯損傷･膝関節靭帯損傷の固定を復習する
	到達目標	足関節靭帯損傷のフィギュアエイト固定・膝関節靭帯損傷の固定ができる	
14	授業内容	まとめ 1 本実習の内容について復習する	本実習内容を復習しておく
	到達目標	本実習の内容ができるようになる。	
15	授業内容	まとめ 2(評価含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容について知識・技術を修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復実技Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・(無)
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	奥田　香苗 脇坂　謙三	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的
認定実技審査を踏まえて、面接、診断、整復、固定について実習を行います。 今まで学んできた柔道整復学について復習をしていきます。
到達目標
認定実技試験の課題について知識を深め、認定実技試験に合格できる以上の技術を習得する。
授業の内容
骨折・脱臼では、診断法・整復法・固定法を実習します。 軟部組織損傷では、診断法の主に徒手検査法を実習します。 各項目は1年次2年次に履修した復習であり、ここでは治療における一連の流れについて認定実技審査を踏まえて学習します。
注意事項
項目が多いので、積極的に実習を行ってください。 実習時はケーシー・学生証を着用し半パン、Tシャツ、サンダル不可 実技の授業に携帯電話、スマートフォンは必要ないので、電源は切っておくこと。 （使用している場合や呼び出し音が鳴った場合は平常点の減点対象とします） 途中退室した場合、欠席扱いになることがありますので、やむおえず退出するときは事前に担当教員に承諾・確認を得てください。
成績評価
授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。 期末試験を行い、100点満点で評価します。 欠席－5点、遅刻・早退－2点、忘れ物－2点、その他授業態度などで減点します。 合計点が60点以上で合格となります。60点未満を欠点とし、夏季集中講座に参加することになります。
テキスト
柔道整復学教科書（理論編・実技編）：南江堂
参考文献・図書
解剖学教科書：南江堂、整形外科教科書：南江堂
オフィスアワーについて
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、肩関節の損傷 肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察について復習する	肩の損傷を予習しておく 肩腱板損傷､上腕二頭筋長頭腱損傷の診察を復習する
	到達目標	肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察ができる	
2	授業内容	膝関節の損傷 1 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察について復習する	膝関節部の損傷を予習しておく 膝関節側副靭帯損傷､十字靭帯損傷､半月板損傷の診察を復習する
	到達目標	膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察ができる	
3	授業内容	膝関節の損傷 2 膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察について復習する	膝関節部の損傷を予習しておく 膝関節側副靭帯損傷､十字靭帯損傷､半月板損傷の診察を復習する
	到達目標	膝関節側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷の診察ができる	
4	授業内容	大腿部の損傷 ハムストリングス肉ばなれ、大腿四頭筋打撲の診察について復習する	大腿部の損傷を予習しておく ハムストリングス肉ばなれ､大腿四頭筋打撲の診察を復習する
	到達目標	ハムストリングス肉ばなれ、大腿四頭筋打撲の診察ができる	
5	授業内容	下腿部・足関節の損傷 下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の診察について復習する	下腿部･足関節部の損傷を予習しておく 下腿三頭筋損傷､足関節外側靭帯損傷の診察を復習する
	到達目標	下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の診察ができる	
6	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
7	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
8	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
9	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
10	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
11	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
12	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
13	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
14	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	
15	授業内容	認定実技審査項目のまとめ	認定実技審査項目の実技を復習する
	到達目標	認定実技審査項目の実技ができる	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	45時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	1年　　時間外		

授業の目的
医療や介護の現場を見学することで、医療人としての倫理やマナーを理解します。また柔道整復師以外の資格者の実働を見学することで、医療連携や他職種との連携の重要性を理解することを目的とします。
到達目標
医療人としての倫理やマナーや医療連携や他職種との連携の重要性を理解する。
授業の内容
病院や介護施設の見学を中心に、患者利用者様とのコミュニケーションをとり、実習先の担当者からアドバイスを受ける。 この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅱ	単位数	１単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	45 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	２年　　時間外		

授業の目的
有資格者が行う医療面接を見学し、次の段階で施術補助をするときにスムーズに実施できることを目的とする。
到達目標
医療面接の項目やROM、MMT、各種検査法また、物理療法機器の取り扱い方を習得する。
授業の内容
各施術所の柔道整復専科教員免許を有する者による各種項目の指導を仰ぐ。 この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅲ	単位数	１単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	45 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	２年　　時間外		

授業の目的
外傷患者に対する有資格者の補助を行うことにより、座学の知識を深めることを目的とする。
到達目標
医療面接ができる。 外傷の評価や鑑別診断ができる。
授業の内容
スキー場の救護室で、外傷患者の対応を行う。 有資格者の補助を行い、患者及び患部の愛護的な介助法を学習する。 この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておく。
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅳ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	45時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤　雅高	E-mail			実施時期	3年　時間外	

授業の目的
今まで学習してきた内容で対応できる患者様に対して医療面接を行い、自身の判断結果から施術計画を立案できるようになることを目的とする。
到達目標
1人の患者様に対して、医療面接から指導管理まで行えるようになる。
授業の内容
スポーツ現場での実習で、指導者立会いの下、各種障害や外傷に対して医療面接から各種検査、処置、指導管理までを行う。 この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守する。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておく。
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力する。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とする。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	インターンシップ 実習Ⅰ	単位数	1　単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・(無)
		時間数	40　時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期		１年　　時間外	

授業の目的
教員の指導・監督の下で、臨床現場の見学や施術の補助を行うことにより、柔道整復師としての責任感の育成や動機づけの向上を目的とする。
到達目標
受付から患者対応、施術、後療、保険請求の一連の柔道整復業務について、スムーズに実施することができる。
授業の内容
附属治療所での見学や本校教員による各種項目（医療面接・徒手検査）の指導
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、治療所の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	インターンシップ 実習Ⅱ	単位数	1　単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・(無)
		時間数	40　時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	１年　　時間外		

授業の目的
卒業後の就職で接骨院だけではなく、トレーナー（スポーツジム等）で活躍するために、柔道整復師として必要なトレーニング指導法を学ぶ
到達目標
個人にあったパーソナルトレーニングの方法を習得する。併せて、トレーニング器具の使用方法について説明できるようになる。
授業の内容
実際の現場（スポーツジム）で器具等を用いて実習を行う。スポーツジムに勤務する上で必須となる、トレーニング方法（指導法）や筋力増強の方法、ストレッチ、トレーニング器具の使用方法を学ぶ。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておくこと。
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	インターンシップ 実習Ⅲ	単位数	1　単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・(無)
		時間数	40　時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	２年　　時間外		

授業の目的
スポーツ現場で使えるテーピング技術の習得し、治療家としての資質向上を目指す。また、現場実習では選手との信頼関係の築き方を肌で感じ、スポーツ現場におけるリスクマネージメントの重要性について学修する。
到達目標
スポーツ現場で使えるテーピング技術とスポーツ現場におけるリスクマネージメントの重要性を修得すること。
授業の内容
アメリカンフットボールでは、試合開始 3 時間前に集合し、試合終了までの約 5 時間、トレーナーは休む時間もありません。この経験が卒業後、選手のため、患者様のためなど、自分の存在意義、仕事へのやりがいに繋がるものと期待し、次の内容で実施します。 1.実技授業ではアメフト現場で使われるテーピング技術とトレーナーの役割について学びます。 2.現場実習では X リーグ 3 部所属クラブ「アイランズ」の試合に帯同し、選手へのストレッチ、テーピング、ベンチ設営、アイスバッグの準備、ウォーミングアップ指導、担架の準備、応急処置、試合後の傷害評価、更にはオフェンス班、ディフェンス班に分かれてそれぞれの選手の様子を確認します。 3.実習終了後、それぞれ気づきについてディスカッションを行います。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておくこと。
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。

【柔整学科授業シラバス】

科目名	インターンシップ 実習Ⅳ	単位数	1　単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・(無)
		時間数	40　時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤　雅高	E-mail		実施時期	3 年　　時間外		

授業の目的
教員の指導・監督の下で、臨床現場においてコンディショニング・アフターケアやメンテナンスを行うことにより、柔道整復師としての仕事の可能性を再認識し、責任感の育成や動機づけの向上を目的とする。
到達目標
受付から患者対応、施術、後療、保険請求の一連の柔道整復業務について、スムーズに実施することができる。
授業の内容
実際のスポーツ現場でのアスリートのメンテナンスや本校教員による各種項目（検査・後療法）の指導を行う。
注意事項
実習中は服装・身だしなみに留意し、治療所の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。 時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。） 実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておく。
成績評価
全日程への出席 レポート
実習時間外の学習について
実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。 その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。